

第35回 韓日・日韓經濟人會議

THE 35TH KOREA-JAPAN & JAPAN-KOREA
BUSINESS CONFERENCE

2003. 4. 24 ~ 26 DAEGU, KOREA

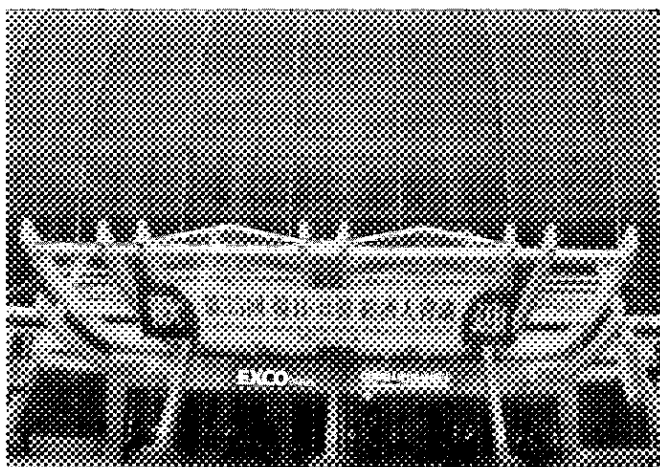
報 告 書

(社)韓日經濟協會

第35回 韓日・日韓經濟人會議



대구공항에서의 환영세레모니



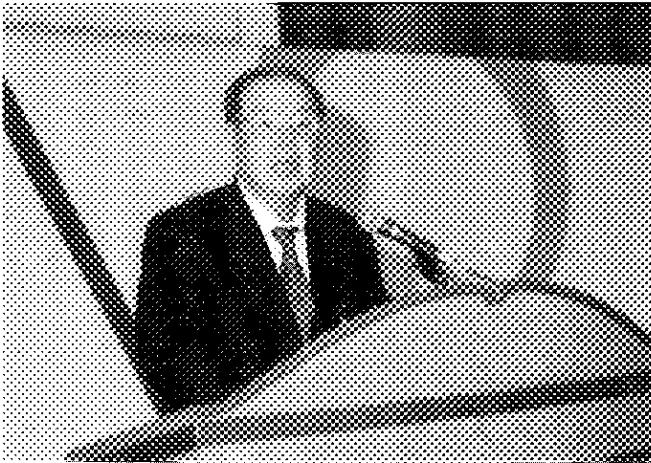
회의장 전경



개 회 식



일본측 단원 성금 전달식



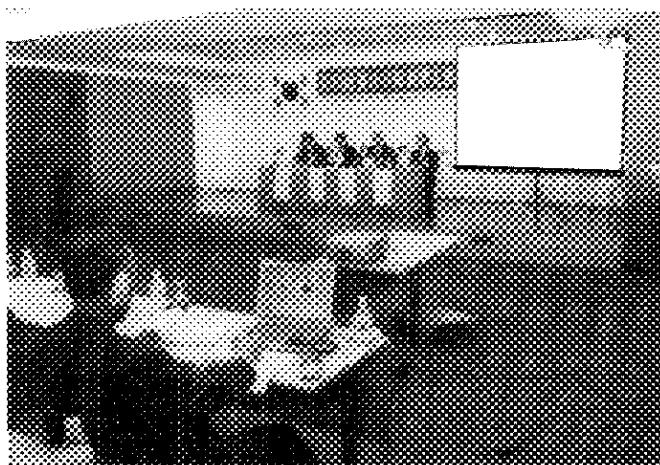
개회인사하는 김상하 한국측 단장



한국측 고문단과 내빈



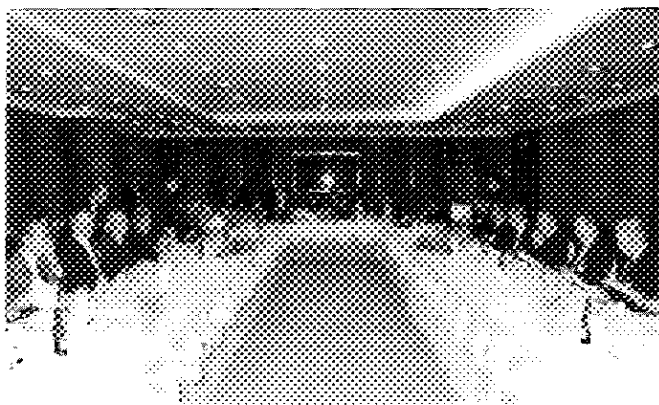
공동주최 리셉션



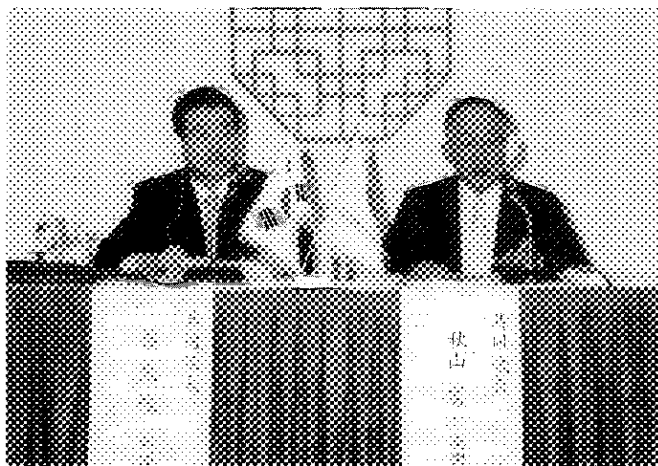
제 1 분과회



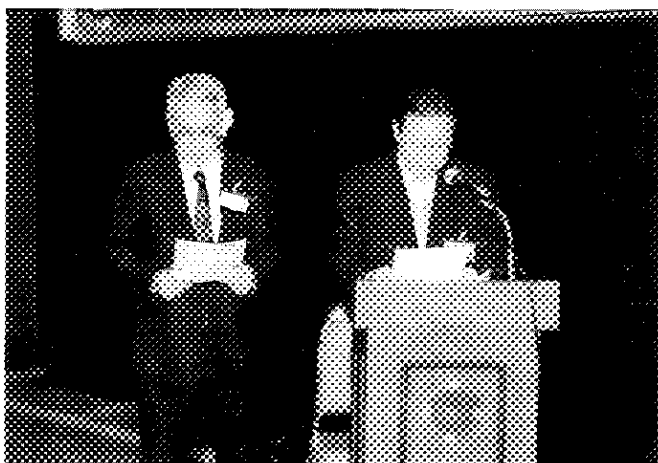
제 2 분과회



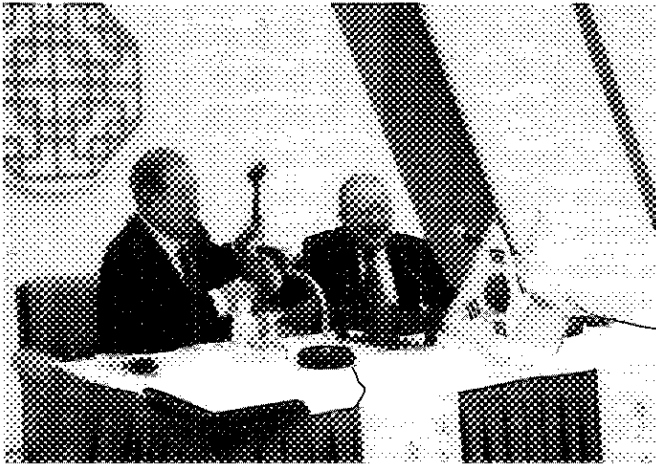
공동성명(안) 심의 오찬회



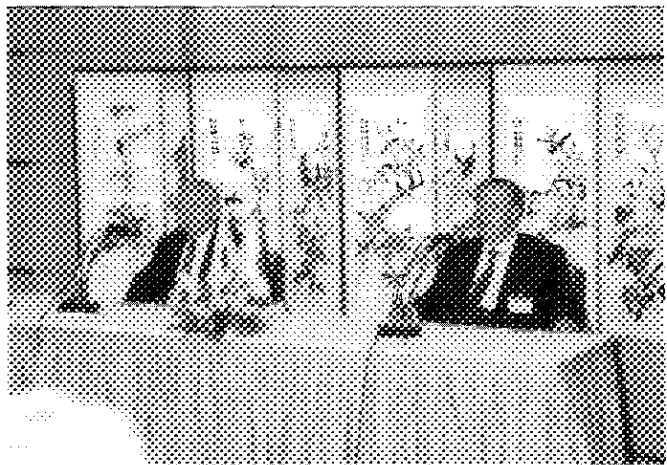
전체 회의를 진행하는 양측 공동의장



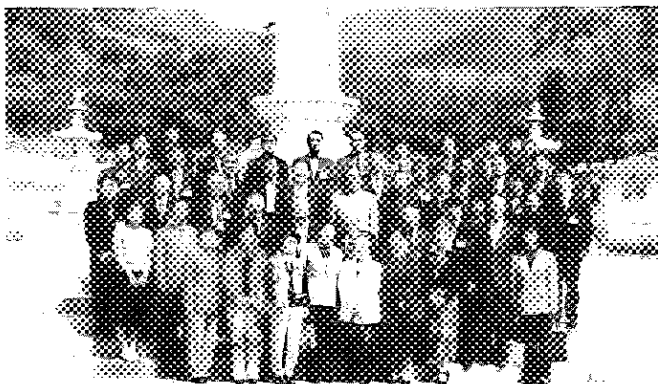
공동성명을 낭독하는 한원석 전무이사



폐회를 선언하는 양측 단장



공동기자회견



동화사 견학

目 次

I. 團長團 禮訪活動	3
II. 共同聲明	5
III. 日程 吳 議題	9
IV. 兩側 代表團 名單	14
V. 開 會 式	
1. 團長人事	
金 相 廈 韓國側 代表團 團長	33
瀨戶 雄三 日本側 代表團 團長	34
2. 來賓祝辭・顧問人事	
曹 海 寧 大邱廣域市 市長	37
高野 紀元 駐韓日本大使	39
金 榮 洙 中小企業協同組合中央會 會長	40
渡辺 修 日本貿易振興會 理事長	42
VI. 基調演說	
1. 韓國側 基調演說	
朴 容 晟 大韓商工會議所 會長	45
2. 日本側 基調演說	
奧田 碩 日本經濟團體連合會 會長	54
VII. 全體會議 I	
1. 一般經過報告 (書面)	60
2. 韓日・日韓產業貿易會議 報告	
李 錫 瑛 韓國側 চে어맨	62
3. 韓日・日韓中堅中小企業委員會 報告	
朴 龍 泰 韓國側 委員長代行	65
4. 韓日・日韓中堅經濟人交流促進團 報告	
薛 元 鳳 韓國側 團長	66

VIII. 第 1 分科會

1. 韓國側 백그라운드 페이퍼

柳 寬 榮 産業研究院 海外産業室 研究委員	69
北岡 隆 三菱電機(株) 相談役	80

IX. 第 2 分科會

1. 韓國側 백그라운드 페이퍼

金 仁 珍 (株)韓進 代表理事 社長	92
---------------------------	----

2. 日本側 백그라운드 페이퍼

飯島 英胤 東レ(株) 相談役	98
-----------------------	----

X. 全體會議 II

1. 主題發表 ①

朴 鳳 圭 産業資源部 貿易投資室長	109
--------------------------	-----

2. 主題發表 ②

韓 元 碩 (財)韓日産業・技術協力財團 專務理事	116
---------------------------------	-----

成田 洋助 (財)日韓産業技術協力財團 專務理事	120
--------------------------------	-----

3. 主題發表 ③

裴 泳 哲 大邱廣域市 投資通商課長	127
--------------------------	-----

4. 韓日協力 成功事例 發表

鄭 台 一 韓國OSG(株) 代表理事	145
---------------------------	-----

5. 韓日 共同提案

李 吉 鉉 (株)昀元 會長, (社)韓日經濟協會 監事	158
------------------------------------	-----

6. 分科會 코디네이터 報告

(1) 第 1 分科會 報告

金 都 亨 韓國側 코디네이터	160
-----------------------	-----

(2) 第 2 分科會 報告

李 洙 喆 韓國側 코디네이터	164
-----------------------	-----

XI. 閉 會 式

1. 團長人事

金 相 廈 韓國側 代表團 團長	167
------------------------	-----

瀬戸 雄三 日本側 代表團 團長	168
------------------------	-----

I. 團長團 禮訪活動 報告

慣例에 依據 訪問國側 團長團 일행은 政府 首腦의 禮訪을 실시하고 있음. 이에 금번 日本側 團長團은 盧武鉉 大統領 각하 이하 韓國政府의 主要人事를 禮訪할 기회를 얻었음. 이 자리에서 日本은 우리와 가깝고 매우 특별한 關係를 갖고 있다며 過去 韓日關係는 때론 좋기도 하고 나쁘기도 했지만 앞으로는 좋은 關係로만 맺었으면 한다고 言及하였으며, 東北亞의 平和와 繁榮을 위해서는 指導者의 外交的 結團도 중요하나 國民 意識이 중요하다면서 兩國間 交易의 擴大均衡과 投資協力 增進을 위한 日本 財界의 協調를 要請하였음.

1. 禮訪 實績

(1) 盧 武 鉉 大統領 禮訪

- 日 時 : 2003. 4. 23 (水) 15:30~16:00
- 場 所 : 靑瓦臺

(2) 黃 斗 淵 外交通商部 通商交渉本部長 禮訪

- 日 時 : 2003. 4. 23 (水) 16:30~17:00
- 場 所 : 政府綜合廳舍 別館 902號

(3) 尹 鎭 植 產業資源部 長官 禮訪

- 日 時 : 2003. 4. 23 (水) 18:00~18:30
- 場 所 : 果川政府綜合廳舍 6層 大會議室

2. 禮訪人事 名單

區 分	姓 名	會 社 名 / 職 位
名譽團長	奧 田 碩 (OKUDA Hiroshi)	(社)日本經濟團體連合會 會長 (社)日韓經濟協會 顧問
團 長	瀨 戶 雄 三 (SETO Yuzo)	アサヒビール[아사히맥주](株) 相談役 (社)日韓經濟協會 會長
副團長	渡 里 杉一郎 (WATARI Sugiichiro)	(株)東芝[도시바] 相談役 (社)日韓經濟協會 副會長

區 分	姓 名	會 社 名 / 職 位
副團長	秋 山 富 一 (AKIYAMA Tomiichi)	住友[스미토모]商事(株) 相談役 (社)日韓經濟協會 副會長
副團長	龜 井 俊 郎 (KAMEI Toshio)	川崎[가와사키]重工業(株) 相談役 (社)日韓經濟協會 副會長
副團長	鈴 木 政 志 (SUZUKI Masashi)	野村[노무라]證券(株) 常任顧問 (社)日韓經濟協會 副會長
名譽會長	藤 村 正 哉 (FUJIMURA Masaya)	三菱[미쓰비시]마테리알(株) 相談役 (社)日韓經濟協會 名譽會長
顧 問	渡 辺 修 (WATANABE Osamu)	日本貿易振興會 理事長 (社)日韓經濟協會 顧問
團 員	和 田 龍 幸 (WADA Ryuko)	(社)日本經濟團體連合會 事務總長 (社)日韓經濟協會 理事
團 員	木 村 伸 一 (KIMURA Shinichi)	三井[미쓰이]物産(株) 顧問 會議 코디네이터
團 員	北 岡 隆 (KITAOKA Takashi)	三菱[미쓰비시]電機(株) 相談役 會議 主題發表者
團 員	御 巫 清 美 (MIKANAGI Kiyoyoshi)	(社)日韓經濟協會 專務理事

※ 陪席：金 相 廈 (社)韓日經濟協會 會長

高野 紀元(TAKANO Toshiyuki) 駐大韓民國日本國特命全權大使

韓 元 碩 (社)韓日經濟協會 專務理事

II. 共 同 聲 明

第35回 韓日・日韓經濟人會議는 2003年 4月 24日, 25日 兩日間 大韓民國 大邱廣域市에서 韓國側에서는 金相廈 團長 等 110名, 日本側에서는 세토 유조(瀬戶 雄三) 團長 等 105名, 그리고 大邱廣域市の 企業人 77名이 參席한 가운데 開催되었다.

1. 먼저 韓日 兩側은 大邱地下鐵 火災事故로 犧牲되신 분들에 對한 깊은 哀悼의 뜻을 表하였다. 또한 日本側에서는 盧武鉉 新任大統領의 就任에 對해 慶賀의 뜻을 表하고, 新政府下에서 加一層의 韓國의 發展과 兩國의 友好關係增進에 對한 期待를 表明하였다.

2. 全體會議에서는 書面으로 一般經過報告, 第4回 韓日産業貿易會議 및 其他 會議의 活動狀況에 對한 報告가 있었으며, 모두 異議 없이 承認되었다.

- (1) 第4回 韓日・日韓産業貿易會議 (2002年 11月, 韓國 濟州道)
- (2) 第13回 韓日・日韓中堅經濟人交流促進團 會議 (2002年 10月, 日本 東京)
- (3) 韓日・日韓中堅中小企業委員會 會議 (日本側 事務局은 (社)日韓經濟協會에서 (財)日韓産業技術協力財團으로 移管되었다.)

3. 먼저 基調演說 等を 通해 兩國 經濟人들은 世界經濟, 兩國經濟 및 兩國關係에 對해 다음과 같이 基本認識의 一致를 보았다.

世界經濟는 WTO 中心의 多角的인 自由貿易體制로의 움직임과 함께 地域經濟圈 形成이 急速히 推進되고 있으며 世界經濟의 兩大軸으로 浮上한 EU, NAFTA는 經濟統合效果의 極大化를 爲해 그 質과 規模를 擴大 深化시켜나가고 있다.

한편, 中國은 WTO加入으로 開放의 果實을 享受하고 있으며 世界 生産據點으로서의 立地를 着實하게 構築해 나가고 있다.

韓國經濟는, 積極的인 構造調整 努力으로 外換危機를 成功的으로 克服했다고는 하지만 成長潛在力의 擴充이나 企業의 競爭力 強化는 아직도 未洽한 狀態이며 公共・勞動部門의 改革 等に 對한 持續的인 推進이 必要하다.

日本經濟는, 長期 沈滯 속에서 消費, 設備投資, 住宅投資 등이 여전히 不振하며 높은 失業率이 持續되고 있어 大膽하고도 體系的이며 持續的인 改革推進이 要望된다.

한편, 最近 韓日間에 있어 緊急課題로 擡頭되고 있는 韓日FTA는 兩國의 産業構造調整 促進 및 競爭力提高를 爲한 지렛대로 積極 活用될 수 있을 것이며, 兩國의 經濟 活性化를 爲해서도 早速한 締結이 要望된다. 韓日FTA는 中長期의으로 東아시아 自由經濟圈 形成을 向해 透明하고 開放的인 統合市場을 指向해야할 것이다.

특히 2002年 韓日월드컵 共同開催의 成功은 韓日關係史에 있어서 歷史的인 轉換點이 되었으며, 兩國 經濟協力 增進을 爲한 인프라로서 文化 및 靑少年交流는 앞으로도 繼續하여 積極 推進하여야 한다.

4. 各 分科會, 全體會議에서의 意見發表와 討論을 통해 兩國 經濟人들은 다음 事項에 對해 意見의 一致를 보았다.

(1) 韓日 兩國은 投資協定の 締結뿐만 아니라 더 나아가 FTA의 早期締結을 爲한 實質的인 韓日 技術交流 및 投資協力 擴大를 爲한 土壤을 造成해 나가야 한다. 이를 爲해 韓國은 勞使關係 改善 및 持續的인 投資인프라 擴充과 政策의 一貫性 確保를 爲해 努力하고, 日本은 對韓貿易不均衡의 縮小와 産業協力 強化를 爲해 보다 前向的인 協력이 要求된다.

한편, 兩國의 投資交流 活性化를 爲한 具體的인 一例로서 準天頂 衛星(Quasi-Zenith Satellite)을 利用한 次世代 모바일 서비스를 提供하는 시스템 構築 등 情報通信技術分野, 특히 새로운 需要開發에 있어서의 韓日兩國의 民官協力에 依한 프로젝트의 實現을 爲해 協력이 必要하다는데 認識을 같이 하였다.

(2) 韓日 兩國은 少資源國, 貿易·産業技術·人材立國 등 共通된 經濟基盤을 갖고 있다. 이들 條件을 前提로 兩國 企業들은 同等한 파트너십에 根據하여 事業의 水平·垂直分業을 圖謀하여 第3國에 對해서는 韓日 兩國이 共同으로 競爭力있는 事業構造를 構築하여 貿易·投資 등의 經濟活動을 擴大해 나가는 것이 重要하다.

(3) 最近 中國 等 東北아시아圈의 物流市場이 急成長하고 있고, 物流業의 國際化가 加速化되고 있다. 製造技術의 革新, 販賣戰略의 多樣化에 이어 物流體制의 合理化를 통한 生産性的 向上이 附加價値를 새로이 創出할 수 있는 第3의 利潤源으로 간주되고 있는 만큼 物流가 國家競爭力인 時代가 되었다. 이러한 時代的 狀況에 따라 韓日 物流企業間 協力은 必然的이며 兩國 企業間 戰略的 業務提携 및 物流파트너십 構築, 多國間 物流事業의 推進, 物流標準化의 共同推進 等 諸般分野에서의 協력이 要望된다.

(4) 이러한 兩國의 貿易・投資・産業協力の 實效性を 높이기 爲해서는 民間企業을 中心으로 政府와 經濟界가 하나가 되어 FTA의 早期締結에 努力하고, 企業은 共存共榮의 Win-Win關係가 바탕이 된 信賴關係 構築에 努力해야 한다.

(5) 韓國의 新政府의 産業政策 方向에 對한 說明, 그리고 韓日協力を 爲한 韓國中小企業 實態調査와 中小企業에 있어서 相互補完 可能性에 關한 報告, 大邱廣域市의 投資環境에 對한 說明이 있었으며 兩國 經濟人들로부터 높은 關心이 表明되었다.

5. 各 分科會 및 全體會議에서의 提案 等에 關해 別添事項에 合意하였다.

6. 다음 會議는 來年에 日本에서 開催한다.

2003 年 4 月 25 日

韓國側 代表團 團長 金 相 廈

日本側 代表團 團長 瀬戶 雄三

〈別 添〉

合 意 事 項

- (1) 「産業貿易會議」開催에 協力하는 件
- (2) 「訪日輸出促進團」派遣과 그 受容에 協力하는 件
- (3) 兩國 「産業技術協力財團」事業에 協力하는 件
- (4) 「韓日中堅經濟人交流미션」의 韓國 派遣과 그 受容에 協力하는 件
- (5) 「靑少年交流事業」으로 韓日 兩國의 大學生을 相互派遣하고 그 受容에 協力하는 件 및 풀뿌리 交流를 통해 보다 젊은 世代의 交流推進을 檢討하는 件
- (6) 兩國의 産業基盤을 뒷받침하는 中小企業分野에서 相互 補完 事業의 推進을 檢討하는 件
- (7) 其他 韓日・日韓 兩經濟協會의 合意下에 推進하는 事業에 協力하는 件

以 上

Ⅲ. 日 程 吳 議 題

4月 23日 (水)

【日本側 團長團】

09 : 50 - 12 : 20 成田空港 - 仁川空港 (JL 951)
午 後 主要機關 禮訪 (B・H, 外交部・產資部)

4月 24日 (木)

【日本側 團長團・韓國側 團員】

12 : 30 - 13 : 20 金浦空港 - 大邱空港 (OZ 8309)
13 : 00 - 13 : 55 金浦空港 - 大邱空港 (KE 1509)
14 : 20 - 14 : 40 大邱空港 - HOTEL (BUS)
14 : 40 HOTEL CHECK IN (Hotel Inter-Burgo)

【日本側 團員】

09 : 45 - 12 : 10 成田空港 - 金海空港 (KE 716)
09 : 45 - 11 : 10 關西空港 - 金海空港 (JL 967)
12 : 50 - 14 : 50 金海空港 - HOTEL (BUS)
14 : 50 HOTEL CHECK IN (Hotel Inter-Burgo)

【共 通】

15 : 30 - 15 : 50 HOTEL - 大邱展示컨벤션센터 (BUS)

16 : 00 - 16 : 40 開會式 ----- 5F Convention Hall 1

《開會式 細部日程》

16 : 00 - 16 : 10 開會 (議長選出・議題採擇)
16 : 10 - 16 : 20 兩側 團長人事
 韓國側：金相廈 團長
 日本側：瀬戸 雄三(SETO Yuzo) 團長

16 : 20 - 16 : 40 兩側 來賓祝辭・顧問人事
 韓國側：卞海寧 大邱廣域市 市長
 日本側：高野 紀元(TAKANO Toshiyuki) 駐韓日本大使
 韓國側：金榮洙 中小企業協同組合中央會 會長
 日本側：渡邊 修(WATANABE Osamu) 日本貿易振興會 理事長

16 : 45 - 17 : 45 兩側 基調演說
 韓國側：朴容晟 大韓商工會議所 會長
 『21世紀의 同伴者의 韓日關係의 進展을 위해』
 日本側：奥田 碩(OKUDA Hiroshi) 日本經濟團體連合會 會長
 『東아시아 自由經濟圈 構築을 위한 韓日의 役割』

17 : 45 - 18 : 10 全體會議 I

《全體會議 I 細部日程》

一般經過報告 (書面)

17 : 45 - 17 : 55	韓日產業貿易會議 報告	李錫英 韓國側 チェアマン
17 : 55 - 18 : 00	韓日中堅中小企業委員會 報告	朴龍泰 韓國側 委員長代行
18 : 00 - 18 : 10	韓日中堅經濟人交流促進團 報告	薛元鳳 韓國側 團長

18 : 20 - 18 : 40 大邱展示컨벤션센터 - HOTEL (BUS)

19 : 00 - 21 : 00 RECEPTION (兩經濟協會・大邱地域 共同主催)
 ----- Hotel Inter-Burgo 2F Convention Hall

4月 25日 (金)

08 : 30 - 08 : 50 HOTEL - 大邱展示컨벤션센터 (BUS)

09 : 00 - 12 : 00 各分科會別 會議

- 第 1 分科會 ----- 3F 306號
議題：『韓日 兩國間의 投資交流 活性化』

코디네이터 韓國側：金都亨 韓國貿易協會 客員研究員
 日本側：木村 伸一(KIMURA Shinichi) 三井物産(株) 顧問
 發表者 韓國側：柳寬榮 産業研究院 海外産業室 研究委員
 「韓日間 投資協力 現況과 活性化 方案」
 日本側：北岡 隆(KITAOKA Takashi) 三菱電機(株) 相談役
 「ICT(情報通信技術)을 中心으로 한 投資分
 野에 있어서의 韓日協力」

- 第 2 分科會 ----- 4F 409號

議題：「韓日 企業間 競爭과 協力」
 코디네이터 韓國側：李洙喆 三星物産(株) 副社長
 日本側：麻生 泰(ASO Yutaka) 麻生CEMENT(株) 社長
 發表者 韓國側：金仁珍 (株)韓進 代表理事 社長
 「物流서비스업 分野에서의
 韓日 企業의 競爭과 協力」
 日本側：飯島 英胤(IIJIMA Hidetane) 東レ(株) 相談役
 「製造業 分野에서의
 韓日 企業의 競爭과 協力」

《各分科會別 細部日程》

09:00 - 09:10	兩側 코디네이터 分科會進行 說明 및 코멘트
09:10 - 09:30	韓國側 백그라운드 페이지 要約發表
09:30 - 09:50	日本側 백그라운드 페이지 要約發表
09:50 - 10:10	COFFEE BREAK
10:10 - 11:50	自由討論
11:50 - 12:00	兩側 코디네이터 總括

12:00 - 13:30 午餐會
 - 顧問・團長團・專門委員長 (共同聲明案 審議)
 ----- 3F 314號
 - 團 員 ----- 5F Convention Hall 2

13:30 - 15:30 全體會議Ⅱ ----- 5F Convention Hall 1
 共同議長 韓國側：羅應燦 副團長
 日本側：秋山 富一(AKIYAMA Tomiichi) 副團長

《全體會議Ⅱ 細部日程》

13：30 - 13：40	兩側 共同議長 人事
13：40 - 13：55	主題發表① 朴鳳圭 産業資源部 貿易投資室長 「參與政府의 産業政策 方向」
13：55 - 14：25	主題發表② 韓元碩 (財)韓日産業・技術協力財團 專務理事 「對日協力을 위한 韓國中小企業 實態調査」 成田 洋助(NARITA Yosuke) (財)日韓産業技術協力財團 專務理事 「韓日 兩國의 中小企業 相互補完 可能性 調査」
14：25 - 14：40	主題發表③ 裴泳哲 大邱廣域市 投資通商課長 「大邱의 投資環境」
14：40 - 14：55	韓日協力 成功事例 發表 鄭台一 韓國OSG(株) 代表理事 「韓日 協力事業 成果, 成功 要因」
14：55 - 15：10	質疑應答
15：10 - 15：15	韓日 共同提案 李吉鉉 (株)昞元 會長, (社)韓日經濟協會 監事 「日韓中堅經濟人交流MISSION 誘致, 青少年交流韓日 大學生 相互訪問, 韓國訪日輸出促進團 派遣, 中小企業 相互補完事業」
15：15 - 15：20	第1分科會 코디네이터 報告
15：20 - 15：25	第2分科會 코디네이터 報告
15：25 - 15：30	議長總括

15：30 - 15：50 COFFEE BREAK (共同聲明 配布)

15：50 - 16：10 閉會式 ----- 5F Convention Hall 1

《閉會式 細部日程》

15：50 - 16：00	共同聲明 採擇 [主催側만 朗讀]
16：00 - 16：10	兩側團長 人事
16：10	閉會

16：20 - 16：40 共同記者會見 ----- 3F 315號

16：20 - 16：40 大邱展示컨벤션센터 - HOTEL (BUS)

16：20 - 16：40 大邱展示컨벤션센터 - 大邱空港 (BUS)

4月 26日 (土)

♣ OPTION PROGRAM : 八公山(Palgongsan) 桐華寺(Donghwasa) 見學

08 : 50 HOTEL LOBBY 集結, 乘車
09 : 00 - 09 : 50 HOTEL - 桐華寺 (BUS)
10 : 00 - 11 : 10 桐華寺 見學

【韓國側 團員】

11 : 20 - 11 : 50 桐華寺 - 大邱空港 (BUS)
12 : 30 - 13 : 25 大邱空港 - 金浦空港 (OZ 8306)
13 : 00 - 13 : 55 大邱空港 - 金浦空港 (KE 1508)

【日本側 團員】

11 : 20 - 11 : 30 桐華寺 - 中食場所 (BUS)
11 : 30 - 13 : 00 中食
13 : 00 - 15 : 00 中食場所 - 金海空港 (BUS)
17 : 05 - 19 : 00 金海空港 - 成田空港 (JL 958)

※ 八公山 桐華寺



新羅時代(BC57~935年)에 創建된 八公山の 代表的인 寺刹이며,
大韓佛教 曹溪宗 第9教區 本寺임. 壬亂 때 僧兵들의 活動 根據
地였으며, 護國佛教의 傳統이 이어지고 있음. 最近에는 統一의
念願을 담은 東洋 最大의 統一藥師如來大佛이 奉安되어 있음.
(<http://www.donghwasa.net>)

♣ OPTION PROGRAM 不參者

【韓國側 團員】

11 : 00 - 11 : 30 HOTEL - 大邱空港 (BUS)

【日本側 團員】

13 : 00 - 15 : 00 HOTEL - 金海空港 (BUS)

IV. 兩側 代表團 名單

1. 韓國側 代表團 名單

順：職 責·가나다 順

區 分	姓 名	團 體 位	團 體 / 會 社 名
團 長	金 相 度 KIM SANG HA	會 長	(社)韓日經濟協會 (株)三養社
顧 問	朴 容 晟 PARK YONG SUNG	顧 問	(社)韓日經濟協會 大韓商工會議所
“	金 在 哲 KIM JAE CHUL	顧 問	(社)韓日經濟協會 (社)韓國貿易協會
“	金 榮 洙 KIM YOUNG SOO	顧 問	(社)韓日經濟協會 中小企業協同組合中央會
副 團 長	金 熙 勇 KIM HI YONG	副 會 長	(社)韓日經濟協會 東洋物産企業(株)
“	羅 應 燦 RA EUNG CHAN	副 會 長	(社)韓日經濟協會 新韓金融持株會社
“	朴 世 英 PARK SEI YOUNG	副 會 長	(社)韓日經濟協會 韓國PANTLAND(株)
“	徐 敏 錫 SUH MIN SOK	副 會 長	(社)韓日經濟協會 東一紡織(株)
“	薛 元 鳳 SULL WON BONG	副 會 長	(社)韓日經濟協會 大韓製糖(株)
“	成 在 甲 SUNG JAE KAP	副 會 長	(社)韓日經濟協會 LG石油化學(株)
“	趙 錫 來 CHO SUCK RAI	副 會 長	(社)韓日經濟協會 (株)曉星
“	玄 明 官 HYUN MYUNG KWAN	副 會 長	(社)韓日經濟協會 (社)全國經濟人聯合會
來 賓	曹 海 寧 CHO HAE NYOUNG	市 長	大邱廣域市
特別參加	姜 信 浩 KANG SHIN HO	理 會 事 長	(財)韓日産業・技術協力財團 東亞製藥(株)
“	金 泓 殖 KIM HONG SHIK	會 長	(株)金福耐 前 大邱商工會議所
“	盧 喜 燦 RO HEE CHAN	會 長	大邱商工會議所

區 分	姓 名			團 體 會社職位	團 體 / 會 社 名
特別參加	李 LEE	吉 GIL	鉉 HYUN	會 監 長 事	(株)吳元 (社)韓日經濟協會
“	朴 PARK	鳳 BONG	圭 KYU	貿 易 投 資 室 長	產業資源部
團 員	金 KIM	德 DUK	吉 KIL	會 長	AIS INC
“	郭 KWAK	一 IL	薰 HOON	會 長	(株)ENTAZ
“	郭 KWAK	鍾 JONG	寶 BO	會 長	寶國電氣工業(株)
“	白 BAIK	南 NAM	紅 HONG	會 長	河廣商工會議所
“	裴 BAE	英 YOUNG	基 KI	會 長	韓國機械工業協同組合聯合會
“	辛 SHIN	東 DONG	烈 YEOL	會 長	成門電子(株)
“	李 LEE	秉 BYUNG	星 SUNG	會 長	龍仁商工會議所
“	禹 WOO	鳳 BONG	濟 JE	會 長	水原商工會議所
“	鄭 JUNG	鎮 JIN	源 WON	會 長	京畿北部商工會議所
“	愼 SHIN	泰 TAE	範 BUM	會 長	高麗綜合運輸(株)
“	林 LIM	都 DO	洙 SOO	會 長	安山商工會議所
“	劉 YOO	載 JAE	晟 SUNG	會 長	泰昌鐵鋼(株)
“	尹 YOON	鳳 BONG	秀 SOO	會 長	(株)南盛
“	金 KIM	敬 KYUNG	錫 SEOK	副 會 長	韓國機械產業振興會
“	金 KIM	東 DONG	訓 HOON	副 會 長	韓國電子去來協會
“	申 SHIN	德 DUCK	鉉 HYUN	副 會 長	(社)韓國優良製品振興協會
“	李 LEE	錫 SUK	瑛 YOUNG	副 會 長	(社)韓國貿易協會

區 分	姓 名			團 體 會社職位	團 體 / 會 社 名
團 員	崔 CHOI	明 MYUNG	煥 HWAN	副 會 長	興和工業(株)
“	金 KIM	英 YOUNG	泰 TAI	顧 問	法務法人 世宗
“	奇 KEE	秉 BYUNG	泰 TAE	顧 問	(社)韓國優良製品振興協會
“	盧 NOH	泳 YOUNG	旭 WOOK	院 長	自動車部品研究院
“	金 KIM	定 JUNG	植 SHICK	院 長	堤川SEOUL病院
“	金 KIM		正 JUNG	代表理事	HANWHA流通
“	金 KIM	江 KANG	熙 HEE	代表理事	(株)東和ENTEC
“	金 KIM	敬 KYUNG	泰 TAE	代表理事	TC TECH
“	金 KIM	仁 IN	珍 JIN	代表理事	(株)韓進
“	金 KIM	重 CHUNG	求 KOO	代表理事	KNJ ENGINEERING INC
“	朴 PARK	浩 HO	鎭 JIN	代表理事	N-HITECH
“	宋 SONG	錫 SEOK	俊 JOON	代表理事	(株)巨養
“	李 LEE		光 GWANG	代表理事	AIS INC
“	李 LEE	昌 CHANG	圭 KYU	代表理事	東剛貿易(株)
“	安 AHN	宗 CHONG	原 WON	代表理事	極東油化(株)
“	龍 YONG	乙 EARL	植 SHIK	代表理事	南德物産(株)
“	李 LEE	奉 BONG	珍 JIN	代表理事	LEE ENGINEERING
“	李 LEE	漢 HAN	錫 SEOK	代表理事	(株)ICC
“	鄭 JEONG	寅 IN	俊 JUN	代表理事	天號世上(株)

區 分	姓 名	團 體 會社職位	團 體 / 會 社 名
團 員	鄭 台 IL CHUNG TAE	代表理事	韓國OSG(株)
“	池 泰 雙 JI TAE SUP	代表理事	泰寧物產(株)
“	崔 雨 珏 CHOI WOO GAK	社 長	(株)大成HI-TECH
“	金 相 圭 KIM SANG KYU	副 社 長	三南石油化學(株)
“	李 洙 喆 LEE SOO CHUL	副 社 長	三星物產(株)
“	羅 相 浩 NA SANG HO	專務理事	韓國工具工業協同組合
“	朴 禹 建 PARK WOO KEON	專務理事	韓國生產性本部
“	全 賢 哲 JOHN HYUN CHUL	專務理事	(社)韓國中堅企業聯合會
“	韓 元 碩 HAN WON SEK	專務理事	(社)韓日經濟協會
“	朴 然 成 PARK YEON SUNG	常務理事	(株)三養GENEX
“	朴 龍 泰 PARK YONG TAE	常務理事	中小企業協同組合中央會
“	李 栢 儀 LEE BAEG EUY	常務理事	(株)三養社
“	金 都 亨 KIM DO HYUNG	教 授 客員研究員	啓明大學校 (社)韓國貿易協會
“	柳 寬 榮 RHYU KWAN YEONG	研究委員	產業研究院
“	金 勝 雲 KIM SEUNG WOON	理 事	大韓商工會議所
“	金 裁 永 KIM JAE YOUNG	理 事	韓國TECHNOMART
“	李 承 鐸 LEE SEUNG TAEK	理 事	世向產業(株)
“	申 榮 敏 SHIN YOUNG MIN	理 事	(社)韓日經濟協會
“	柳 種 佑 RYU JONG WOO	理 事	韓國染色技術研究所

區 分	姓 名	團 體 會社職位	團 體 / 會 社 名
團 員	林 子 鉉 IM JA HYUN	理 事	韓國產業技術振興協會
“	許 南 整 HUH NAM JUNG	理 事	(財)韓日產業技術協力財團
“	沈 圭 燮 SHIM KYU SEOB	大邱·慶北 支 會 長	中小企業協同組合中央會
“	安 昌 洙 AHN CHANG SOO	部 長	韓國輸出入銀行
“	金 仁 奎 KIM IN KYU	TEAM長	韓國化學試驗研究院
“	朴 富 圭 PARK BOO KYU	TEAM長	(社)韓國貿易協會
“	崔 吉 洙 CHOI GIL SOO	TEAM長	中小企業振興公團
“	黃 重 河 HWANG JOONG HA	TEAM長	KOTRA
Observer	裴 泳 哲 BAE YEUNG CHEOL	投資通商 課 長	大邱廣域市
“	徐 卞 鎰 SEO KA RAM	行政事務官	產業資源部 亞洲協力課
“	全 濟 九 JUN JE GOO	行政事務官	產業資源部 亞洲協力課
“	鄭 銀 英 JUNG EUN YOUNG	行政主務官	產業資源部 亞洲協力課
隨 行 員	金 正 鉉 KIM JUNG HYUN	TEAM長	中小企業協同組合中央會
“	崔 宰 赫 CHOI JAE HYUK	部 長	三星物產(株)
“	李 成 熙 LEE SUNG HEE	秘書室長	中小企業協同組合中央會
“	吉 珖 錫 KIL GWANG SUK	次 長	大韓製糖(株)
“	高 鍾 燮 KO JONG SEOB	課 長	中小企業協同組合中央會
“	金 廷 洙 JAMES S. KIM	次 長	(社)韓國貿易協會
“	宋 在 權 SONG JAE KWON	次 長	東遠產業(株)
“	金 相 允 KIM SANG YOON	課 長	(株)金福耐

區 分	姓 名			團 體 會社職位	團 體 / 會 社 名
隨 行 員	李 LEE	東 DONG	震 JIN	研 究 員	全國經濟人聯合會
“	劉 YOO	圭 KYU	逸 IL	課 長	(株)曉星
“	李 LEE	柑 SANG	允 YOON	課 長	全國經濟人聯合會
“	鄭 JUNG	雲 WOON	教 KYO	課 長	LG石油化學(株)
“	崔 CHOI	秀 SU	慶 KYUNG	課 長	(株)三養社
“	姜 KANG	有 YOO	無 MU	社 員	大韓商工會議所
“	李 LEE	尙 SANG	竣 JUN	社 員	(社)韓國貿易協會
事 務 局	金 KIM	汝 YEO	種 JONG	部 長	(社)韓日經濟協會
“	宋 SONG	成 SUNG	基 GI	部 長	(社)韓日經濟協會
“	柳 RYU	奉 BONG	雨 WOO	部 長	(社)韓日經濟協會
“	趙 CHO	德 DUCK	卯 MYO	次 長	(社)韓日經濟協會
“	金 KIM	彰 CHANG	彬 BIN	次 長	(社)韓日經濟協會
“	金 KIM	正 JUNG	鎬 HO	次 長	(社)韓日經濟協會
“	張 CHANG	震 JIN	旭 WOOK	課 長	(社)韓日經濟協會
“	朴 PARK	賢 HYUN	燦 CHAN	課 長	(社)韓日經濟協會
“	金 KIM		堉 TAK	課 長	(社)韓日經濟協會
“	沈 SHIM	揆 KYU	榛 JIN	代 理	(社)韓日經濟協會
“	劉 YOO	崇 SUNG	勳 HUN	代 理	(社)韓日經濟協會
“	金 KIM	甫 BO	建 KEON	社 員	(社)韓日經濟協會
“	李 LEE	由 YOO	美 MI	社 員	(社)韓日經濟協會

<大邱地域 參加者 名單>

姓 名	團 體 會社職位	團 體 / 會 社 名
金 龍 基 KIM YONG KI	顧 問 代表理事	大邱商工會議所 (株)三寶染織
李 昇 柱 LEE SEUNG JOO	顧問/代表理事	大邱商工會議所/國際染織(株)
朴 城 亨 PARK SUNG HYUNG	顧 問 代表理事	大邱商工會議所 新羅纖維(株)
姜 在 祚 KANG JAE JO	顧 問 代表理事	大邱商工會議所 (株)東洋鑄物製作所
金 克 年 KIM KUK NYON	副 會 長 銀 行 長	大邱商工會議所 (株)大邱銀行
朴 永 熙 PARK YOUNG HEE	副 會 長 代表理事	大邱商工會議所 三盛交易(株)
咸 正 雄 HAHM JUNG WOONG	副 會 長 理 事 長	大邱商工會議所 大邱染色產業研究團地管理工團
李 仁 中 LEE IHN JOONG	副 會 長 代表理事	大邱商工會議所 和成產業(株)
吳 舜 澤 OH SOON TAEK	副 會 長 代表理事	大邱商工會議所 東一產業(株)
朴 贊 熙 PARK CHAN HEE	副 會 長 代表理事	大邱商工會議所 (株)協立製作所
金 東 求 KIM DONG GU	副 會 長 代表理事	大邱商工會議所 (株)金福耐
具 正 模 KOO JUNG MO	副 會 長 代表理事	大邱商工會議所 (株)大邱百貨店
李 熙 台 LEE HEE TAE	常勤副會長	大邱商工會議所
石 貞 達 SUK JUNG DAL	常任議員 代表理事	大邱商工會議所 (株)明進纖維
崔 昌 根 CHOI CHANG KUN	常任議員 代表理事	大邱商工會議所 (株)韓盛印刷
都 載 德 DO JAE DUCK	常任議員 代表理事	大邱商工會議所 有進綜合建設(株)
鄭 明 杓 CHUNG MYUNG PYO	常任議員 代表理事	大邱商工會議所 (株)瑞元
郭 惠 根 KWAK HAE KUN	常任議員 代表理事	大邱商工會議所 慶北鑛油(株)

姓	名	團 體 會社職位	團 體 / 會 社 名
鄭 命 今	JUNG MYUNG KUM	常任議員 代表理事	大邱商工會議所 大邱中央青果(株)
白 宇 鎮	BAEK WOO JIN	常任議員 代表理事	大邱商工會議所 (株)元邦
張 龍 鉉	CHANG YONG HYUN	常任議員 代表理事	大邱商工會議所 (株)大鉉테크
洪 鍾 潤	HONG JONG YOON	常任議員 代表理事	大邱商工會議所 (株)汎三共
李 香 德	LEE HYANG DUCK	常任議員 代表理事	大邱商工會議所 (株)世界
李 志 喆	LEE JI CHUL	議 員 代表理事	大邱商工會議所 健豐産業(株)
全 玉 姬	CHON OK HEE	議 員 代表理事	大邱商工會議所 (株)三養金屬
金 鍾 澤	KIM JONG TAEK	議 員 代表理事	大邱商工會議所 利和石油(株)
李 盛 一	LEE SUNG IL	議 員 代表理事	大邱商工會議所 (株)갈모
韓 三 和	HAN SAM HWA	議 員 代表理事	大邱商工會議所 (株)三韓씨원
孔 邦 鉉	GONG BANG HYUN	議 員 代表理事	大邱商工會議所 (株)孔成
安 宰 秀	AHN JAE SOO	議 員 代表理事	大邱商工會議所 (株)아카데미시네마
陳 榮 煥	JIN YOUNG HWAN	議 員 代 表	大邱商工會議所 三益LMS(株)
崔 英 洙	CHOI YOUNG SOO	議 員 代表理事	大邱商工會議所 責任테크솔(株)
鄭 燾	JUNG HOON	議 員 代表理事	大邱商工會議所 (주)테크노愚山
李 東 建	LEE DONG KUN	議 員 代表理事	大邱商工會議所 三和建設(株)
崔 榮 喆	CHOI YOUNG CHEOL	議 員 代表理事	大邱商工會議所 (株)삼코
金 浩 渡	KIM HO DO	議 員 代表理事	大邱商工會議所 (株)宇宙通商
許 奭 九	HEO SEOK GU	議 員 代表理事	大邱商工會議所 (株)海
孫 重 培	SOHN CHUNG BE	議 員 代表理事	大邱商工會議所 (株)유레카

姓	名	團體 / 會社職位	團體 / 會社名	
閔 MIN	雄 WOONG	基 KI	議 員 代 表	大邱商工會議所 朝陽毛紡(株)
權 KWON	龍 YONG	範 BEOM	議 員 代 表	大邱商工會議所 (株)피에이치와이
宋 SONG	相 SANG	壽 SOO	專務理事	大邱商工會議所
李 LEE	容 YONG	勳 HUN	會 長 代表理事	安東商工會議所 新安레미콘(株)
朴 PARK	魯 NO	允 YOUN	會 長	漆谷商工會議所
金 KIM	鎬 HO	建 KON	代 表	金泉煉炭
姜 KANG	信 SIN	雨 WOO	代表理事	(株)三一
趙 CHO	東 DONG	輝 HWI	代表理事	(株)大元石油
文 MUN	大 DAE	植 SIK	代表理事	(株)五星相互信用金庫
宋 SONG	鐘 CHONG	博 BAK	代表理事	榮州택시(株)
張 CHANG	志 JI	文 MOON	會 長	(社)韓國眼鏡패션産業協會
白 BAIK	奎 KYU	鉉 HYUN	理 事 長	大邱慶北掌甲工業協同組合
徐 SEO	相 SANG	武 MOO	理 事 長	慶北레미콘工業協同組合
宋 SONG	浚 JUNE	溶 YONG	理 事 長	韓國光學工業協同組合
金 KIM	相 SANG	賢 HYUEN	理 事 長	大邱慶北메리야스工業協同組合
朴 PARK	炳 BYUNG	龍 YONG	公認會計士	安建會計法人
成 SEONG	貞 JUNG	洙 SOO	理 事 長	大邱寫眞앨범印刷協同組合
吳 OH	明 MYUNG	玉 OK	會 長	大韓住宅建設協會 大邱廣域市會
白 BEAK	昌 CHANG	坤 GON	代表理事	大邱展示컨벤션센터
閔 MIN	丙 BYUNG	五 OH	會 長	大邱慶北纖維産業協會

姓	名	團體 會社職位	團體 / 會社名
金炳錫 KIM BYUNG SUK		副會長	大邱廣域市商人聯合會
鄭在度 JUNG JAE DO		事務局長	大邱廣域市商人聯合會
朴鍾洙 PARK JONG SOO		支部長	韓國레미콘工業協會 大邱慶北支部
李大燮 LEE DAE SEOB		團長	大邱FC
李根盛 LEE KEUN SUNG		代表理事	미키코리아(株)
梁元模 YANG WON MO		代表理事	新和精密(株)
朴權植 PARK KWON SIK		代表理事	(株)NA
李正雨 LEE JEUNG WOO		副會長 代表理事	慶州商工會議所 (株)韓國메탈
李基榮 LEE KI YOUNG		副會長 代表理事	慶山商工會議所 (株)助榮金屬
李炫雨 LEE HYUN WOO		副會長 代表	慶山商工會議所 大峰레이스
南在日 NAM JAE IL		副會長 代表	安東商工會議所 豐山製藥
李鐘浩 LEE JONG HOO		副會長 代表理事	安東商工會議所 慶安旅客自動車(株)
金根浩 KIM KUN HO		代表理事	斗河實業(株)
俞石根 YU SUK KUN		代表	大井寢裝
張世日 JANG SE IL		理事長	大邱慶北工藝協同組合
趙文濟 CHO MUN JE		代表	BB製靴
金基燮 KIM KI SUB		代表理事	(株)成富
金漢官 KIM HAN KWAN		代表理事	(株)漢城F&C
朴鏞珍 PARK YONG JIN		會長	國際眼鏡

2. 日本側 代表團 名單

(敬称略・順不同)
(企業名五十音順)

名誉団長	奥 田 碩 OKUDA HIROSHI	(社) 日韓経済協会顧問 (社) 日本経済団体連合会 会長
団 長	瀬 戸 雄 三 SETO YUZO	(社) 日韓経済協会会長 アサヒビール(株) 相談役
副 団 長	渡 里 杉一郎 WATARI SUGIICHIRO	(社) 日韓経済協会副会長 (株) 東芝 相談役
副 団 長	秋 山 富 一 AKIYAMA TOMIICHI	(社) 日韓経済協会副会長 住友商事(株) 相談役
副 団 長	亀 井 俊 郎 KAMEI TOSHIO	(社) 日韓経済協会副会長 川崎重工業(株) 相談役
副 団 長	鈴 木 政 志 SUZUKI MASASHI	(社) 日韓経済協会副会長 野村證券(株) 常任顧問
名誉会長	藤 村 正 哉 FUJIMURA MASAYA	(社) 日韓経済協会名誉会長 三菱マテリアル(株) 相談役
顧 問	渡 辺 修 WATANABE OSAMU	日本貿易振興会 理事長
来 賓	高 野 紀 元 TAKANO TOSHIYUKI	駐大韓民国日本国特命全権大使

団 員	河 野 一 馬 KONO KAZUMA	アサヒビール(株) 経営戦略部プロデューサー
団 員	埴 智 子 HANAWA TOMOKO	アサヒビール(株) 秘書室主任
団 員	尹 惠 重 YOON HYE JOONG	アサヒビール(株) 経営戦略部副主任
団 員	麻 生 泰 ASO YUTAKA	日韓中堅経済人交流促進団 団長 麻生セメント(株) 代表取締役社長
団 員	清 水 孝 郎 SHIMIZU TAKAO	石川島播磨重工業(株) ソウル事務所所長
団 員	古 川 和 雄 FURUKAWA KAZUO	石川島播磨重工業(株) 海外営業戦略部渉外グループ部長
団 員	松 本 明 久 MATSUMOTO AKIHISA	伊藤忠商事(株) 執行役員エネルギー部門長
団 員	三 木 邦 夫 MIKI KUNIO	韓国伊藤忠(株) 代表理事
団 員	後 藤 次 幹 GOTO TSUGIMOTO	伊藤忠マネジメントコンサルティング(株) 海外市場グループアジア担当部長
団 員	島 田 敏 生 SHIMADA TOSHIO	伊藤忠商事(株) 顧問
団 員	岡 崎 誠之助 OKAZAKI SEINOSUKE	伊藤忠丸紅鉄鋼(株) 相談役
団 員	藤 井 増 夫 FUJII MASUO	川崎重工業(株) 営業推進部アジアグループ
団 員	高 崎 浩 敏 TAKASAKI HIROTOSHI	川鉄商事(株) 常務取締役
団 員	北 坂 康 博 KITASAKA YASUHIRO	川鉄商事(株) ソウル支店長
団 員	藤 本 明 夫 FUJIMOTO AKIO	(社)関西経済連合会 専務理事
団 員	石 原 進 ISHIHARA SUSUMU	九州旅客鉄道(株) 代表取締役社長
団 員	丸 山 康 晴 MARUYAMA YASU HARU	九州旅客鉄道(株) 常務取締役
団 員	師 村 博 SHIMURA HIROSHI	九州旅客鉄道(株) 船舶事業部部長

団員	小野田 照 義 ONODA TERUYOSHI	九州旅客鉄道(株) 経営企画部企画国際室長
団員	笠 原 剛 KASAHARA TAKESHI	九州旅客鉄道(株) 経営企画部
団員	宮 野 徳 彦 MIYANO NORIHIKO	(株)コッシー 代表取締役
団員	藤 田 徹 FUJITA TORU	住友商事(株) 人材・情報グループ参事
団員	上之蘭 秀 行 KAMINOSONO HIDEYUKI	住友商事(株) 市場業務部部长代理
団員	田 中 克 彦 TANAKA KATSUHIKO	韓国住友商事(株) 社長
団員	横 山 全 徳 YOKOYAMA MASANORI	大成建設(株) ソウル支店支店長
団員	寄 木 正 敏 YORIKI MASATOSHI	月島機械(株) 相談役
団員	田 原 龍 二 TAHARA RYUJI	月島機械(株) 代表取締役社長
団員	森 島 進 MORISHIMA SUSUMU	月島機械(株) 執行役員
団員	早乙女 智 紀 SOUTOME TOMONORI	月島機械(株) 海外営業部課長代理
団員	春 日 肇 KASUGA HAJIME	(株)東芝 コーポレートコミュニケーション部行政産業部参事
団員	竹 村 宏 司 TAKEMURA HIROJI	(株)東急ホテルマネジメント 常務取締役ホテル統括部長
団員	工 藤 昭一郎 KUDO SHOICHIRO	(株)東急ホテルマネジメント マーケティング部セールスチームリーダー
団員	野々部 孝 司 NONOBE TAKASHI	(株)名古屋東急ホテル 宴会オフィスマネージャー
団員	清 水 誠 二 SHIMIZU SEIJI	(株)東京三菱銀行 ソウル支店副支店長
団員	飯 島 英 胤 IIJIMA HIDETANE	東レ(株) 相談役
団員	三本木 伸 一 SANBONGI SHINICHI	東レセハン(株) 常務理事 経営企画管理室長

団	員	小 木 曾 一 郎 OGISO ICHIRO	韓国トヨタ自動車(株) 社長
団	員	成 田 洋 助 NARITA YOSUKE	(財)日韓産業技術協力財団 専務理事
団	員	山 崎 弘 YAMAZAKI HIROSHI	(財)日韓産業技術協力財団 常務理事
団	員	西 塚 英 和 NISHIZUKA HIDEKAZU	(株)日本航空システム 常務取締役
団	員	中 原 太 NAKAHARA FUTOSHI	(株)日本航空システム 政策業務室業務部アシスタントマネージャー
団	員	戸 井 正 明 TOI MASAACKI	日本航空(株) 韓国地区支店長
団	員	遠 藤 一 郎 ENDO ICHIRO	日鉱金属(株) 顧問 本部東アジア事業推進室長
団	員	安 武 史 郎 YASUTAKE SHIRO	日商岩井(株) 特別顧問
団	員	中 平 政 廣 NAKAHIRA MASAHIRO	韓国日商岩井(株) 代表取締役社長
団	員	和 田 龍 幸 WADA RYUKO	(社)日本経済団体連合会 事務総長
団	員	太 田 誠 OHTA MAKOTO	(社)日本経済団体連合会 国際経済本部 北東アジア・ロシアグループ長
団	員	田 中 康 文 TANAKA YASUFUMI	(社)日本経済団体連合会 国際経済本部
団	員	篠 原 徹 SHINOHARA TORU	日本商工会議所 常務理事
団	員	會 本 尚 EMOTO HISASHI	日本商工会議所 ソウル事務所長
団	員	秋 山 守 由 AKIYAMA MORIYOSHI	(株)日本能率協会コンサルティング 代表取締役社長
団	員	齋 藤 彰 一 SAITO SHOICHI	(株)日本能率協会コンサルティング 取締役
団	員	秋 本 武 則 AKIMOTO TAKENORI	韓国 J M A C 代表理事社長
団	員	鄭 哲 和 CHUNG CHUL HWA	韓国 J M A C 副社長

団員	村 橋 健 司 MURAHASHI KENJI	(社) 日本能率協会 経営・人材革新事業本部副本部長
団員	岡 崎 孝 裕 OKAZAKI TAKAHIRO	日本貿易振興会 総務部秘書室長
団員	中 村 富 安 NAKAMURA TOMIYASU	日本貿易振興会ソウルセンター 所長
団員	高 田 伸 朗 TAKADA NOBUAKI	(株)野村総合研究所 社会政策コンサルティング部 上席コンサルタント
団員	泊 三 夫 TOMARI MITSUO	(株)博報堂 第3広告カンパニー執行役員
団員	高 杉 暢 也 TAKASUGI NOBUYA	韓国富士ゼロックス(株) 代表理事会長
団員	佐 藤 晃 一 SATOW KOICHI	(株)ホテルオークラ 相談役
団員	米 谷 雅 彦 MAIYA MASAHIKO	(株)ホテルオークラ東京 取締役社長兼総支配人
団員	清 水 紘一郎 SHIMIZU KOICHIROO	(株)ホテルオークラ福岡 代表取締役社長兼総支配人
団員	小 林 啓 郎 KOBAYASHI KEIO	(株)ホテルオークラ東京 営業二部国際セールス課セールスマネージャー
団員	大 津 嘉 男 OTSU YOSHIO	丸紅食料(株) 顧問
団員	榊 原 俊 資 SAKAKIBARA SHUNSUKE	韓国丸紅(株) 社長
団員	木 村 伸 一 KIMURA SHINICHI	日韓産業貿易会議チェアマン 三井物産(株) 顧問
団員	藤 森 康 雄 FUJIMORI YASUO	三井物産(株) 経営改革企画部海外室長
団員	橋 本 芳 博 HASHIMOTO YOSHIHIRO	韓国三井物産(株) 代表理事社長
団員	桜 井 健 司 SAKURAI TAKESHI	三菱商事(株) 顧問
団員	矢 野 雅 英 YANO MASAhide	韓国三菱商事会社 代表理事社長
団員	森 原 康 夫 MORIHARA YASUO	韓国三菱商事会社 経営支援本部

団 員	北 岡 隆 KITAOKA TAKASHI	三菱電機(株) 相談役
団 員	石 井 勝 巳 ISHII KATSUMI	三菱電機(株) 国際部海外渉外担当部長
団 員	海老名 史 道 EBINA FUMIMICHI	三菱電機(株) 韓国支店長
団 員	早乙女 雅 子 SAOTOME MASAKO	三菱マテリアル(株) 業務管理センター秘書グループ
団 員	松 田 次 郎 MATSUDA TSUGUO	UCC上島珈琲(株) 専務取締役
団 員	坂 本 和 一 SAKAMOTO KAZUICHI	立命館アジア太平洋大学 学長
団 員	西 田 宗 旦 NISHIDA MUNEAKI	立命館アジア太平洋大学 副学長
団 員	藤 井 正 一 FUJII SHOICHI	広島大学大学院社会科学科博士課程
団 員	御 巫 清 美 MIKANAGI KIYOYOSHI	(社)日韓経済協会 専務理事
団 員	下 出 道 雄 SHIMODE MICHIO	(社)日韓経済協会 常務理事・調査部長
特別参加	猪 俣 弘 司 INOMATA HIROSHI	在大韓民国日本国大使館 公使
特別参加	藤 原 正 彦 FUJIHARA MASAHIKO	在大韓民国日本国大使館 参事官
特別参加	榎 本 奈津子 ENOMOTO NATSUKO	在大韓民国日本国大使館 三等理事官
特別参加	富 田 修 TOMITA OSAMU	(財)名古屋コンベンションビューロー コンベンション部長
特別参加	桂 井 滋 彦 KATSURAI SHIGEHICO	(財)名古屋コンベンションビューロー コンベンション部次長
特別参加	伊 藤 千 可 ITO CHIKA	(財)名古屋コンベンションビューロー コンベンションスタッフなごや

事務局	保坂 昭寿 HOSAKA AKITOSHI	(社)日韓経済協会調査部主任調査役
事務局	早川 徳光 HAYAKAWA NORIMITSU	(社)日韓経済協会業務部部长
事務局	小林 直人 KOBAYASHI NAOHITO	(社)日韓経済協会業務部部长
事務局	古川 哲也 FURUKAWA TETSUYA	(社)日韓経済協会総務部部长
事務局	伊藤 美千代 ITO MICHIO	(社)日韓経済協会総務部員

V. 開 會 式

1. 團長人事



金 相 廈
韓國側 代表團 團長

여러분 안녕하십니까? 방금 소개받은 韓日經濟協會 會長 金相廈 입니다. 오늘은 世界的인 纖維패션도시·테크노 폴리스를 指向하는 綠陰의 都市인 大邱廣域市에서 第35 회 韓日·日韓經濟人會議가 開催케 되는데 대해 무척 기쁘게 생각하며, 韓國側을 代表하여 人事말씀을 드리게 된 것을 큰 榮光으로 생각합니다.

먼저, 이번 會議에 參席하여 주신 세토 유조(瀬戶 雄三) 團長님을 비롯한 日本側 代表團 여러분을 眞心으로 歡迎하며, 韓國側 代表團 여러분께도 感謝의 말씀을 함께 올립니다. 또한 여러모로 바쁘신 가운데도 불구하고 이 자리에 枉臨하시어 자리를 빛내주신 타카노 토시유키(高野 紀元) 在大韓民國日本國特命全權大使님, 그리고 曹海寧 大邱廣域市長님을 비롯한 來賓 여러분께도 甚深한 感謝의 말씀과 경의를 표합니다.

방금 會議 開催에 앞서 大邱地下鐵 火災事故로 高貴한 生命을 잃으신 故人들에 대한 冥福을 비는 默念과 함께 日本側 團員 全員の 精誠어린 마음을 담은 誠金 傳達式이 있었습니다만, 日本側 代表團 여러분께 다시 한번 깊은 感謝를 드리는 바입니다.

傳統과 權威를 자랑하는 韓日間의 代表的인 會議로서 兩國間 經濟交流協力の 牽引車 役割을 해오고 있는 韓日·日韓經濟人會議는 1969年 以後 단 한차례도 거르지 않고 每年 兩國의 主要都市를 巡廻하며 開催함으로써 地域經濟活性化와 韓日地方都市間의 交流促進에도 많은 寄與를 해 오고 있습니다. 참고로 말씀드리면 작년도에는 히로시마시(廣島市)에서 그 전 해에는 全羅南道 光州廣域市에서 개최하는 식으로 매년 장소를 옮겨가면서 해 오고 있습니다.

특히 昨年 히로시마시(廣島市)에서의 會議 開催에 이어 이번에는 姊妹結緣都市인 大邱廣域市에서 開催됨으로써 기존의 地方都市間의 友好協力關係를 向後 經濟協力 次元으로까지 發展시키는 契機가 될 것으로 期待합니다.

韓日兩國委員 여러분! 최근 世界는 이라크戰爭과 北韓核問題, 사스(SARS) 등으로 매우 混亂한 樣相을 보이고 있고 世界經濟環境도 많은 變化가 있어 兩國 經濟協力の 必要性은 그 어느 때보다도 더욱 增大되고 있습니다.

한편, 지난 2000年 以後 對日貿易赤字가 繼續적으로 增加하여 去年에는 147億 달러에 이르는 등 또다시 憂慮의 목소리가 나오고 있는 것도 事實입니다. 勿論 韓日 兩國의 産業構造의 差異 때문에 發生하는 問題로 經濟論理로 풀어나가야 할 問題이기는 하지만 韓日 兩國이 推進하고 있는 産業技術協力事業이 보다 實效性 있게 推進될 수 있도록 兩國이 더욱 힘써 나가지 않으면 안될 것으로 생각합니다.

다행히도 이번 會議에서는 “韓日 企業間 競爭과 協力”이란 테마로 兩國間 協力 方案을 協議하는 案件이 上程되어 있습니다. 韓日兩國이 함께 풀어 나가야 할 課題인 「韓日間 投資交流 活性化 및 企業間 競爭과 協力」에 關해 새로운 協力 方案을 導出해 낼 수 있도록, 兩國 代表團 여러분께 眞摯하고도 活潑한 討議를 부탁드립니다.

끝으로 最近 韓日間에 이슈가 되고 있는 韓日 FTA, 自由貿易協定の 早速한 締結을 위해 兩國이 힘을 합해 努力해 나가기를 期待하며, 이번 會議가 韓日間의 協力を 위한 새로운 未來 프로젝트를 提案하는 役割을 다해 주기를 바라면서 저의 人事말씀을 마치고자 합니다. 다시 한번 日本에서 오신 100여명의 代表團 여러분께 이 자리를 빌어서 甚深한 敬意를 표합니다.

대단히 感謝합니다.



瀬戸 雄三 (SETO Yuzo)

日本側 代表團 團長

안녕하십니까? 일한경제협회 회장 세토 유조라고 합니다. 만나뵙게 되어서 반갑습니다. 지금부터는 일본어로 말씀드리겠습니다. 한일 양국의 여러분이 제가 한국어로 하면 이해하는데 어려우실 것 같아서 일본어로 말씀드리겠습니다.

제35회 한일·일한경제인회의 개최에 즈음해서 일본측을 대표해서 여러분께 인사를 드리게 되었습니다. 우선 이번 회의 개최에 있어서 많은 노력을 기울여 주

신 한일경제협회 회장이신 김상하 단장님을 비롯해 대한상공회의소 회장이신 박용성 고문님, 한국무역협회 회장이신 김재철 고문님, 그리고 중소기업협동조합중앙회 회장이신 김영수 고문님을 비롯해 한국 대표단 여러분께 진심으로 경의를 표하는 바입니다. 그리고 이렇게 바쁘신데도 참석해 주신 양국의 내빈 여러분께도 진심으로 감사를 드리는 바입니다.

그리고 이곳 대구시에서는 금년 2월에 많은 소중한 생명을 잃게 되는 매우 슬픈 사고가 있었습니다. 진심으로 위로의 말씀을 드리는 바입니다. 그리고 이러한 사태 속에서도 이렇듯 훌륭한 회의를 준비해 주신 조해녕 대구광역시 시장님을 비롯한 관계자 여러분께 다시 한번 경의를 표하는 바입니다.

어제 저희 방한단의 대표단은 노무현을 대통령을 예방하여 많은 말씀을 나눌 수 있었습니다. 한국의 앞으로의 내외 정책에 대해서 말씀을 들을 기회가 되어서 매우 큰 감명을 받았습니다. 21세기에 들어서 세계는 정치, 경제를 불문하고 큰 격동을 겪고 있습니다. 그 중에서도 경제면에서는 아시아 각국의 동향에 관해서 전 세계가 크게 주목하고 있습니다. 구미를 중심으로 한 국제 경제정세가 점점 불투명해지는 가운데 아시아경제는 큰 변화의 조짐이 보이고 있고 그야말로 새로운 아시아의 시대가 도래하고 있습니다. 그런 가운데 특히 한일 양국에서는 유사 이래 친밀한 관계 속에서 양국의 경제발전을 위한 기운이 점점 높아지고 있습니다.

작년 3월 양국의 정상회담에서는 앞으로의 한일FTA 체결을 위한 한일투자협정에 서명함과 동시에 폭넓은 분야에서 협력과 교류를 확대하는 것에 대해서 논의를 하였습니다. 미래지향적인 한일관계를 구축하는 환경이 조성되었습니다. 또한 작년 4월 히로시마에서 개최되었던 한일·일한경제인회의에서는 양국에서 300여명의 대표단이 참석하였습니다. 지금까지 그 이상의 구체적인 토의를 할 수 있었으며 그 안에서 큰 성과를 낼 수 있었습니다. 그 중에서도 아까 김상하 회장님께서도 말씀하셨던 한일FTA의 조기체결에 대해서는 한국측의 여러분들로부터 매우 긍정적인 얘기를 들을 수 있었습니다. 한국의 경제인 여러분이 무역수지 적자라고 하는 눈앞에 닥친 현안을 극복하고 조직적이고 중장기적인 견지에서 국제경제사회에 있어서의 한국의 정책과 세계전략을 바라보는 것에 대해서 매우 큰 감명을 받았습니다.

작년 회의가 있었던 이후로 저는 고이즈미 총리를 방문하였습니다. 이러한 한국측의 의견과 열의를 고이즈미 총리에게 전달하면서 관계 각부처에 대해서도 한일FTA 조기체결의 중요성을 강하게 요청해 왔습니다. 한일간에 FTA를 체결한

다면 인구는 약 1억7천만명, GDP로는 약 5조달러의 거대한 자유경제권이 만들어질 것입니다. 양국간의 투자가 활발해질 뿐만 아니라 해외로부터의 직접투자도 증가하게 될 것이며, 양국 경제규모의 확대로 이어지게 될 것입니다. 또한 경쟁 촉진과 새로운 기술의 보급을 통해서 인적·지적 자원의 교류가 원활하게 되면 양국의 근로경쟁 활성화를 촉진하게 될 것입니다. 저희는 한국의 새정부의 출범과 함께 다시 한번 양국의 경제연계 교류를 확인하면서 한일FTA 조기체결을 위한 양국 정부간의 최대한의 노력을 기대하고 있습니다.

또한 일한경제협회에서도 산학관의 공동연구에 대해서 강력하게 지원해 나갈 생각입니다. 이와 덧붙여서 일한경제협회에서는 한일경제협회와 협력해서 양국의 연대를 강화하고 보다 구체적이면서 효과적으로 추진해 나가기 위해 2가지의 중점과제를 대응해 나가고자 합니다. 먼저 첫 번째는 양국의 산업기반을 지탱하는 중소기업의 활성화 지원입니다. 일본과 한국 모두 중소기업은 기업수를 바탕으로 봤을 때 99% 이상, 그곳에서 일하고 계시는 노동자로 봤을 때는 80% 이상을 차지하고 있습니다. 일본의 중소기업은 대기업의 하청일을 하는 존재이긴 합니다만, 특수기술을 갖고 있는 독립 사업회사가 매우 많습니다. 한편 한국에서는 대기업 산하에 소속되어 있는 기업이 매우 많다고 들었습니다. 현재 일본의 중소기업은 국내경제 침체와 기업의 해외로의 사업이전 등으로 인해 여러 가지 문제를 안고 있습니다. 한국의 중소기업이 놓여져 있는 상황에서도 과제는 적지 않다고 듣고 있습니다. 양국의 산업구조의 기반을 뒷받침하고 있는 중소기업간에서 자본과 기술, 인적교류를 더욱 심화해서 상호 보완에 따른 활성화 대책을 만들어 내고 윈윈 관계를 구축할 수 있다면 한일 양국의 경제기반 강화에도 이바지할 것으로 생각합니다. 그러기 위해서는 양측의 사업자가 무엇을 상대방에게 요구하는가, 우선 그 요구사항을 제대로 파악할 필요가 있을 것입니다. 이 점에 대해서는 한일 양측의 경제협회에서는 작년부터 양국에서 각각 조사연구를 추진해 왔습니다. 내일 있을 전체회의에서 조사와 결과 개요를 보고해서 앞으로의 방향성에 대해서 여러분들로부터 의견을 받고자 합니다.

두 번째는 젊은층을 중심으로 한 양국의 풀뿌리와 같은 교류추진입니다. 한일 간 가일층의 우호적인 관계를 만들기 위해서는 미래를 짊어질 젊은 사람들이 교류가 더욱 더 확대되어야 할 것입니다. 작년 수학여행으로 한국을 방문한 일본의 중고등학생은 모두 합해서 246개 학교였으며, 인원으로는 약 3만9천명이었습니다. 그들은 한국의 여러분에게 매우 따뜻한 환영을 받았으며, 가깝고 먼 나라라는 인상에서 완전히 변화해서 가깝고도 가까운 나라라는 큰 친밀감을 갖고 일본에 돌아갔습니다. 한편 한국에서 수학여행으로 일본을 방문한 중고등학생은 거의 없는 상황입니다. 이는 한국의 병역제도와 비자취득과 같은 여러 가지 문

제가 있을 것입니다. 이러한 것들을 모두 한꺼번에 해결하는 것은 매우 어려울 것입니다만, 양국 정부에도 협조를 요청하면서 양국간의 수학여행의 실현과 홈스테이의 촉진, 나아가서는 자매학교 결연과 소규모 그룹의 교류 등 차세대간의 우호적인 교류를 더욱 활발히 해 나갈 수 있는 구체적인 대책을 제안하고자 합니다.

친애하는 양국의 대표단 여러분. 한일 양국의 새로운 관계 조성은 이제 겨우 시작되었을 뿐입니다. 여러 분야에 대해서 협의가 추진된다면 여러 가지 극복하지 않으면 안될 과제도 나올 것입니다. 또한 국제환경의 변화는 양국에 있어서 미지수의 경험을 강요할지도 모릅니다. 그러나 자유와 민주라고 하는 공통된 가치관을 갖고 있는 양국에 있어서 공존공영하는 미래지향적인 관계를 구축하는 것은 결코 어려운 일이 아니라고 생각합니다. 무엇보다도 중요한 것은 강한 연대감으로 양국의 내일을 바라본 그러한 대응을 해 나가는 것이며, 양국의 지혜를 모아 가는 것이라고 생각합니다. 그러기 위해서는 저희 경제인들이 온갖 노력을 다하고 지원을 아끼서는 안되리라고 생각합니다.

이번 한일·일한경제인회의가 큰 성공을 거둘 수 있을 것을 마음으로부터 기원하면서 다시 한번 참석해 주신 여러분께 감사드리며 제 인사말씀에 가름하고자 합니다. 경청해 주셔서 감사합니다.

2. 來賓祝辭・顧問人事



曹 海 寧
大邱廣域市 市長

존경하는 한국의 김상하 단장님! 그리고 일본의 세토 유조 단장님을 비롯한 양국 경제인 여러분!

제35회 한일·일한경제인회의 대구 개최를 진심으로 축하드리면서, 254만 대구시민과 함께 여러분을 진심으로 환영합니다. 특히 공무에 바쁘신데 타카노 토시유키 주한일본대사님께서 참석해 주신데 대해서 존경의 뜻을 표합니다. 또한 후지무라 마사야 고문님, 오후다 히로시 회장님, 와타나베 오사무 이사장님을 비롯한 일본측 참석자 여러분께 충심으로 경의를 아울러 표합니다.

또 한국측에서는 박용성 대한상의 회장님과 김재철 무역협회 회장님, 김영수

중소기업협동조합중앙회 회장님을 비롯한 우리나라의 경제계가 모두 대구로 옮겨 오신 것 같습니다. 여러분을 중심으로 존경하고 환영합니다.

그리고 금번회의를 위해 노고를 아끼지 않은 양국 정부와 경제협회 등 관계 기관과 단체 임직원 여러분께 심심한 감사를 드립니다.

아울러 대구지하철 화재참사에 대구시 자매도시인 히로시마시장님을 비롯한 일본의 각급 단체 등에서 애도의 서신과 조의금을 보내 주신데 대해 이 자리를 빌어 진심으로 고맙다는 말씀을 드립니다. 특히 이 자리에서 일본측 참석자 여러분들이 뜻을 모아서 다시 한번 조의금을 저에게 전달해 주신 것에 대해서 고맙다는 말씀을 아울러 드립니다.

대구는 국제도시로서 도약을 위해서 전시컨벤션센터 건립, 대구국제공항화사업 등을 비롯한 기반시설 구축과 함께 각종 국제행사 개최를 위해 꾸준히 노력하고 있습니다. 그 덕분에 오늘 여러분과 같은 귀빈 여러분을 모시게 되어서 무척 기쁘게 생각합니다.

본 회의가 양국의 전반적인 경기침체 상태에서 개최되는 만큼 무엇보다 그 성과 또한 값진 것이 될 것으로 기대합니다. 아무쪼록 이번 회의에서는 올해 1월부터 발효된 한일투자협정(BIT)에 따른 투자증진 등 새로운 경제협력방안이 논의되어 어려운 양국의 경제상황을 타개하는 계기가 되길 바랍니다.

우리 대구지역에 투자하신다면 가능한 모든 지원을 아끼지 않을 것을 시장으로서 약속드리며, 특히 오늘 참석하신 일본의 대표적 기업들이 대구에 투자해 주시길 간곡히 바랍니다.

부디 대구에 계시는 동안 짧은 일정입니다만, 대구의 문화유산을 체험하시고 대구의 따뜻한 인정을 함께 하시기를 바랍니다.

아울러 오는 8월에는 대학생의 올림픽이라고 칭하는 2003하계유니버시아드 대회가 우리대구에서 개최됩니다. 이때 많은 분들이 대구를 방문하여 양국간 문화·스포츠 교류가 활발해 질 수 있도록 관심을 가져 주시길 거듭 부탁드립니다.

다시 한번 한일경제인 대구회의에 참석하기 위해 귀한 시간을 내어주신 내외귀빈 여러분께 깊은 감사를 드립니다. 도오모 아리가또 고자이마시따(대단히 감사합니다)



高野 紀元 (TAKANO Toshiyuki)

駐韓日本國特命全權大使

김상하 한일경제협회 회장님, 세토 유조 일한경제협회 회장님, 조해녕 대구광역시장님, 그리고 참석해 주신 여러분. 오늘 제35회 한일·일한경제인회의 개최식에 임해서 제가 인사말씀을 드리게 되었습니다.

우선 지난 2월 18일에 있었던 대구지하철 화재로 희생이 되신 여러분들의 명복을 이 자리를 빌어서 다시 한번 빕니다. 또 피해를 입으신 분들 하루라도 빨리 회복하시기를 진심으로 바랍니다.

한일간의 경제관계는 1998년 10월에 김대중 대통령께서 일본을 방문하셨을 때 양국정부간에 「21세기를 향한 새로운 한일파트너십을 위한 행동계획」에 합의 하셨습니다. 그리고나서 커다란 변화를 이루어 왔습니다. 양국정부는 파트너로서 상호협력을 하고 현재 경제관계의 긴밀화를 위해 노력을 하고 있습니다.

금년 1월부터 한일투자협정이 발효되었으며, 또 관세인하 뿐만 아니라 폭넓은 분야에서의 경제제휴, 연대, 그리고 시장통합을 지향하기 위한 한일FTA도 추진중입니다. 그래서 지난주에 서울에서 제5회 산학관 공동연구회가 열렸습니다. 또 한일 연금제도에 관한 이중가입 문제를 해결하기 위해서 사회보장협정에 대한 협의도 금년 3월부터 이루어지고 있습니다.

글로벌리제이션이 진척이 되고 있는 가운데에서 한일이 국제사회에서 경쟁력을 가지고 미래지향적으로 발전해 가기 위해서는 한일 양국이 신뢰와 협력관계를 긴밀하게 할 필요가 있겠습니다. 저희 일본정부는 한국정부와 함께 앞으로 여러 가지 협력의 기본적 범위를 만들어 갈 생각입니다. 최근 커다란 흐름이 되고 있는 것이 동아시아 전체의 경제연대 강화라고 할 수 있겠습니다. 한일FTA를 실현하는 것은 그것을 위해서도 중요한 핵이 될 것으로 생각이 되며, 한일 양국에 있어서도 실질적으로도 그리고 또 상징적으로도 대단히 중요한 과제라 할 수 있습니다.

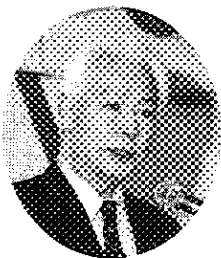
경제관계 긴밀화를 위해서 앞으로 더욱 더 커다란 비중을 갖게 될 것이 해외로부터의 투자라고 할 수 있습니다. 작년에 일본으로부터 한국으로의 투자는, 세계 전체로부터 한국으로의 투자가 줄어들고 있는 가운데에서 재작년 대비 80% 이상 증가한 수치를 나타내고 있습니다. 지난주에 저는 일본계기업이 평택에 신설한 공장 준공식에 참석했었습니다. 이렇게 눈에 보이는 형태로 일본기업이 한국에

서 비즈니스하는 케이스가 늘어난다는 것은 양국의 경제관계 긴밀화를 위해서 대단히 의미 깊은 일이 아닐까 생각합니다.

한국으로부터 대일 투자에 대해서 말씀드리겠습니다. 일본의 고이즈미 총리는 금년 1월의 소신표명 연설에서 「5년 후에는 대일 직접투자 잔고를 두배로 증가시킬 목표를 갖고 있다」고 말씀하셨습니다. 3월 27일에 정부의 「대일투자회의」는 그 실현을 위해서 행정절차를 재검토하고 사업환경을 정비하는 등 이러한 것과 관련된 74항목의 정책을 착실하게 추진할 것을 결정한 바 있습니다. 일본 정부는 한국정부와 마찬가지로 해외로부터의 투자를 환영하고 있고 시책 추진을 통해서 해외기업의 투자활동을 적극적으로 지원할 것입니다. 한국으로부터 일본으로의 투자가 증가하고 많은 실적이 축적이 될 것을 기대하고 있습니다.

한일·일한경제인회회는 금년으로 제35회를 맞게 되었습니다. 지금까지 오랜 세월에 걸쳐서 한일 양국의 경제인이 이 회의의 장에서 양국의 교류 강화를 위해 논의를 계속해 왔었습니다. 이번 회의는 2개 분과회로 나누어서 이루어지는데 여기서는 「한일 양국간의 투자교류 활성화」라는 주제와 또 하나는 「한일기업간에 있어서의 경쟁과 협력」이라는 주제를 가지고 논의를 한다고 들었습니다. 이 두 가지는 경제분야에 있어서의 한일협력의 실적을 쌓아 간다는데 있어서도 대단히 의미가 깊은 테마라고 생각이 됩니다. 이번 회의에서 많은 성과를 올릴 수 있는 논의가 이루어질 것을 기대하고 있습니다.

마지막으로 앞으로 일한경제협회와 한일경제협회의 가일층의 발전을 기원하면서 김상하 회장님, 세토 회장님, 그리고 오늘 참석해 주신 모든 분들의 건승과 발전을 빌면서 제 인사말씀에 가름하도록 하겠습니다. 감사합니다.



金 榮 洙

中小企業協同組合中央會 會長

존경하는 세토 유조(瀬戸 雄三)회장님, 김상하 회장님, 오쿠다 히로시(奥田 碩) 경단련 회장님, 그리고 타카노 토시유키(高野 紀元) 특명전권대사님, 그리고 오늘 준비를 해주신 조해녕 시장님을 비롯해서 우리 경제단체장님과 내외

귀빈 여러분!

저는 일본과 한국 경제계의 대표들을 모시고 오늘 제35차 한일·일한경제인회

의에 인사말씀을 드리게 된 것을 무한한 영광으로 생각합니다.

한일·일한경제인회의는 지난 69년 발족 이래 양국이 격년으로 회의를 개최해오면서 한일 양국간 경제협력과 상호 우호증진을 통한 협력강화의 견인차 역할을 수행해 왔다고 봅니다.

이번 제35회 회의 역시 한일투자협정 발효에 따른 상호 투자 및 협력 증진방안과 양국간 자유무역협정(FTA) 체결문제 등 양국이 당면하고 있는 경제현안에 관하여 발전적 협력방안을 모색하는 뜻깊은 기회가 될 것이라 확신합니다.

특히 유럽연합, NAFTA 등 세계적인 지역주의 추세와 중국의 급부상 등 한일 양국이 공통으로 직면하고 있는 경제환경변화에 대응하기 위한 제도적 경제협력 방안과 실질적인 투자활성화 방안이 심도 있게 논의될 것이라 생각합니다.

아울러 세계적인 지역주의 확산에 양국이 대응방안으로 추진하고 있는 한일 자유무역협정과 관련하여 추진상 문제점을 해소하고 시너지효과를 극대화 할 수 있는 방안을 마련하기 위한 폭넓은 의견이 개진되길 기대합니다.

중장기적으로는 중국을 포함한 동북아경제 공동체 조성에 양국이 적극 노력해 나감으로써 미주와 유럽에 이어 동북아경제가 세계경제의 3대축으로써 공동번영을 누릴 수 있도록 협력해 나가야 할 것으로 봅니다.

향후에도 한일·일한경제인회의가 지역주의와 경제통합 흐름에 대한 적극적인 대응을 통해 공동의 경제성장과 공동번영을 이끌어 나갈 수 있는 여건을 조성해 나가도록 노력해야 되겠습니다.

아무쪼록 이번 회의가 21세기 양국간 실질적인 경제협력문제를 폭넓게 교환함으로써 상호 Win-Win할 수 있는 발전적인 한·일 경제협력 방안을 제시하는 뜻깊은 자리가 되길 기원합니다.

끝으로 한일·일한경제인회의의 무궁한 발전과 양측 대표 여러분의 건승을 기원합니다.

감사합니다.



渡辺 修 (WATANABE Osamu)
日本貿易振興會 理事長

방금 소개를 받은 일본무역진흥회의 와타나베라고 합니다. 여러분께 인사를 드릴 수 있는 기회를 얻게 되어서 매우 영광스럽게 생각하는 바입니다. 저는 작년 7월에 JETRO 이사장으로 취임하게 되었습니다. 또한 일한경제 협회 고문을 맡게 되어서 이번에 처음으로 참가하게 되었습니다.

먼저 서두에 이렇게 훌륭한 회의를 준비해 주시고 여러 가지 배려를 해 주셔서 여러분께 제가 일일이 거명을 할 수는 없겠습니다만, 한국의 관계자 여러분께 진심으로 감사를 드리는 바입니다.

저는 35년반을 통산성에서 근무를 했습니다. 그리고 3년반 전에 퇴임을 하게 되었습니다. 아시아와의 관계로는 97, 98년 아시아 금융위기가 일어났을 때 사무차관으로 여러 가지 대응을 했던 것이 매우 기억에 남습니다. JETRO는 한국의 KOTRA와 비슷한 조직입니다. 전세계 60개국에 79개의 사무소가 있습니다. 세계 각국과 일본과의 무역투자 상호발전을 위해 노력하고 있습니다. 그리고 98년부터 한국의 대외경제정책연구원 KIEP와 저희 조직 내에 있는 아시아경제연구원이 한일FTA의 경제효과에 대해서 공동으로 연구를 하여 오늘날의 산관학 FTA연구회의 흐름을 만든 것도 여러분 모두 기억하실 것입니다. 또한 김대중 대통령과 오부치 총리와의 합의에 따라 지난 3년간 한일간의 교류촉진을 목적으로 해서 한국이 일본에서 코리아슈퍼엑스포를 개최하였습니다. 일본은 한국에서 일한페스티발이라고 하는 행사를 각각 3회씩 개최하였습니다. 양국민의 상호이해를 더욱 증진할 수 있었습니다. 일본측의 창구가 된 JETRO로서 이 자리를 빌어서 여러 도움을 주신 분들께 진심으로 감사드리는 바입니다.

그리고 금년 2월부터 JETRO의 웹사이트인 Trade Tie-up Promotion Program과 한국 KOTRA의 실�크로드 21이라고 하는 링크 페이지가 완성되어서 가동되고 있습니다. 양측의 데이터베이스에 축적된 여러 가지 요청안건, JETRO에서는 약 3만9천개의 회사가 등록을 하여 1만5천건의 요청이 있었습니다. 이것을 상호 열람할 수 있게 되었습니다. 비즈니스 매칭을 위해 여러분께서도 이 링크된 양측의 웹사이트를 이용해 주셨으면 합니다. 일본경제는 디스플레이션 속에서 불량채권을 처리하기 위해 산업재생기관이 실질적으로 가동되고 있으며 5월 중순 이후에는 역동적인 움직임이 나오리라고 생각합니다. 스피드감을 갖고 무엇보다 우선 계획을 실현하는 것이 제일 중요하리라고 봅니다. 그 결과 최근 1년에는 매

우 어려운 상황이 계속되겠습니다만, 그것은 새로운 재생을 위한 필수 불가결한 단계라고 생각합니다. 무엇보다도 보다 중장기적인 일본경제 재생을 위한 방향은 최근 1년반 사이에 나타난 일본기업의 동아시아지역으로의 적극적인 진출과 아시아지역 전체의 경제통합 속에서 더욱 확실히 나타났으리라고 생각합니다. 급속히 경제통합을 이루고 있는 동아시아 즉, 일본, 한반도, 상하이, 홍콩, 타이완, 그리고 말라카해의 아세안 각국이라고 하는 바다의 아시아시대가 더욱 더 활발한 활동을 해서 그물망 같은 비즈니스 연결을 통해서 일체가 되어서 성장하고 있습니다. 그리고 그 파일은 이들 나라가 자국의 경제발전 단계에 따라 가진다고 하는 윈윈 게임이 이미 시작되고 있습니다. 그러한 가운데 일본경제는 틀림없이 재생활 것이라고 확신하고 있습니다. 한국도 더욱 커진 파일을 확실히 가져올 수 있을 것이라 생각합니다. 과제는 이렇듯 실태로서 형성되고 있는 동아시아의 경제통합이 국경의 존재로 인해서 장애가 생기는 일이 없도록 FTA, 또는 경제연계협정의 체결을 더욱 가속화하는 것이 매우 중요하다고 생각합니다.

일본과 아시아경제 연계 프로그램, 중국과 아세아 FTA 협정이 추진되고 있습니다만, 그 토대가 되는 한일 경제연계도 저희의 노력으로 추진해 나가지 않으면 안될 것입니다. 노무현 대통령은 동북아시아권 구상을 추진하고 계십니다. 저희 동아시아의 비즈니스권 구상에서는 아세안이 그 중심이 되고 있습니다. 중국에 흡수되지 않도록 경쟁력 있는 3억5천만의 아시안 각국의 존재가 아시아의 평화와 안정을 위해 필수 불가결할 것이라고 생각합니다.

엣그제 제가 만나 뵈신 황두연 통상교섭본부장, 윤진식 산자부 장관님 두 분 모두 한국의 대일무역 적자문제를 크게 지적하셨습니다. 한국은 일본으로부터 부품과 소재를, 그리고 중간재를 대량으로 구입하고 있기 때문에 일본간에는 무역 적자를 안고 있습니다. 이것들을 사용해서 한국은 경쟁력 있는 제품을 제조하고 그것을 동아시아지역을 중심으로 전세계에 수출함으로써 무역흑자를 확보하고 있습니다. 한국은 무역구조의 현실에서 봤을 때 저는 건전하게 운영이 되고 있다고 생각합니다. 그러나 두 분께서는 정책적인 면에서 그런 부분을 지적하신 것이라 생각합니다. 사실 두 분 모두 이것의 해결은 양국의 산업인의 활동을 통해서 축소되었으면 한다고 바램을 말씀하셨습니다. 저희 양국의 산업 관계자들에게 큰 책임이 있다고 생각합니다. 경제적인 관점에서 보면 이러한 것의 한가지 해결방법은 한국기업의 일본시장으로의 한층 더 진출하는 것이 큰 열쇠가 되리라고 생각합니다. 물론 일본의 대한 투자촉진도 필요하다고 생각합니다.

일본의 시장규모는 중국의 약 4배에 달합니다. 그러한 거대한 시장에서 봤을 때 중국으로부터의 수입이 18.3%입니다. 아시아 선진 5개국으로부터의 수입비율

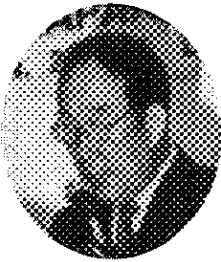
은 모두 합해서 14%입니다. 한국은 4.6%에 지나지 않습니다. 그리고 그 비율은 최근 들어서 저하되고 있습니다. 저는 한국산업의 경쟁력은 이 정도는 아니라고 생각하고 있습니다. 우선 대일 수출의 촉진을 위해서 더욱 더 노력하셔야 할 것입니다. 그리고 한국으로부터 중국, 아시아지역에 투자를 한 기업들이 일본시장을 노리고 수출하는 것이 더 필요하리라 생각합니다. 그리고 나아가서는 한국으로부터 일본에 대한 직접투자를 확대하는 것, 또는 일본기업과 연대를 해서 일본 시장에서 한층 더 수익을 높일 수 있도록 노력하는 것, 이러한 여러 가지 다각적인 노력을 해야 할 필요가 있을 것이라고 생각합니다. 그리고 그러한 것들을 위해서도 이러한 경제연대협정을 체결하는 것이 이러한 흐름을 더욱 가속화하리라고 생각합니다.

한일 양국의 산업발전을 위해서 이런 여러 가지 과제를 달성하고, 그리고 일한 경제협화 고문으로서, JETRO의 이사장으로서 모든 노력을 기울여 나가고자 합니다. 여러분 앞으로도 잘 부탁드립니다. 경청해 주셔서 감사합니다.

VI. 基 調 演 說

1. 韓國側 基調演說

「21世紀의 同伴者的 韓日關係의 進展을 위해」



朴 容 晟

大韓商工會議所 會長

(먼저 이 자리를 빌어 지난 2월의 대구 지하철 화재사건 당시 무고한 생명을 잃은 고인들의 명복을 빌며, 유가족 여러분께는 심심한 애도의 뜻을 표합니다.)

존경하는 세토유조 회장님, 김상하 회장님, 그리고 한국에 새로 부임하신지 얼마되지 않아 한국생활에 적응하느라 애로가 많으실 타카노 토시유키 주한 일본 대사님을 비롯하여 다방한 중에 이 자리를 빛내주신 내외 귀빈 여러분과 한일 양국의 경제인 여러분께 깊은 감사의 말씀을 드립니다.

저는 오늘 오는 8월 개최될 하계 유니버시아드 대회 준비에 여념이 없는 세계적인 화학섬유산지 대구에서 제35차 한일·일한 경제인회의를 열게 된 것을 진심으로 축하드립니다. 또한 본인이 오늘 양국을 대표하는 경제인 여러분 앞에서 기조연설을 하게 된 것을 무척 기쁘게 생각합니다.

한일·일한 경제인회의는 지난 69년 발족 이래 오늘 제35차 회의에 이르기까지 꾸준히 양국의 경제인이 주요 도시를 교차 방문하며 한일 양국의 경제협력과 상호 이해증진을 위한 가교역할을 성실히 수행해 왔다고 믿습니다. 이는 모두 양국 경제인 여러분들의 각별한 지원과 협조 덕분에 가능한 일이었습니다. 향후에도 이 회의가 21세기 한일관계의 동반자적 발전과 새로운 협력의 틀 모색에 믿음직한 견인차 역할을 수행해 나가리라 확신합니다.

저는 오늘 이 자리를 빌어 한일 양국이 급변하는 우리의 주변여건을 직시하고 우리의 현 위치를 객관적으로 인식하여 21세기에 걸맞는 동반자적 한일관계를 보다 진전시켜야 하는 당위성과 비전에 대해 소견을 피력해 보고자 합니다.

세계적인 변화의 흐름을 직시하자

존경하는 한일 일한 경제인 여러분! 지금 우리는 우리를 둘러싼 세계의 냉엄한 변화의 흐름을 직시하지 않으면 안된다고 생각합니다. 현재 세계경제의 양대 축을 이루고 있는 경제 블록인 EU와 NAFTA는 끊임없는 자기진화에 여념이 없습니다. EU는 1951년 유럽석탄철강기구로 출범한 이래 지속적으로 시장통합에서 경제통합으로의 악셀레이터를 밟아 왔습니다. 급기야 1999년에 단일통화가 출범하였고 앞으로 보다 많은 회원국을 확보하면서 이제는 정치통합을 목표로邁進하고 있습니다. 한국과 일본의 최대 수출시장인 미국이 주도하는 NAFTA는 1995년 창설된 이래 급속한 역내국간의 교역을 증대하며 경제블록의 잇점을 확인하였고 2005년까지 무려 북남미 34개국이 참가하는 FTAA 즉 미주자유무역협정을 체결하기로 합의한 상태입니다. 이 뿐 아니라 전세계적으로 약 240여 개의 자유무역협정이 체결되거나 협상 중에 있습니다.

중국은 WTO 가입으로 인해 부담하게 될 개방의 비용보다는 편익이 크다고 판단해 역사적인 모험을 감행했습니다. 사실 1999년 4월 이전 중국 내부에서는 WTO 가입에 대해 어떠한 논의도 이루어지지 않았다고 합니다. 그 이유는 WTO 가입이 중국의 농수산업 및 자동차 등의 보호 산업과 취약한 금융 시스템에의 악영향에 대한 우려 때문이었습니다. 그러나, 장쩌민(Jiang Ze Min, 江澤民) 지도부는 결국 2001년 9월 WTO에 정식가입을 단행하였습니다. 그렇다면 그 결과는 어떻게 나타났을까요? 물론 WTO 가입으로 인해 실업률 증가, 빈부격차 증가 등 부작용도 만만치 않으나, WTO 가입이후 국제사회의 명확한 일원이 된 중국에는 외국의 직접투자가 끊이지 않는 상황이 발생하였습니다. 對중국 직접투자는 미국과 서유럽에서 몰려들었고, 중국을 생산거점으로 활용하여 세계의 공급 시스템을 구축한다는 구조가 점차 구체화되기 시작한 것입니다. 이를 계기로 중국 내부에서는 노동집약적 제품뿐만 아니라 이미 일부에서는 연구집약형, 지식집약형 산업분야에서조차 커다란 물결이 발생하고 있습니다. 중국의 WTO 가입과정을 보면서 우리는 중국이 개방의 의미가 무엇인지 확실히 체득하고 있다는 점을 깨닫게 됩니다.

아직도 위기의식이 부족한 한국과 일본

그렇다면 우리를 둘러싼 세계환경은 이렇게 긴박하게 돌아가고 있는데 우리의 현실은 어떻습니까? 아직도 한국과 일본은 위기의식을 느끼지 못하고 있는 것은 아닌가 하는 생각이 듭니다. 한국은 지난 몇 년간 외환위기를 맞은 이후 나름대로 구조조정이 소기의 성과를 거두어 IMF 구제금융을 받은 나라로서는 최단기간

에 위기극복에 성공한 나라라는 찬사를 받았습니다. 심지어 일부에서는 이제 일본이 한국으로부터 배워야 할 때라는 말을 서슴지 않을 정도였습니다. 그러나 요즘 한국에서는 너무 일찍 샴페인을 터트렸다는 뼈아픈 자성의 소리가 들려오고 있습니다. 아직도 구조조정의 궁극적 목표인 성장잠재력 확충과 기업의 경쟁력 강화는 미흡하며 대규모 부실기업의 구조조정도 지지부진한 상태입니다. 공공부문 개혁, 노동개혁 등 여타부문의 개혁도 미결과제로 남아 있습니다. 이러한 가운데 얼마 전에는 대기업의 대규모 분식회계 사건이 터져 나와 외국에서는 과연 한국이 제대로 구조조정을 한 것인가 의구심이 들게끔 하였습니다. 또한 대구의 지하철 화재사건은 한국의 부실시공 관행과 안전불감증을 여실히 보여준 참으로 부끄러운 사건이었습니다. 우리는 아직 가야 할 길이 멀다는 사실을 시인하지 않을 수 없습니다.

일본 또한 장기불황에서 벗어날 기미가 쉽사리 보이지 않고 있습니다. 저는 일본의 금융 시스템 불안과 장기 다플레이션도 물론 중요한 현안이나, 이보다도 중국의 부상에 대비되는 일본의 산업경쟁력 저하에 주목할 필요가 있다고 생각합니다. 1970년 세계무역에서 일본의 비중은 6.1%, 중국은 0.7%이었으나 2001년에는 일본이 6.1%에서 정체되어 있는 반면 중국은 4.1%의 고성장을 하였습니다. 동아시아에서 일본수출이 접하는 비중이 1970년 60%에서 2001년에 26.6%로 감소했으나 중국은 동기간 5.3%에서 17.6%로 상승했습니다. 개별산업별로 보더라도 일본의 침체와 중국의 부상은 확연히 드러나고 있습니다. 일본은 전통적으로 화학, 금속, 전기전자, 자동차, 기계 등의 자본집약적 산업에서 높은 경쟁력을 보유하고 있습니다만, 무역특화지수라는 경쟁력 지수를 기준으로 본 이들 산업의 경쟁력은 지난 1990년 이후 지속적으로 하락하는 추세에 있습니다. 이를 반영해 1980년대 평균 18.2%의 높은 증가율을 보이던 일본에의 아시아 유학생수는 1990년대에 평균 7.8% 수준에 머무르고 있습니다. 중국 다음으로 큰 비중을 차지하고 있는 한국의 유학생수의 증가율도 이와 유사한 패턴으로 나타나고 있습니다.

우리는 지금 중국에서 일어나고 있는 대대적인 개방과 개혁의 바람이 결코 한 일 양국과 무관하지 않다는 사실에 주목해야 하리라 생각합니다. 우리가 우물쭈물하고 있는 동안 해외의 주요 다국적기업은 물론 한국과 일본의 대다수 기업은 중국으로 물러가게 될 것입니다. 그 와중에 일본의 존재감은 상대적으로 더욱 저하되고 있습니다. 2001년 가을 중국은 ASEAN에 대해 자유무역협정의 체결을 제안하였습니다. 그리고, 2004년 타결을 목표로 하는 농산물 무관세화 교섭이 개시되었습니다. 만약, 이들 11개국으로 이루어진 자유무역협정이 체결된다면, 실물에서 일본의 존재감은 더욱 축소될 것이 자명합니다. 이렇게 될 때 한국과 일본은 어떠한 입장을 견지할 것인지 결정해야만 할 것입니다.

앞서가는 문화교류, 뒤처지는 경제교류

한일 공동월드컵의 성공적 개최는 한일 관계사에 길이 남을 역사적 사건이라고 생각합니다. 이를 계기로 양국간의 문화교류는 최전성기를 맞은 듯 합니다. 특히 양국간의 대중문화교류는 상호 이해의 폭을 깊게 하는 아주 중요한 요소라고 생각합니다. 한국의 16세 소녀 보아가 일본 팬들로부터 사랑 받고 있으며, 공영방송인 NHK 위성방송에서 4월부터 한국의 인기 드라마였던 겨울연가를 현재 방영하고 있다는 소식을 들었습니다. 한편 한국에서도 일본의 여배우가 유민이라는 한국 이름으로 한국에서 TV 드라마에 출연하는 등 인기를 모으고 있습니다. 이제 김치와 우동은 일본과 한국에서 더 이상 외국음식이 아닌 듯 합니다. 한국에서 오코노미야키나 타코야키, 낫토와 같은 일본의 토속음식을 먹는 것도 어렵지 않습니다. 이렇게 양국간에 사회문화적 교류가 점차 확산되고 있다는 사실은 그 만큼 양국간에 가까운 이웃으로서의 유대감이 깊어 가고 있음을 반증하는 것이라 생각해 실로 반갑기 그지 없습니다.

그러나 다른 한편 양국의 경제교류는 문화교류에 비해 소원한 게 사실입니다. 이미 2002년 한국의 수출시장 중 2위 자리가 일본에서 중국으로 바뀌었습니다. 이제 조만간 중국이 미국도 제치고 한국의 최대 수출시장으로 부상하는 날도 멀지 않았습니다. 한일 양국의 부실한 비즈니스 환경으로 인해 양국의 기업은 중국으로의 탈출러시를 이어가고 있습니다. 그러는 사이 한국에서는 일본에 대한 관심이 저하하고 있으며 일본경제의 침체와 비례해 한국에서는 이제 더 이상 일본경제로부터 배울 것이 없다는 논조가 확산되었습니다. 단적인 예로 일본의 국립대학인 동경대학 경제학과에 한국 유학생이 한 때 30여명에 달했으나 현재는 한 명도 없다고 들었습니다. 이렇게 한국과 일본관계가 점차 소원해지고 마는 걸까요?

그럼에도 불구하고 양국은 상호간에 여전히 중요한 나라임을 잊어서는 안됩니다. 한국에게 있어 일본은 제 3위의 수출국, 제 2위의 수입국이며 일본에게 있어 한국은 제 3위의 수출국이자 제 3위의 수입국입니다. 양국간에는 지리적 근접성, 긴밀한 경제관계 등으로 인하여 해마다 상당한 규모의 인적 교류가 이루어지고 있습니다. 한국의 경우 일본인 입국자수는 2001년 약 236만 명으로 외국인 총 입국자수의 절반을 훨씬 상회하고 있으며, 한국인의 일본 출국자수는 약 139만 명으로 총 출국자의 약 4분의 1을 차지하고 있습니다. 그러나 현재 양국간에 비자면제협정이 체결되어 있지 않아 양국 국민의 상호 이동에는 많은 애로와 제한이 따르고 있습니다. 따라서 한일 FTA 체결의 효과를 최대화하기 위해서는 양국간의 무비자협정을 통해 국민의 자유로운 왕래가 보장되어야 한다고 생각합니다.

일본의 장기불황은 한국에도 마이너스

한일 양국의 산업내무역 증대, 환율정책의 동조화로 인해 일본경제의 경기변동은 한국에게도 밀접한 영향을 미치고 있습니다. 한국 속담에 사촌이 땅을 사면 샴이 나서 배가 아프다는 말이 있으나, 한일 관계에 있어서는 단적으로 일본이 행복해야 한국도 행복하게 됩니다. 일본의 장기불황의 여파로 한국산 제품의 대일수출이 곤란을 겪고 있습니다. 일본 소비자의 저가 수입품 선호 경향이 강해지고 여기에 적응하고자 일본 제조업체의 가격경쟁이 격화되어 해외 저가품 수요가 확대되고 있습니다. 이는 일반적으로 동아시아국 기업에게 일본시장 진출의 기회를 제공하는 것으로서, 일본의 동아시아의 수입비중이 1991년 28.9%에서 2001년 42.7%로 급격히 증가하였습니다. 그러나 동 기간 동안 중국과 한국의 일본 시장 점유율을 비교하면, 중국은 6.0%에서 17.2%로 증가한데 비해, 한국은 5.2%에서 4.9%로 오히려 하락하였습니다.

이렇듯 일본의 장기불황에 따라 동아시아 전체 비중이 점차 증가하고 있는 상황에서도 한국상품은 가격 경쟁력 약화로 인하여 대일 수출이 감소하고 있습니다. 일본의 장기불황이 지속된다면 설령 한일 FTA를 체결한다 하더라도 임금수준이 중국에게 절대적으로 불리한 한국이 일본의 낮은 대일 관세율 철폐에 따라 일본시장에서 급격히 한국산 제품이 가격경쟁력을 확보하리라고 보지 않는다는 데 심각한 문제점이 있다고 할 수 있습니다. 실제로 기계, 철강의 일부 업종에서는 일본의 오오타쿠(太田區)의 중소기업체가 장기불황에서 살아남기 위해 피나는 코스트 삭감경쟁을 벌이고 있어 한국기업들은 일본시장에서조차 가격경쟁력면에서 밀려나고 있다고 호소하고 있습니다. 일본의 장기불황과 디플레이션의 지속으로 가장 먼저 피해를 입는 나라는 바로 한국이나 대만과 같은 중진국이라고 생각합니다. 우리가 일본의 경기회복에 관심을 가지지 않을 수 없는 이유가 바로 여기에 있습니다.

한국의 대일무역역조는 한국경제 전체의 최대현안

한국의 대일무역역조는 그 규모가 문제가 아니라 내용이 문제입니다. 한국의 대일무역역조는 한일관계에서의 현안이라기 보다 한국경제 전체의 현안으로서 이해해 주시길 바랍니다. 즉 우리의 취약한 기술경쟁력이 바로 대일무역적자라는 것으로서 나타나고 있으며, 이는 단순조립가공을 통한 성장단계를 벗어난 한국이 향후 지속적 발전을 해나가는데 있어 넘어야 할 최대의 산이라는 점에 대해 이해를 구하고 싶습니다. 그러나 이러한 대일무역적자의 해소방법이 일본에게 폐쓰기식으로 대한투자나 일본시장 개방요구가 되어서는 안된다고 생각합니다. 우리

한국정부와 민간기업은 일본기업의 대한투자유치의 걸림돌이 무엇이며, 이를 제거하기 위해 얼마나 노력하고 있는지, 기업은 지금까지 일본수출 증대를 위해 품질관리에 어느 만큼 노력했는지, 일본 소비자의 특성을 파악하기 위해 정말 고민했는지에 대해 먼저 자기반성이 전제되어야 한다고 생각합니다.

아직 우리는 일본에게 배워야 할 것이 많이 있습니다. 일본의 경기침체가 장기화되는 속에서도 도요타, 캐논 등 일부 기업들이 새로운 일본식 경영 모델을 도입함으로써 사상 최고의 경상이익을 달성하였다는 일본 매스컴의 보도는 일본 경제와 일본 기업에 대한 부정적 시각에서 탈피하여 일본 기업의 재도약 가능성을 주목할 수 있는 계기를 제공하고 있다고 볼 수 있습니다. 아울러, 일본의 연구개발 기반은 연구자수와 연구자금 총액을 기준으로 미국에 이어 2위를 차지하였고, 각각을 인구 대비 기준과 GDP 기준으로 살펴본다면, 세계 어느 나라에도 뒤지지 않는 수준에 해당됩니다. 이처럼 장기불황 속에서도 건재한 과학 기술력은 일본 경제성장의 토대인 기술 입국국으로서의 위상을 높여줄 뿐만 아니라 차세대 산업에서 일본의 역량에 대한 기대를 집중시키고 있다고 할 수 있습니다.

1949년 유가와 히데키가 노벨 물리학상을 수상한 이래 일본인 9명이 자연과학 분야에서 노벨상을 수상해 일본의 노벨상 수상자수가 세계 9위에 이릅니다. 특히 2002년 수상자인 다나카씨는 시마즈(島津)제작소라는 민간기업에서 대졸출신 주임으로 노벨상을 받게 되어 보이지 않는 곳에서 묵묵히 자신의 일에 최선을 다하는 일본 민간기업인의 저력과 기초에 충실한 일본인상을 여실히 입증하였습니다. 이 뿐 아니라 일본이 보유한 세계특허출원건수(1998년)는 43만 건으로, 2위인 미국의 1.7배에 달하는 것으로 알고 있습니다. 제가 이 자리를 빌어 특히 강조하고 싶은 점은 지금까지 일본이 쌓아온 기초체력은 오랜 시간 서서히 축적되어 온 것으로서, 아직 우리에게는 그렇게 쌓아가야만 하는 기초부문이 여전히 취약하다는 사실입니다. 그런 맥락에서 우린 여전히 일본으로부터 배워야 할 많은 것들이 있다는 점을 쉽사리 잊어서는 안된다고 생각합니다.

한일FTA를 통해 한일관계의 재도약을 모색

현재 한일FTA 논의는 한일FTA 산관학 공동연구회에서 진행되고 있다고 알고 있습니다. 공동연구회에서는 양국 각각의 재계, 정부, 학계가 참가하여 양국간에 한일 FTA의 기대효과 및 범위, 기본 방향성 등 한일FTA에 대한 모든 논제를 포괄적으로 사전점검하고 있으며, 지난 4월 14~15 양일간 서울에서 제5차 한일 공동회의가 개최되었다고 들었습니다.

본 공동연구회에서 포괄적인 한일FTA 체결이 궁극적으로는 역내 시장확대, 양국간 협력심화 등의 긍정적 효과가 크다는데 공감을 표시하였다는 점을 높이 평가하고 싶습니다. 저는 지금까지 공동연구회가 진행되어 오면서 얻어낸 가장 가치적인 성과는 양국간의 비관세조치(NTM) 협의회의 구성이라고 생각합니다. 이 협의체에서 향후 비관세조치를 발굴해내고 이를 개선하여 양국이 상호 무역의 확대균형을 위해 노력하는 것도 일차적으로 중요하지만 이 못지않게 중요한 것은, 우리측의 주요 현안인 일본의 비관세조치 문제를 다룰 협의체 구성 제의에 일본이 응했다는 점이라고 말하고 싶습니다. 이는 양국간의 사전적인 상호신뢰 구축에 긍정적으로 작용하며 앞으로 한국내의 한일FTA 체결 분위기 조성에 일조할 수 있으리라 기대되기 때문입니다. 지금껏 한일 양국이 국제적으로 불투명하고 폐쇄적인 비관세장벽이 많은 나라로 지목되어 온 것이 사실입니다. 따라서 금번 한일 비관세조치협의체 구성이 양국간 FTA 추진에 청신호가 될 뿐 아니라, 양국이 보다 투명하고 개방된 통합시장을 만들기 위해 노력하고 있음을 장차 우리의 중장기적인 FTA 상대국이 될 아시아 주변국 및 최종적인 FTA 상대국이 될 미국에게 알릴 수 있는 계기가 될 수 있을 것입니다.

모두에서 말씀드린 바와 같이 EU와 NAFTA는 현재 세계경제를 이끄는 거대 블록으로 자리하고 역외국은 이들에 대해 다분히 불리한 협상력을 갖는 위치에 처해 있습니다. 양대 경제블록이 회원수를 확대하게 되면 이러한 불리함은 더욱 심각해 질 것입니다. 따라서 우리는 한편으로 EU나 NAFTA와 같은 거대 경제블록에 대응할 수 있는 동아시아 거대통합시장의 형성을 궁극적인 지향점으로 삼고, 이를 실현하기 위한 교두보이자 국내 구조조정 촉진 및 경쟁력 제고의 지렛대로서 한일FTA를 전략적으로 활용해야 합니다.

여러분께서 잘 알고 계신 바와 같이, 자동차, 철강, 석유화학, 반도체, 화학섬유 등 양국의 주요 제조업 분야에서 양국 기업은 그 간 세계시장에서의 시장점유율 획득과 가격 경쟁력 확보를 위해 경쟁적으로 중복투자를 감행해 왔습니다. 그 결과 일본은 과잉부실채권, 과잉노동력과 더불어 과잉생산능력 보유라는 3대 과잉에 시달려 왔으며 최근까지 많이 개선되었다고는 하나 아직도 매우 중요한 사안으로 되어 있다고 알고 있습니다. 한국 또한 외환위기 이후 나름대로 구조조정에 노력했다고 하나 여전히 과잉설비에 기초한 출혈경쟁과 그에 따른 저조한 수익구조의 개선이 해결과제로 남아 있습니다. 한일FTA가 양국의 현안인 과잉설비산업의 구조조정에 매우 효과적인 수단이 되리라 확신합니다.

어느 과학자가 두 군대의 울타리 안에 각각 동 수의 여러 마리 생쥐를 풀어놓고 한 곳에는 먹이를 충분히 주어 상호 경쟁이 불필요하게 하고, 또 다른 한 곳

에는 먹이를 부족하게 주어 상호 경쟁이 불가피하게 한 뒤 이러한 환경차이가 생쥐의 두뇌에 미치는 영향을 관찰했다고 합니다. 여러분께서도 짐작하셨듯이 그 결과는, 경쟁이 불가피한 환경에 처해있던 생쥐들이 먹이 쟁탈을 위해 바빠 고민하며 움직이다 보니 그렇지 않은 환경하의 생쥐들에 비해 두뇌가 발달하고 근육 상태도 양호했다고 합니다. 바로 우리에게 한일FTA란 이와 같은 긴장과 자극을 주는 경쟁촉진 즉, 먹이 뺏기가 아닐까 생각합니다. 지금 당장은 조금 먹이를 뺏겨 배가 고파도 여기에 미리 적응해 두지 않으면 나중에 먹이를 더 뺏겼을 때 살아 남기 어려울 것입니다.

한일FTA 체결이 양국에게 원치 않는 고통을 초래할 가능성을 무시할 수는 없습니다. 그러나 우리는 한일FTA 체결시의 부정적 영향에 집착하기보다, 미래지향적으로 한일FTA를 자국의 구조조정과 산업경쟁력 제고에 적극 활용하고자 하는 발상의 전환이 요청되는 시점에 와 있습니다. 한일 양국은 아시아의 유일한 OECD 회원국으로서, 양국간의 수준 높은 포괄적 FTA 체결을 통해 경쟁이 격화된다면 상호 구조조정 촉진, 경쟁력 제고와 시장의 투명성 강화를 꾀할 수 있다고 확신합니다. 나아가 거대 통합시장에서 한일 양국은 통합시장의 매력도 증대를 위해 협력하는 동시에 각기 민간기업의 경쟁력 제고를 위해 선의의 경쟁을 추구하는 협력과 경쟁의 역동성을 창출하며 동아시아 FTA를 주도할 수 있는 체질 강화를 도모해야 할 것입니다. 이제는 이국적 시각이 아닌 글로벌한 시각에서 전략적으로 활용하고자 하는 차원에서 한일FTA 논의를 해야 할 때가 왔습니다.

우리가 한일FTA의 부작용에 대한 우려로 머뭇거리고 있는 와중에도, 한일 못지않게 부작용의 요소를 안고 우여곡절 끝에 탄생한 EU와 NAFTA는 현재 경제통합의 효과 극대화를 위해 날로 심화확대 일로에 있습니다. 중국의 입장에서 WTO 가입은 단기적으로 한일FTA 못지 않은 충격을 중국에 던져줌에도 불구하고 중국은 스스로 WTO 가입을 통한 개방과 개혁의 길을 선택했습니다. 이러한 세계의 거대한 변화의 흐름은 한일FTA 체결 여부를 두고 갈등하고 있는 우리에게 적지 않은 시사점을 던져준다고 생각합니다.

대립과 반목에서 신뢰와 상생으로

일본은 여전히 세계최고의 기술강국입니다. 일본은 그러나 이미 1970년에 고령화사회에 접어든 나라입니다. 반면 한국은 일부 산업의 약진이 두드러지나 여전히 기술경쟁력이 미흡하며, 2000년에 겨우 고령화사회에 진입한 혈기왕성한 나라입니다. 많은 일본분들은 한국에 오면 일본과 달리 활기가 느껴진다고 합니다. 아직 한국이 가야 할 길은 멀고 험하나 한국은 필요하다고 생각되면 변화를 두려

워하지 않는 나라입니다. 노사문제나 지재권 문제, 경영 및 회계관행의 불투명성을 개선하고자 신정부는 노력하고 있으며 민간차원에서도 이제 새롭게 변화하지 않으면 안되는 시점에 와있습니다. 우리는 한국전쟁의 폐허 속에서 한강의 기적을 일구어냈고, 1997년의 외환위기 때는 온 나라의 금을 모아 팔아 국제 금 가격을 하락시킨 극성스러운 나라입니다. 월드컵 기간동안 온 나라가 붉은 악마가 되어 성숙한 향연을 즐긴 열정의 나라이기도 합니다. 그렇습니다. 바로 한국의 역동성과 활력에 투자해 주십시오. 일본의 숙련된 기술을 꽃피워 보답하겠습니다.

한국에는 더 이상 투자가치가 없는가? 절대 그렇지 않다고 말씀 드리고 싶습니다. 물론 한국의 임금수준은 결코 낮지 않습니다. 그러나 한국의 고급인력, 연구개발의 높은 생산성, 기반산업의 충실한 인프라, 일본과의 근접거리, 문화적 유사성, 근면성 등을 종합해 한국의 생산비용을 판단해야 한다고 생각합니다. 최근 국내의 한 제약회사가 신약을 개발해 국내 최초로 FDA의 승인을 받는 개가를 일구어 냈습니다. 이로써 한국은 FDA 승인을 받은 전 세계의 단 10개국 대열에 들게 되었습니다. 바로 이러한 매력을 토대로 최근 미국과 유럽의 첨단기술을 보유한 기업연구소가 한국에 기술연구소를 설립하고 있습니다. 후계자 부재, 고령화로 고민하는 일본의 중소기업 여러분, 한국에 투자해 주십시오. 유사한 문화, 빠른 기술습득 속도, 일본과 가까운 거리, 높은 기반기술 수준 등으로 인해 한국에의 투자나 기술이전이 중소기업가 여러분에게 새로운 삶의 보람을 느끼게 해주리라 확신합니다. 한국을 새로운 눈으로 다시 봐주시기 바랍니다. 앞으로도 한국은 여러분의 투자를 유치하기 위해 최선의 노력을 경주하고자 합니다. 그 길만이 우리가 장차 번영을 보장받는 길이기 때문입니다.

한일FTA는 양국에게 있어 대대적인 모험일 수 있습니다. 이를 성공적으로 이끌어 21세기에 보다 강력한 경쟁력을 보유하기 위해 한국과 일본 두 나라는 국가간의 전략적 제휴에 나서는 것입니다. 이것이 상호 치열한 경쟁과 동시에 펼쳐지는 협력이라는 점에서 한일 양국은 이제 경쟁과 협력의 다이내믹한 조화를 이끌어 내야 합니다. 그 다이내믹한 현장에서 부대끼는 사이 우리는 어느날 크게 변모한 우리들을 발견할 수 있기를 전심으로 고대합니다. 감사합니다.

2. 日本側 基調演説

「東아시아 自由經濟圈 構築을 위한 韓日의 役割」



奥田 碩 (OKUDA Hiroshi)

日本經濟團體連合會 會長

1. 머리말

오늘 제35회 한일·일한경제인회의에 초청해 주셔서 여러분을 이렇게 대구에서 뵈 수 있게 되어 대단히 영광스럽게 생각합니다.

먼저 2월18일의 대구 지하철 참사 희생자 분들께 진심으로 애도의 뜻을 표하는 바입니다.

2. 한일관계는 긴밀화 一路

요즘 한일관계는 작년 6월에 개최된 월드컵 등을 계기로 긴밀화되고 있으며 한일 양국은 '가깝고도 먼 나라'에서 글자 그대로 '정말로 가까운 이웃나라(隣國)'가 된 것을 실감하고 있습니다.

개인적인 말씀을 드리자면 저는 최근에 한국영화를 볼 기회가 부쩍 늘었습니다. 할리웃 영화도 무색할 정도의 '쉬리'나 친구들의 뜨거운 우정을 그린 '친구' 등은 제가 매우 좋아하는 작품입니다.

또한, 일본 각 지역에서 부담 없이 한국의 가정요리를 맛 볼 수 있는 음식점이 늘었으며 슈퍼마켓이나 백화점에서도 한국요리 재료와 조미료를 손쉽게 구할 수 있게 되었습니다. 최근의 한일관계는 이와 같이 우리 생활과 밀접한 교류가 증대되고 있다는 점이 특징입니다.

3. 믿음직한 한국의 개혁과 일본경제의 현주소

한국에서는 외환위기 이후, 급속도로 일련의 경제구조개혁이 추진되었습니다. 예를 들어 대규모 규제개혁이나 수입선다변화제도 철폐 등, 대담한 외자도입정책이 추진되었으며 이들 개혁과 동시에 기동적인 재정, 금융정책이 전개되어 한국 경제는 급속하게 회복되었습니다. 저는 이러한 흐름을 대단히 믿음직스럽게 생각하고 있습니다.

이러한 개혁은 노무현 신정부도 계속해서 추진하신다고 들었습니다. 또한 한

국은 새롭게 ‘동북아 경제중심국가’를 향해 가일층의 개혁을 추진하실 거라는 말씀을 듣고 많은 기대를 걸고 있습니다.

한편, 일본경제는 경제상황이 매우 안 좋은 상태에 있습니다. 내수를 지탱하는 소비, 설비투자, 주택투자는 여전히 약하고 실업율도 높은 수준을 유지하고 있습니다.

또한 주가와 지가(地價)도 여전히 저조하여 디플레이션이 일본의 금융시스템과 실물경제에 미치는 영향이 우려되고 있습니다.

이러한 거품경제 붕괴 이후의 일본경제를 가리켜 ‘잃어버린 10년’ 혹은 ‘잃어버린 20년’이라고 일컬어지고 있습니다만, 이러한 상황을 극복하기 위해서는 잔피를 부리는 개선만으로는 불충분하다는 인식이 당초부터 있어 ‘개혁’에 관한 수많은 제안이 제시되었습니다.

이들 제안 중에는 정곡을 찌르는 훌륭한 제안도 많았으나 돌이켜볼 때 “도대체 무엇이 달라졌는가” 라는 생각을 안 할 수밖에 없는 상황입니다. 이들 제안의 대부분은 아직 실현되지 않았습니니다.

4. 새로운 비전 ‘활력과 매력 넘치는 일본’

처음부터 너무 후향적인 말씀만 드렸습니니다만, 저는 그 이유는 결국 명확한 장래 비전이 없으므로 인해 각 개혁이 체계화되어 있지 않기 때문이라고 생각했습니다. 이러한 문제의식을 갖고 일본경단련은 순수하게 민간입장에서 ‘왜 개혁을 실행하지 못하는가, 어떻게 하면 개혁을 실행할 수 있는가’ 라는 관점을 중시하면서 새로운 비전인 ‘활력과 매력 넘치는 일본’을 올해 1월에 정리하여 발표하였습니다.

이 비전에서는 2025년의 일본, 즉 올해 태어난 아기들이 사회에 진출할 즈음에 염두에 두고 향후 전망과 가치관, 행동규범 등을 제시하고 지금까지 쉽게 거론되지 못했던 과제도 다루었습니다.

국민이 새로운 형태의 성장과 풍요 등을 실감할 수 있고, 또한 세계 사람들이 ‘가보고 싶다, 살아보고 싶다, 일해보고 싶다, 투자해보고 싶다’ 는 생각이 들도록 ‘활력과 매력 넘치는 일본’을 재건하기 위해 필요한 구체적 제안과 일본경단련의 행동방침을 제시하였습니다.

5. 동아시아 연계를 강화

비전에 관한 자세한 설명은 생략하겠습니다만, 이 비전에서는 ‘동아시아 연계를 강화하여 글로벌 경쟁에 도전한다’는 항목을 4개의 기둥 중 하나로 제시하였습니다.

되풀이 말씀드릴 필요도 없겠지만 세계는 WTO를 중심으로 한 다자간 자유무역화 움직임과 동시에 최근 급속도로 지역경제권 형성이 진행되고 있습니다.

미국은 1994년에 NAFTA(북미자유무역협정)를 체결한 이후 현재 남미지역도 포함하여 미주자유무역지대(FTAA)를 추진, 정력적으로 협상을 진행하고 있습니다. 또한 유럽에서는 1992년에 시장통합, 1999년에는 화폐통합 실현을 통해 경제적으로는 완전히 국경 없는 EU를 형성함과 동시에 향후 중앙·동유럽으로 지역을 확대시키면서 몇 년 이내로 25개국으로 형성되는 거대한 경제권을 구축할 계획입니다.

저는 지난 달 벨기에, 프랑스, 독일 등 유럽 각국을 방문하였습지만, 정치주도 하에서 대담한 전략과 부단한 노력이 결실을 맺어 자유경제권이라는 열매를 손에 쥔 유럽의 모습을 새삼 확인하고 돌아왔습니다.

한편 동아시아에서는 역시 중국의 존재를 의식하지 않을 수 없습니다. 특히 무진장하며 고수준, 저임금의 인적자원은 한일 양국뿐 아니라 전세계에 다양한 영향을 미칠 것입니다. 따라서 우리들은 중국이 무엇을 하려고 하는지, 어디를 향해 나아가려고 하는지 주시하여 그 본질을 이해할 필요가 있습니다. 그러나 공연히 중국위협론을 내세우는 것이 아니라 중국을 포함한 동아시아 국가들이 서로 손을 잡고 '자유경제권'을 구축하여 세계의 중요한 3극(極)의 하나를 형성해야 한다고 굳게 생각합니다.

동아시아 자유경제권 구축을 위해서는 歐洲의 시장통합을 본받아 '상품, 서비스, 사람, 자본'의 자유로운 이동을 지향하면서 동시에 H/W, S/W 등 정보측면의 자유화도 염두에 둔 '5개의 자유화'가 중요합니다. 또한 동아시아 지역의 자유경제권이 원활하게 운영되도록 지역 인프라 공동구축이나 아시아통화기금 창설을 중심으로 한 역내협력을 도모함과 동시에 지구환경문제 등, 동아시아가 직면하는 세계적 문제를 공동으로 해결하기 위한 협력체제를 갖추어야 합니다. 이들 '5개의 자유화'와 역내외의 '2개의 협력'에 대해서는 한국 경제계 여러분들께서도 비전을 공유해 주실 것을 바라는 바입니다.

6. 동아시아 자유경제권을 주도하는 한일FTA - 조기체결이 필요

실제로 동아시아 각국은 자유경제권 구축을 위해 구체적 실천을 시작하고 있습니다.

일본은 작년 1월, 싱가포르와 '일본-싱가포르 신시대 경제연계협정'을 체결하였으며, 태국과 필리핀 등과도 FTA체결을 위한 대화를 시작하였습니다. 또한 코이즈미(小泉) 총리는 ASEAN과의 포괄적 경제연계구상을 제창하였으며, 또한 멕시코와도 정부간 협상이 진행되고 있습니다.

중국도 ASEAN과 FTA를 체결할 방침을 제시하였으며 일부 분야에 대해서는

2004년에라도 관세를 없애는 방향을 제시하는 등, 그 움직임을 가속화시키고 있습니다. 또한 한국은 칠레와의 협상을 마치고 싱가포르, 멕시코 등과 협상개시를 검토 중에 있다고 들었습니다.

동아시아에서는 앞으로도 양자간 협상과 동시에 예를 들어 ASEAN 전체나 한중일 등, 지역전체의 연계축진을 위한 움직임도 동시에 진행되리라 생각합니다.

이러한 동아시아의 자유경제권 구축을 위해 전략적 파트너로서 주도권을 잡을 수 있는 나라는 두말한 나위도 없이 한국과 일본입니다. 한일 양국은 그 '첫 걸음'으로서 한일FTA 조기체결을 추진해야 합니다.

한일 양국 경제계는 1965년의 한일수교 전후부터 긴밀한 협력관계를 구축해 왔으며 활발한 비즈니스를 이미 전개하고 있습니다. 그리고 지금 한일 양국은 동아시아 선진국으로 아시아 경제의 향후 발전을 견인하는 존재입니다.

한일FTA 체결은 한일 산업협력의 활성화라는 관점뿐만 아니라 동아시아 자유경제권구상을 추진하는데 있어 중심축 역할을 적극적으로 수행할 것입니다. 그런 의미에서 한일FTA도 광범위한 경제적 연계를 지향하는 포괄적 협정이어야 합니다.

동아시아 자유경제권 구축을 생각할 때 한일FTA 체결은 대단히 큰 한 걸음이긴 합니다만, 한편으로는 '첫 걸음'에 불과하다는 것을 강조하고 싶습니다. 유럽상황과 비교해 볼 때 동아시아에서의 한일 경제관계도 '관세동맹', '통화통합', 그리고 '시장통합'이라는 3가지 목적을, 적어도 지평선을 앞에 두고 협력해 나가는 시대가 된 것이 아닐까요.

여러분도 아시다시피 한일FTA 체결을 위해 양국 연구소에 의한 공동연구, 한일FTA 비즈니스포럼에서의 검토에 이어 작년 7월부터는 양국의 산관학 공동연구회에서도 검토가 진행되고 있습니다. 공동연구회는 이미 다섯 번에 걸쳐 문제점에 관한 정밀조사가 이루어졌다고 들었습니다만, 앞서 말씀드렸듯이 넓은 시야에서 적어도 올해 후반에는 공식적인 정부간 협상으로 진행되었으면 하는 바램입니다.

한일FTA에 관한 논의에서 한국측은 일본측에게 예를 들어 양자간 무역불균형 문제나 비관세조치에 관한 요망 등을 지적하셨다고 들었습니다.

무역불균형문제에 대해서는 일본의 부품이나 원자재를 수입해서 세계에 수출하여 전체적으로 무역 흑자를 기록하는 현재 한국의 상황은 결코 부자연스러운 것이 아니며, 양자간 무역 관점에서 논의할 사항이 아니라고 생각합니다.

이 문제의 해결을 위해서는 계속해서 한국측의 산업구조 개혁, 예를 들어 한국의 저변산업 육성이 필요합니다. 일본기업은 지금까지 한국기업과 협력하여 이미 매우 긴밀한 산업협력관계를 구축하였습니만, 이를 더욱 촉진하기 위해서도 포괄적 FTA 체결이 유효하다는 점을 다시 한번 강조하고 싶습니다.

7. FTA를 위해 일본은 '개국(開國)'과 '개혁(改革)'을 추진

한일FTA의 체결, 나아가서 동아시아 자유경제권 구축을 위해서는 우선 일본이 한국, 그리고 전세계에 나라를 개방하는 적극적 통상정책 전개가 필요할 것입니다. 지금 일본은 자국 의사로 나라를 개방하는 것, 즉 '개국(開國)'이 필요합니다. 개국을 위해서는 일본내 제도개혁이 필요할 경우도 있을 겁니다. 이러한 '개국'과 '개혁'을 실현하기 위해서는 말로만 하는 것이 아니라 일본정단련 스스로가 개혁을 위한 민간의 움직임을 주도해 나갈 필요가 있다고 생각합니다.

또한 두말할 나위도 없이 FTA 체결로 인해 가장 덕을 보는 것은 저희 경제계입니다.

일본정단련은 일한경제협회 및 한일경제협회와의 협력관계는 물론, 1983년 이후, 매년 전경련 정상들과 간담회를 개최하는 등, 한국 경제계와 실질적인 교류를 심화시켜 왔습니다. 향후 한일FTA 체결을 위한 논의에서는 한국경제계와의 의견교환도 충분히 하면서 일본측에서 개혁할 필요가 있는 문제점에 대해서는 적극적으로 일본정부에게 호소할 생각입니다.

한국은 구조개혁에서 일본의 선배라고 생각합니다. 한국의 개혁 속도를 일본도 본받아야 합니다. 저는 1999년에 일본정부의 IT사절단의 일원으로 한국을 방문했을 때 ADSL에 의한 인터넷 보급이 급속도로 진행되고, 그러한 가운데 IT벤처기업들이 과감하게 도전하는 모습을 보았습니다.

현재 일본에서도 드디어 고속인터넷시대가 도래한 감이 있습니다만, 아마 한국의 인터넷 붐이 없었다면 일본의 보급은 더욱 늦어졌으리라 생각합니다. 한국과 일본은 앞서 말씀드린 형태로 비전을 공유하면서 각각 가일층의 개혁을 위해 협력할 수 있는 파트너입니다.

8. 가일층의 인적교류와 문화교류가 필요

이러한 경제협력관계의 기본조건으로 역시 한일 양국민의 인적교류를 증대시키고 동시에 문화교류를 확대시킬 필요가 있습니다.

인적교류 확대에 관해 말씀드리면 저희 비전에서는 일본사회의 다양화를 도모하고 그 역동성으로 인해 경제를 활성화시켜야 한다고 주장합니다.

이러한 관점에서 일본의 외국인 수용을 진지하게 생각할 필요가 있다고 제안하였습니다. 전문적, 기술적 분야에 대해서는 이미 일본국내의 취업, 근무가 인정되고 있습니다만, 예를 들어 외국인 의사가 일본에서 진료하는 행위 등은 제한되는 등, 사회의 수요측면에서 보면 아직도 문호가 충분히 열려있다고는 볼 수 없는 상황입니다. 변호사, 회계사, 의사 등 해외 자격을 양자간, 지역간에서 상호인정하면 인재의 유연한 활용이 가능할 것으로 기대됩니다. 또한 제조현장이나 간

호 등, 폭 넓은 직종에 종사하는 외국인에 대해서는 투명하고 안정된 제도 하에서 그들을 받아들이는 시스템 구축을 생각할 때가 되었습니다.

이와 관련해서 흥미로운 사례는 대만의 경우입니다.

대만은 태국, 인도네시아, 필리핀 등과 양자간협정을 맺어 폭 넓은 직종에 종사할 외국인을 받아들이고 있습니다만, 엄격하게 제도를 운용함으로써 일자리를 외국인에게 빼앗기거나 소위 불법체류자가 증가하는 사태는 없다고 들었습니다. 비전에서는 일본에서도 이러한 사례를 참고로 외국인의 본격적 수용방법에 대해 검토해야한다고 제안했습니다. 또한 외국인들이 적극적으로 일본에서 일하고 싶다는 생각이 들도록 교육환경, 주거환경을 정비할 필요가 있습니다.

한일간에 하루 1만명이 오고 가는 등, 사람의 왕래가 가장 빈번한 관계에 있으므로 FTA 체결을 앞두고, 예를 들어 기술직이나 전문직 등, 비즈니스와 관련된 사람의 왕래조건 완화 등을 검토했으면 합니다.

또한 처음에 말씀드렸듯이 예를 들어 영화나 음악, 그리고 요리와 같은 일반 대중문화차원의 한일교류도 중요합니다.

제가 작년에 관람한 ‘선물’이라는 한국영화는 대단히 감동적이었으며 상영 후에 일본 관객들 눈에도 눈물이 고여 있었습니다.

한국에서도 일본영화의 인기가 높아지고 있다는 말씀을 들었습니다만 ‘철도원’이나 ‘반딧불이(호타루)’을 보시고 한국 분들에게서 눈물을 흘리셨다는 말씀을 들으면 역시 우리들은, 한국어로 ‘정’이라고 한하는데 매우 세밀한 감정까지도 서로 통한다는 사실을 실감했습니다.

한국에서는 몇 차례에 걸쳐 일본의 대중문화가 개방되고 있습니다만, 폭 넓은 상호이해 촉진이라는 관점에서 한국정부에게 완전한 대중문화개방을 부탁드립니다.

9. 맺음말

지금까지 여러 가지 말씀드렸듯이 한일관계의 가일층의 긴밀화는 양국 경제구조개혁이나 경제활성화 뿐만 아니라 21세기 동아시아의 이상적 방향을 제시하는데도 매우 중요한 요소입니다. 저도 일본 경제계를 대표하여 여러분과 한일관계의 긴밀화를 위해 솔선해서 노력해 나갈 생각입니다.

경청해 주셔서 감사합니다.

VII. 全體會議 I

1. 一般經過報告 (書面)

2002년 4월, 日本國 廣島市에서 개최된 第34回 韓日・日韓經濟人會議에서 合意된 각 사항의 실시상황 및 그와 관련된 양국간의 협력사업 등에 대해 보고 드리겠습니다.

그리고 本會議 傘下 2개 專門委員會인 韓日産業貿易會議과 韓日中堅中小企業委員會의 활동상황, 그리고 韓日中堅經濟人交流促進團에 대해서는 잠시 후 한국측의 각 대표로부터 보고가 있을 예정이므로 본 일반경과보고에서는 생략하도록 하겠습니다.

(1) 訪日輸出促進團에 관한 사항

본 사업은 한국측은 韓日經濟協會가, 일본측은 日本貿易振興會(JETRO)가 상호 협력하여 실시하고 있다.

작년에는 2회의 수출촉진단을 일본에 파견하였으며, 총 58개사 87명이 도쿄(東京), 오사카(大阪)를 비롯한 4개 도시에서 輸出商談會를 개최하여 양국 기업의 교류확대 및 한국 중소기업의 일본시장 진출에 크게 기여하였다.

최근 일본측 수용기관인 JETRO의 본 사업 지원여력 감소로 인하여 사업규모가 축소 경향에 놓여있는 실정이며, 99년 이후 또다시 兩國間 貿易不均衡이 深化되고 있는 점을 감안해 볼 때 본 사업의 現狀維持를 위한 다각적인 노력이 필요한 상황이다.

(商談會 概要)

次數	期 間	規 模	業 種	訪問地域	商談件數
1	5. 27 ~ 6. 1	26個社 (42名)	纖 維 消費財	札 幌 東 京	290件
2	10. 29 ~ 11. 2	32個社 (45名)	生活消費財	大 阪 長 崎	205件
合 計		58個社 (87名)		4個 都市	495件

(2) 産業技術協力財團의 사업에 관한 사항

한일 양국간의 산업·기술협력을 통해 양국간의 경제현안인 對日 貿易不均衡을 개선시킴과 동시에, 상호교류를 통해 발전적이고 미래지향적인 한일관계의 정립에 기여하고자 1992년 양국 정부간 합의로 양국에 설립된 産業技術協力財團은, 양국의 정부 그리고 관계 경제단체 및 기업 등의 적극적인 지원과 참여 속에 광범위한 활동을 계속해 오고 있다.

작년에도 양국의 재단에서는 産業技術 人材育成事業, 生産性向上 協力事業, 部品素材産業 協力事業, 新産業 交流協力事業, 地域間 産業協力事業, 貿易投資協力事業, 調査弘報事業 등 폭넓은 사업활동을 전개하였으며, 그중 9개의 공동사업을 실시하였다.

이들 한일 양국간 산업기술협력사업은 한국 중소기업의 산업기술력 향상과 양국 산업간의 협력 네트워크 구축에 크게 기여하였으며, 향후에는 동북아시아 시대를 대비할 수 있는 부품·소재산업 및 지역간 협력사업을 적극 개발하고, 추진함으로써 양국이 win-win하는 방향으로 사업을 전개해 나가야 할 것으로 보인다.

한편, 한국측에서는 한일산업기술협력재단의 설립 10주년을 기념하여 한일산업기술협력재단 10년사를 최근 발간하였으며, 지난 10년간의 한일산업협력의 발자취를 토대로 앞으로 새로운 10년을 설계해 나갈 계획이다.

(3) 靑少年交流事業에 관한 사항

한일 국교정상화 20주년을 기념하여 1985년 이후 여름방학기간을 이용해 실시하고 있는 한일청소년교류사업은, 작년도에는 7월 하순에 29명의 제18회 한국대학생 방일단이 일본을 방문하였으며, 일본에서는 8월 하순에 28명의 제15회 일본대학생 방한단이 訪韓하였다.

양국 대학생들은 7박 8일간의 체류기간동안 홈 스테이, 學生交流, 文化産業施設 見學, 占蹟地 踏査 등의 다양한 활동을 통해 상대국의 산업·사회·문화를 직접 접함으로써 폭넓은 상호이해와 우호친선을 증진시킬 수 있었다.

(4) 地域間 交流協力事業에 관한 사항

한일 지방간 산업협력을 촉진함으로써 지역경제활성화에 기여하기 위하여 한일 경제인회회의의 지방개최와 더불어, 일본 큐슈지역과의 무역·투자·산업기술협력 확대를 논의하는 第9回 韓・日(九州) 經濟交流會議가 작년 8월 28일부터 31일까지 일본 가고시마(鹿兒島)에서 개최되었다. 또한 지역간 교류를 확대하기 위해 日本 호쿠리쿠(北陸)지역과도 매년 정기적으로 경제교류회의를 개최해 오고 있으

며, 第3回 韓・日(호쿠리쿠) 經濟交流會議을 작년 4월 24일부터 26일까지 일본 가나자와(金澤)시에서 개최한 바 있으며, 한달후인 5월 하순에는 이곳 대구에서 제 4회 회의가 개최될 예정으로 있다. 이와 같은 지역간 협력을 통해 양국간 지역 산업발전에 기여해 오고 있으며, 양국간의 무역·투자·기술협력을 촉진시키기 위한 다양한 사업들을 발굴하여 추진해 오고 있다.

(5) 양국 「페스티벌」事業에 대한 協力の 건

작년 한일국민교류의 해를 맞아 한일 상호간 문화산업 교류를 목적으로 개최된 각종 페스티벌 사업을 적극 지원하였다. 작년 1월 21일 서울에서 개최된 일본주최 “2002년 한일국민교류의 해” 개막식 참석을 비롯하여, 10월 18일 광주에서 개최된 JETRO 주최의 제3회 일한교류제 “JAPAN-KOREA FESTIVAL 2002”에 한일경제협회 김상하 회장과 일한경제협회 瀬戸 雄三 회장이 참석하여 테이프커팅을 하였다. 한편 6월 19일부터 23일까지 도쿄에서 개최된 “KOREA SUPER EXPO 2002”는 일본측의 지원아래 성공리에 개최된바 있다.

2. 韓日・日韓産業貿易會議 報告



李 錫 瑛
韓國側 채어맨

「한일·일한산업무역회의」의 한국측 채어맨을 맡게 된 한국무역협회 부회장 이석영(李錫瑛)입니다. 작년 11월 14일과 15일 이틀 동안 한국의 제주도 신라호텔에서 개최되었던 「제4회 한일·일한 산업무역회의」에 대하여 보고

드리겠습니다.

현재 산업무역회의의 멤버는 한국 51명, 일본 52명으로 구성되어 있으며, 한국측 채어맨은 조건호 前부회장의 퇴임으로 올해부터는 본인이 맡게 되었고 삼성물산(주)의 이수철 부사장께서 2회 회의 때부터 코디네이터로 수고하고 계십니다.

일본측 채어맨은 스미토모(住友)상사의 아끼야마 토미이찌(秋山 富一) 상담역이 맡고 계시고, 일한경제협회 미카나기 키요요시(御巫 清美) 전무가 코디네이터를 맡아 주셨습니다. 올해부터는 미츠이 물산의 기무라 신이찌(木村 伸一) 고문님께서 채어맨을 맡으실 거라는 소식을 들었습니다.

지난 11월에 개최되었던 「제4회 한일·일한산업무역회의」에는 한국측에서 20명, 일본측에서 18명이 참가하여 테마별로 활발한 논의를 하였습니다.

[제 1세션]

제 1세션에서는 『한일 경제현황의 인식과 의견교환』이라는 테마로 양측의 주제 발표가 있었습니다. 한국측에서는 좌승희 한국경제연구원 원장이 「한국경제 개관 - 최근 경제동향·전망·정책과제를 중심으로 -」라는 주제로, 일본측에서는 가네꼬 슈헤이(金子 周平) 미즈호종합연구소 이사가 「일본경제의 현황과 향후의 과제」라는 주제로 발표해 주셨습니다.

좌승희 원장은 한국경제가 외환위기 이후 대외의존도가 높아지고 있어 내수중심의 성장으로 전환되어야 할 것이라고 지적하였습니다. 또한 내수 둔화와 대외여건의 불확실성으로 경기의 본격적인 확장국면 진입 여부는 불투명하지만 금리와 환율의 안정으로 2003년에는 5.8%의 GDP 성장을 할 것이라고 예측했습니다.

토론에서는 일본은 과거 10년간 재정지출을 중심으로 한 경기부양 정책을 실시해 왔는데, 개인소비 확대를 위해서 재정지출 확대와 감세 정책 중에서 어떠한 수단이 바람직한 지에 대한 질의가 있었습니다. 이에 대해 좌승희 원장은 재정지출보다는 감세를 통해 개인이 직접 소비를 확대할 수 있도록 유도하는 것이 바람직하다는 입장을 표명하였습니다.

일본측 발표자인 가네꼬 슈헤이 미즈호종합연구소 이사는 일본경제의 문제점을 4가지로 요약하여 발표해 주셨습니다. 첫째는 소비자 물가와 명목 GDP의 마이너스 상태가 지속되고 있고, 둘째는 과잉 채무, 과잉 설비, 과잉 고용 등 3대 과잉 문제를 지적하였고, 셋째, 사회구성원의 고령화화로 인한 수요 감소, 특히 젊은 층의 구매력 감소로 향후 일본 경제의 지속적인 수요기반 위축을 우려하였으며, 넷째, 산업공동화와 중소기업의 구조조정 문제를 지적하였습니다.

토론에서는 선진국 중에서 일본만이 디플레를 경험하고 있어 선진국들이 일본의 디플레를 주시하고 있다고 하였습니다. 디플레가 진행되면 국가재정과 기업수익에는 마이너스가 되지만, 가계의 실질소득은 증가한다는 지적도 있었습니다. 따라서 일본 정부가 디플레 문제의 심각성을 국민들에게 인식시키는 노력을 기울이고 고통을 분담해야 한다는 의견이 제기되었습니다.

[제 2세션]

이튿날 시작된 제 2세션에서는 『세계경제의 동향과 양국의 경제관계』라는 테마로 한국측의 정문건 삼성경제연구소 전무가 「세계경제 전망과 한일통상 이

슈」를 발표하였으며, 일본측에서는 카도타 히로시(角田 博) 일본경단련 국제협력 본부장이 「통상정책을 둘러싼 세계적 흐름과 한일협력 전망」을 발표하였습니다.

정문건 전무는, 세계 경제가 회복되려면 미국을 중심으로 한 IT경기가 먼저 되 살아나야만 세계경제도 회복될 수 있을 것이라고 내다보았습니다.

또한 미국 경제의 장기 성장이 불확실하며, 독일 경제가 제2의 일본경제화로 전략할 우려가 있다고 지적하였습니다. 이에 따라 독일 경제가 향후 5~10년간 불황에 빠질 가능성이 높으나 統獨에 따른 재정적자의 확대에 의해 재정 및 금리 정책의 사용이 곤란한 입장이라는 견해를 밝혔습니다.

또한 NAFTA는 미국과 멕시코 경제가 상호 보완적이며 IT산업이 호황을 누릴 때 체결된 데 비해, 한일FTA는 양국의 산업구조가 보완관계가 아닌 경쟁관계에 있어 체결하는데 다소 시간이 걸릴 수 있다는 설명이 있었습니다. 특히 한일 FTA 체결시 무역불균형이 확대될 것이므로 한일간 FTA 체결을 위해서는 한국에 대한 일본의 투자 확대 등을 통해 무역불균형을 해소하는 등 환경 조성이 필요하다고 하였습니다.

일본측 발표자인 카도타 히로시 국제협력본부장은 일본의 FTA 기본전략은 ASEAN과 한·중·일 차원에서 접근하는 것이라고 발표하셨습니다. 한일FTA를 체결할 경우 한국의 대일 무역적자가 확대될 것으로 예상되지만 장기적으로는 경제의 효율성 제고와 체질개선에 기여할 것이라는 의견을 발표하였습니다.

자유토론에서는 한일FTA를 위해 일본의 비관세 수입장벽 해소, 對韓 투자협력 및 양국간 산업조정 등이 필요하다는 한국측 의견과 한일FTA 추진의 현실적인 장애 요인을 수궁하며 향후 상호경쟁을 바탕으로 한 협력이야말로 양국발전에 기여할 것이라는 일본측 의견이 있었습니다.

그러나 일부 참석자들은 지금 당장에는 서로 견해가 불일치하는 부분도 있고 우선 해결해야 할 문제도 있으나 FTA 체결은 이제 더 이상 '선택'의 문제가 아니라는 데 의견을 같이하고 FTA 체결을 위해 상호 노력을 경주하기로 하였습니다.

가을에 열리는 산업무역회의는 봄에 개최되는 경제인회의 후속조치회의로써 중요한 역할을 하고 있으며 올해는 11월 27~28일 도쿄에서 개최될 예정입니다.

이상으로 제4회 한일 산업무역회의 보고를 마치겠습니다.

3. 韓日・日韓中堅中小企業委員會 報告



朴 龍 泰
韓國側 委員長代行

안녕하십니까? 중소기업협동조합중앙회 상무이사이면서 표제 위원회 위원인 朴龍泰입니다. 본 위원회 위원장이 현재 공식인 관계로 제가 위원장대행 자격으로 중견중소기업위원회의 운영 및 활동에 대하여 보고 드리겠습니다.

예년의 경우 양국의 중견중소기업위원회 회의는 경제인회의에 앞서 2월 또는 3월에 개최하였으며, 그 결과를 이 자리에서 보고하는 순서로 진행되었습니다만, 금년은 합동회의가 아직 개최되지 않았으며, 그 사유에 대하여 말씀드리겠습니다.

우선 운영에 있어서, 양국 사무국 중 일본측 사무국인 일한경제협회로부터 본 위원회의 보다 효율적인 추진을 위해서는 중소기업에 관한 사업을 오랜 기간동안 실시해 오고 있는 자매단체인 (재)일한산업기술협력재단에 사무국을 인수하여 맡도록 하는 것이 어떤지 라는 제안이 있었으며, 검토한 결과 동 재단에서 인수하기로 하였습니다.

한편, 동 재단은 기본적으로 인수는 가능하지만 합동회의를 포함하여 운영방안에 대한 재검토 등 양국사무국에서 충분한 협의가 필요하다라는 제안이 있어 한국측에서도 찬성한 바 있습니다.

또한 일본측 위원회도 지난해까지 재임했던 칸노 토시노리(菅野 利徳) 위원장이 전국중소기업단체중앙회의 전무이사를 퇴임하고 후임으로 타세 시우야(田勢 脩也) 전무이사가 위원장으로 취임하였습니다.

이러한 사유로 새롭게 출범한 일본측 위원회와 함께 현재 중견중소기업위원회의 취지에 부합하는 운영 및 議案에 대해 협의 중에 있으며, 이후 議案이 결정되는 대로 제21회 합동회의를 일본에서 개최할 예정입니다.

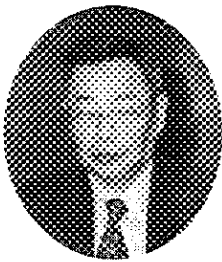
그리고 앞서 한일양국 경제협회 회장님의 인사말씀과 같이 양국 중소기업의 현황, 문제점에 대한 상호보완 등 새로운 비즈니스로 연결될 가능성에 대하여 한일 양국에서 조사를 진행하고 있으며, 현재 그 내용을 정리하고 있습니다.

우리 중견중소기업위원회에서는 본 조사결과를 기초로 운영상 개선이 필요한 사항 등을 포함하여 양국 합동회의 의제로 상정하고자 합니다.

앞으로도 여러분의 따뜻한 지원과 지도, 그리고 협력을 진심으로 부탁드립니다, 이상으로 중견중소기업위원회의 보고를 마치겠습니다.

감사합니다.

4. 韓日・日韓中堅經濟人交流促進團 報告



薛 元 鳳
韓國側 團長

안녕하십니까? 방금 소개받은 한일·일한중견경제인교류촉진단 한국측 단장을 맡고 있는 薛元鳳입니다. 본 미션의 활동상황에 대해 보고 드리겠습니다.

1989년 4월 개최되었던 제21회 한일·일한경제인회의에서의 합의에 따라 1989년 10월 제1회 미션을 파견한 이래 작년까지 총 13회에 걸쳐 미션을 상호 파견하였습니다. 그간 한국측에서 9차례, 일본측에서 4차례 상호 방문을 실시하였으며, 이와 같은 양국 중견경제인들의 정기적이고 긴밀한 인적교류를 통해 한국과 일본에 대한 이해를 돈독히 하고 유익한 정보교환 및 이해친선 증진에 큰 역할을 해오고 있습니다.

이러한 배경 하에서, 2001년 치바(千葉)에서의 교류회에 이어 작년 10월 10일부터 12일까지 일본 도쿄(東京) 경단련회관에서 한국측 33명, 일본측 43명이 참가한 가운데 「제13회 한일·일한중견경제인교류촉진단」 교류행사를 개최하였습니다. 12회 미션이 일본으로 파견된 바 있어 작년에는 한국에서 유치를 할 차례였으나, 양국 경제협회 사업 중에서 다른 행사와의 개최지역 중복을 피하기 위해 재차 일본으로 파견하게 되었습니다.

본 미션은 두 개의 세션으로 구성된 교류회의와 리셉션, 스터디 투어, 옵션 프로그램을 통해 한일 양국의 새로운 관계 도래에 걸맞게 가일층 충실한 정보교환과 진지한 토론이 이루어져, 인적교류 및 상호이해가 가일층 촉진되는 등 커다란 성공을 거둘 수가 있었습니다.

먼저 첫날인 10월 10일 교류회의 제 1세션에서는 작년에 이어 경영 일선에서 활약하고 있는 일본측 경영자의 초청강연회를 실시하였습니다. (주)미쓰이(三井)물산전략연구소의 테라지마 지즈로(寺島 實郎) 소장께서 「激變하는 世界情勢 속에서의 韓日 비즈니스맨의 對應」이라는 주제로, 작금의 어려운 경영환경을 어떻게 하면 슬기롭게 대처해 나갈 수 있는지 구체적인 사례를 통해 전향적인 비전을 제시해 주셨습니다. 이어서 진행된 질의응답, 자유토론 시간에는 테라지마 소장님과 참가자들간에 의욕적이고 적극적이며 열띤 토론이 전개되었으며, 양국 경제인들에게 향후 비즈니스에 상당한 도움이 되었다는 평가를 받았습니다

다음 날 제 2세션에서는 韓國에 주재하는 日本 기업인, 日本에 주재하는 韓國 기업인으로부터 해외에서의 바람직한 企業 經營方法 등에 대해 經驗을 바탕으로 한 主題發表가 있었습니다. 먼저 일본측에서 다카스기 노부야(高杉 暢也) 한국후지(富士)XEROX(주) 회장님께서 「강하고 즐겁고 정다운 會社를 향해서 -‘透明性’과 ‘勞使信賴’에 바탕을 둔 經營-」이라는 주제로 발표하셨고, 이어서 한국측으로부터 辛明植 현대모터재팬(주) 사장(주일한국기업연합회 고문)을 대신해 同社의 아키라 신지(明樂 眞治) 직판부 부장께서 「日本에서의 企業經營 -日本市場에서의 成功을 指向하며-」라는 주제로 발표하였습니다. 이후 질의응답·자유토론 시간에는 강사 두 분의 풍부한 실재 業務經驗에서 나온 體驗에 입각한 敎訓이 가득 담긴 말씀에 자극을 받아 솔직하고 충실한 討論이 활발하게 이루어져 상당히 유익한 교류회의가 이루어졌다고 사료됩니다.

첫째 날의 환영리셉션 자리에는 세토 유조(瀬戸 雄三) (사)일한경제협회 회장님께서 참석하시고 따뜻한 환영의 인사말씀을 해 주셔서 양국 단원간의 가일층의 교류가 촉진되었습니다. 이 자리를 빌어 다시 한번 감사의 말씀을 드립니다.

이틀째 회의를 마치고 진행된 스터디 투어에서도 세토 회장님의 배려로 아사히 맥주 이바라기(茨城)공장을 방문, 영상물 視聽과 맥주 제조공정을 見學하고 試飲도 하는 등 매우 有益하고 흥미로운 투어가 되었습니다.

이상과 같이 「제13회 한일·일한중견경제인교류촉진단」은 참가자 전원이 하나된 마음으로 그 어느해 보다도 충실한 교류활동을 전개할 수가 있었으며, '89년 제1회 미션을 파견한 이래 15년째를 맞고 있는 본 행사가 앞으로도 새로운 시대에 걸맞는 신선한 테마를 모색하여 기업경영에 실질적인 도움이 될 수 있도록 더욱 노력해 나가고자 합니다.

한편, 작년 12월에 있었던 양국 경제협회 定例業務協議에서, 본 사업이 이제는

‘交流促進’ 단계가 아닌 ‘韓日 兩國 中堅經濟人間의 交流’라는 任務수행을 위해 相互訪問한다’는 취지에 따라 名稱을 『韓日・日韓中堅經濟人交流MISSION』으로 변경하는 데 합의하였습니다. 금년에는 9월경 한국에서 개최될 계획으로 있습니다만, 일본측 관계자 여러분의 많은 참여를 부탁드립니다.

이상으로 「제13회 한일・일한중견경제인교류촉진단」의 활동상황에 대한 보고를 마치겠습니다. 경청해 주셔서 감사합니다.

Ⅷ. 第 1 分 科 會

1. 韓國側 백그라운드 페이지

「韓日間 投資協力 現況과 活性化 方案」



柳 寬 榮

産業研究院 海外産業室 研究委員

1. 韓・日間 貿易・投資構造의 變化

(1) 貿易

1) 韓國의 對日輸出

□ 對日輸出依存度는 크게 低下

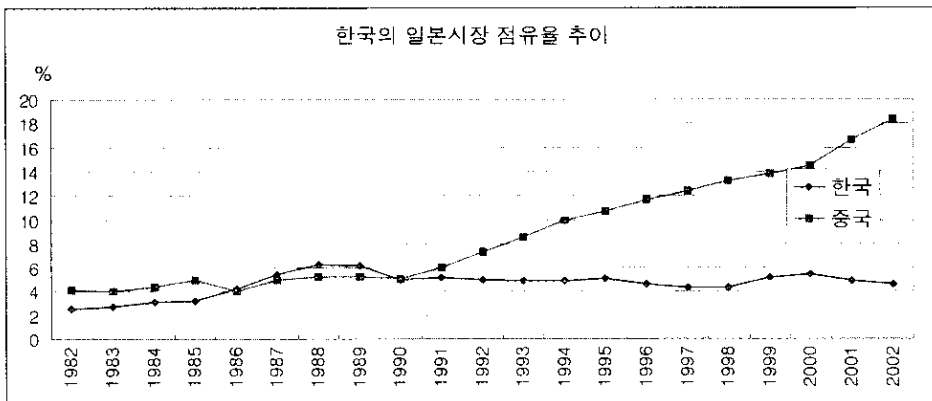
○ 對日 수출비율(對日 수출의존도) 1982~2002년 기간중 15.4%에서 9.33%로 저하

□ 日本市場占有率은 上昇했으나 中國에 비하면 크게 不振

○ 일본시장점유율은 동 기간중 2.5%에서 4.6%로 상승, 제품류의 일본시장점유율은 7%에서 6%로 저하

※ 그러나 중국에(4.1%→18.3%)비하면 상대적으로 크게 부진

<그림-1>

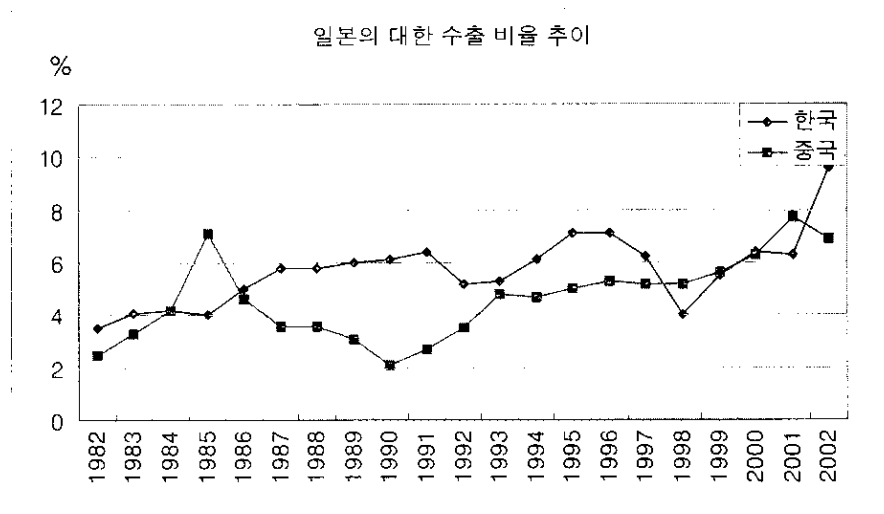


2) 日本의 對韓輸出

□ 對韓輸出依存度는 上昇

- 對韓수출비율(對韓수출의존도)은 동 기간중 3.5%에서 6.3%로 상승

<그림-2>



□ 韓國市場占有率은 低下

- 韓國市場占有率은 22.2%에서 19.6%로 低下

(2) 投資

1) 日本의 對韓投資

□ 對韓投資比率(對韓投資依存度)은 약간 상승했으나 對中투자에 비하면 크게 부진

- 같은 期間중 日本의 對韓投資比率은 1.4%에서 1.7%로 上昇

※ 그러나 中國(0.6%→4.6%)에 비하면 역시 크게 不振

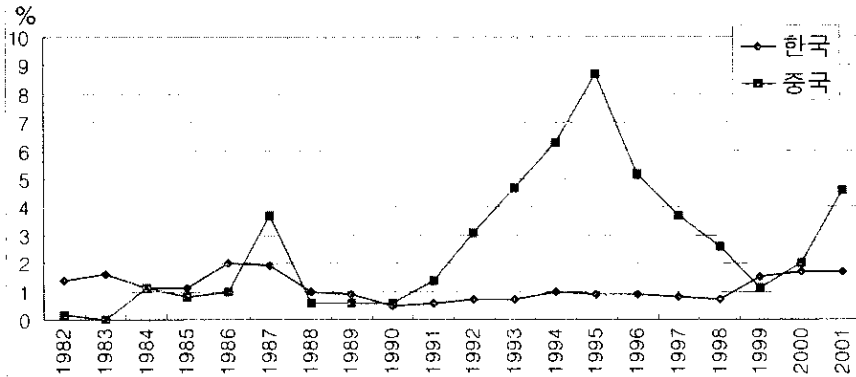
□ 生産據點型 投資에서 現地市場指向型 投資로

- 일본기업의 투자목적·동기, 그리고 현지 일본계 투자기업의 판매조달상황에서 보면 최근 한국은 과거와는 달리 현지시장개척을 목적으로 하고 있는 현지시장지향형 투자가 가장 많고 현지판매비율 70%를 상회하고 있음.
- 일본의 對韓투자와 비교하여 對中투자는 국제적유통망 개척을 목적으로 하

는 생산거점형 투자가 가장 많고 역의 수출비율이 50%를 상회하고 있음.

<그림-3>

일본의 대한 직접투자 비율 추이



□ 電氣・電子分野의 投資 크게 減少

- 산업별 일본인투자구조를 보면 한국은 80년대 중반과 비교하여 2001년에도 제조업비율은 거의 변동이 없음. 업종별로는 전기·전자산업의 투자비율이 크게 감소한 반면 화학산업의 투자비율은 크게 높아짐.
- ※ 한국과 비교하여 중국의 경우는 제조업의 투자비율이 10.1%에서 88.2%로 엄청나게 높아짐. 특히 전기·전자산업의 투자비율이 2.0%에서 35.5%로 급상승함. 전자산업에서 일본의 해외직접투자선으로서 중국이 독무대를 이룸.

2) 韓國의 對日投資

□ 매우 低調한 韓國의 對日投資

- 한국의 전체 해외직접투자에서 차지하는 對日투자의 비중은 4.3%로 수출의 對日투자비중 9.3%를 크게 하회
- 또한 한국의 對日투자는 일본의 전체 대내투자중 0.1%에 불과함.
 - 그나마 대부분 상사·무역업, 서비스업을 중심으로 한 비제조업투자이며 제조업투자는 90년대 중반이후 기계분야에 이루어지고 있는 정도임.

□ 現地生産보다는 輸出이 有利

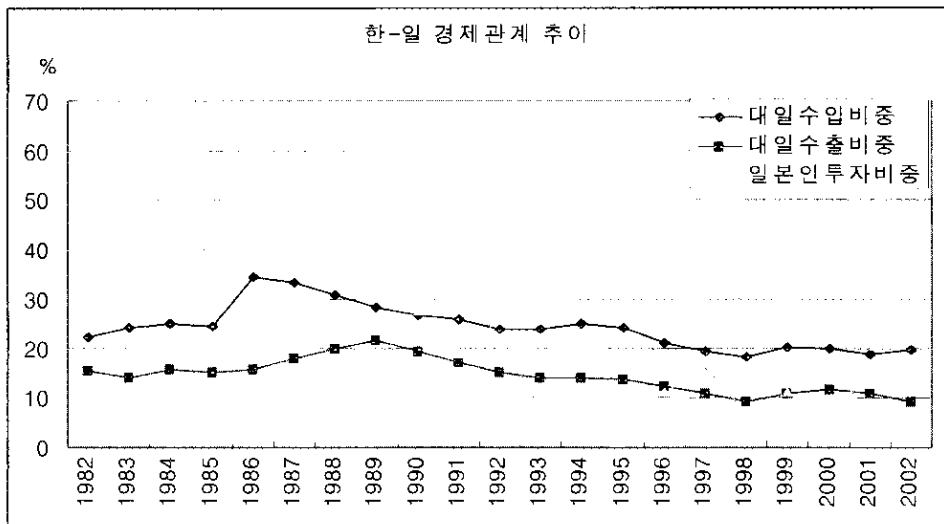
- 이처럼 한국의 對日투자가 저조한 이유는 그만큼 對日투자비용이 비싸고 특히 제조업분야에서는 생산거점형 투자는 물론 일본시장지향형투자의 경우에도 절대적으로 현지투자가 필요한 경우가 아니면 일본보다 생산비용이 저렴

한대다 수송비용 저렴하기 때문에 한국에서 생산하여 수출하는 쪽이 유리하기 때문이다.

(3) 小結

- 수입선 다변화, 일본의 대중문화 개방, 한·일산업협력확대 노력 등 한·일 경제관계의 촉진요인에도 불구하고 양적인 측면에서는 한·일 경제관계의 긴밀도는 저하
- 그 이면에는 중국의 등장이 최대변수로 작용하고 있음. 특히 對日수출과 일본인투자면에서 한국의 일본시장점유율 저하는 한국의 對中 경쟁력약화에 기인한 것임.
 - 對日수출상품면에서는 의류 등 노동집약적인 경공업제품은 물론 기계, 전자 등 기술집약적인 제품분야에서도 중국제품의 일본시장점유율이 한국을 크게 상회
 - 한국의 임금상승 등으로 일본기업의 투자시장으로서 한·중간 투자비용 확대 및 중국의 성장잠재력 증가 등으로 표준화제품분야는 물론 상당수준의 기술력을 요하는 非표준화제품 등의 분야에서도 일본기업의 對中투자가 급증

<그림-4>

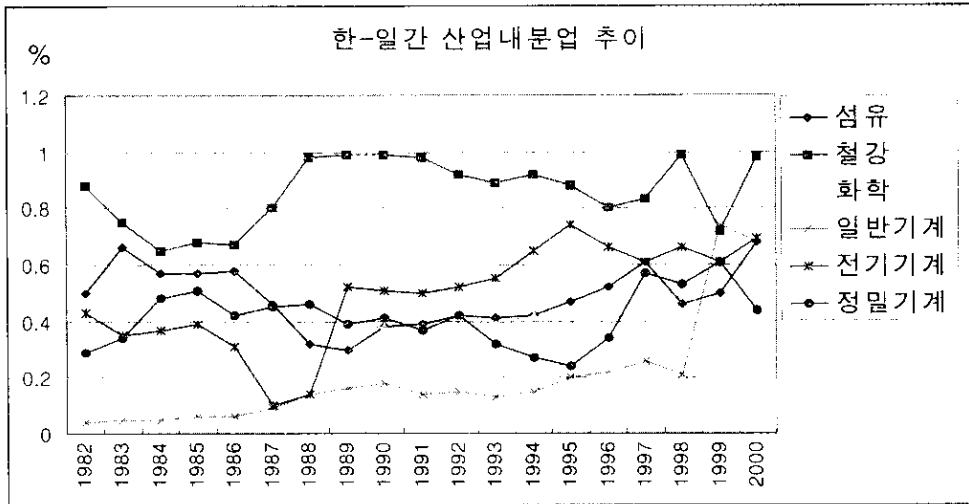


□ 질적인 측면에서는 한·일경제관계의 다양화·고도화

- 그러나 한·일 경제관계의 질적인 측면에서는 한·일간 산업내분업의 증대 및 분업구조의 고도화, 상호투자(cross investment), 협력형태·방법의 다양화

가 이루어지고 있으며 이같은 추세는 앞으로 한·일의 구조개혁에 따른 산업·기업재편과정에서 보다 가속화될 것으로 전망

<그림-5>



2. 韓日間 投資協定 締結과 效果

(1) 投資協定の 趣旨와 特徵

1) 投資協定の 意義

- 일본기업의 입장에서는 투자협정 체결로 인한 심리적인 불안감 해소라는 측면에, 한국측에서는 일본기업의 對韓투자 유치 확대
 - 특히 일본기업의 입장에서는 분쟁해결절차의 마련과 협력적 노사관계의 중요성을 협정에 규정함으로써 對韓투자에 따르는 불안감을 해소
- 한국기업 입장에서는 일본에 진출하는 한국 기업에 대한 부당한 차별조치를 제도적으로 방지하게 되었고, 특히 출입국상 보장을 통해 대일 투자활동에 실질적인 혜택을 부여

2) 投資協定の 特徵

□ 一般的인 投資保障協定과는 다른 「높은 水準의 BIT」

- 일반적인 투자보장협정이란 선진국과 개도국간의 「투자원금 회수의 보장을 목적으로 직접투자라고 하는 제한된 범위의 보호」를 해온 것이 일반적이었으나, 이번의 한·일 투자협정은 보호의 범위와 단계를 대폭 확대하였음.

- 즉 한·일 투자협정에는 기존의 투자협정에서의 보호대상인 직접투자외에 포트폴리오 투자목적의 주식투자, 기업인수 및 합병 등에까지 투자 보호의 범위를 확대
- 또한 이제까지 체결된 전통적인 투자(보장)협정은 투자의 설립 후 단계에서부터 내국민대우 부여하는 것이 보통인데 비해 이번의 한·일 투자협정은 투자가 설립되기 전단계(pre-establishment)부터 내국민대우를 부여
- 일반적으로 투자보장협정이란 과거 이미 설립된 법인이 투자유치국내에서의 안정된 경영활동이나 투자이익·원금의 회수보장이 주요 관심이었는데 비해, 한·일투자협정의 경우에는 투자설립 전부터 양국 국민에게 내국민대우를 보장함으로써 시장진입을 자유화한 점에서 의미가 있음.
- 따라서 이번 한·일 투자협정은 전술한 투자 관련 각종 규제조치 부과 금지(퍼포먼스 조항)를 규정하고 투명성 조항을 명기하였다는 점에서 「높은 수준의 BIT」로서 단순한 투자보장 기능 이외에 투자촉진 기능을 내포하고 있다고 할 수 있음.

(2) 日本企業の 對韓投資活性化 效果

1) 主要 設問調査 結果

□ 韓日 BIT 項目에 대한 日本企業の 評價

- 한·일 BIT 항목 중 일본기업이 가장 높게 평가하는 항목이 무엇인지를 설문한 결과 「送金 보장(22.6%)」, 「투자설립 이전 단계부터의 내국민대우/최혜국대우(17.0%)」, 「노사관계 개선 노력을 강조(17.0%)」, 「투자보장을 문서로 확보(15.1%)」, 「지적재산권 보호노력 강조(15.1%)」, 「퍼포먼스(각종) 요구 폐지(7.6%)」, 「투자 분쟁시에 국제분쟁 절차 이용을 보장(5.7%)」의 순으로 나타남.

□ 韓日 BIT 締結이 一般的인 日本企業の 對韓投資에 미치는 效果

- 한·일 BIT 체결이 일본기업의 對韓투자에 미치는 효과에 대한 질문에는 전체의 60%가 약간 증가할 것이라고 응답하였으나 거의 증가하지 않을 것이라는 응답도 40%에 달함.
- 그러나 한·일 BIT 체결로 인해 일본기업의 對韓투자가 크게 증대하리라고 응답한 기업은 한 곳도 없었음.
- 규모별로 볼 때 대기업보다는 중소기업이 BIT체결에 의한 영향을 보다 크게 보고 있는 것으로 나타남.
- 업종별로 볼 때 제조업보다는 서비스업이 한·일 BIT 체결로 인한 일본기업의 對韓투자 증대 효과를 크게 보고 있는 것으로 나타남.

- 한편, 한국에 대한 투자 유무별로 볼 때 既투자업체보다는 未투자업체가 한·일 BIT 체결로 인한 일본기업의 對韓투자 증대 효과를 크게 보고 있는 것으로 나타남.

□ 韓日 BIT 締結이 自社の 對韓投資에 미치는 影響

- 그러나 한·일 투자협정 체결이 자사의 對韓투자 결정에 미치는 영향에 대해서는 「거의 영향을 미치지 않는다」는 응답이 60.0%로 압도적으로 높았고, 다음이 「약간 영향을 미침(31.4%)」, 「상당히 영향을 미침(8.6%)」의 순으로 나타났음.
- 업종별로는 제조업보다는 서비스업이 한·일 BIT 체결로 인한 自社の 對韓투자 증대 효과를 약간 크게 보고 있는 것으로 나타났으나 그 차이는 아주 미미
- 한편, 한국에 대한 투자 유무별로 볼 때 既투자업체보다는 未투자업체가 한·일 BIT 체결로 인한 自社の 對韓투자 증대 효과를 크게 보고 있는 것으로 나타남.
- 일본기업들은 일반적으로 BIT 체결로 인해 일본기업의 對韓투자가 약간 증가할 것이라고 예상하면서도 자사의 對韓投資 결정시에는 한·일 BIT 체결이 그다지 영향을 미치지 않을 것이라고 응답
- 이는 실제적으로 이번에 체결한 한·일 BIT가 새로운 내용을 포함하였다기 보다는 기존의 투자 관련 사항을 협정이라는 체제 속에 편입시켰다는 정도의 의미로 일본기업이 인식하고 있기 때문으로 생각됨.

□ 韓日 BIT로 인해 日本企業의 對韓投資가 増加하는 理由

- 한·일 BIT로 인해 일본기업의 對韓투자가 증가하는 이유로는 「BIT가 한·일 FTA로 가는 과정이라고 생각하므로(33.3%)」, 「일본 투자자(잠재 투자자)의 투자불안 심리 제거(30.3%)」, 「투자협정 체결이 장기적으로 對韓投資의 코스트를 낮춰주는 역할을 할 것이므로(15.2%)」, 「월드컵 공동개최 등을 통한 對한국 이미지 개선이 BIT 체결을 통해서 투자로 연결(12.1%)」, 「일본 정부의 정책방향에 업체가 동참할 가능성이 높으므로(9.1%)」의 순으로 나타났음.
- 즉 일본기업인들이 「BIT가 한·일 FTA로 가는 과정이라고 생각하므로(33.3%)」, 일본 투자자(잠재 투자자)의 투자불안 심리 제거(30.3%)」를 對韓투자 증대의 가장 큰 이유로 지적하였다는 점에서도 한·일 FTA에 대한 높은 기대감을 읽을 수 있음.

□ BIT에도 불구하고 日本企業의 對韓投資가 増加하지 않는 理由

- 한편, 한·일 BIT체결에도 불구하고 일본기업의 對韓투자 확대에 연결되지

않는 이유로는 「한·일 기업간의 경합관계로 인해 일본기업의 대규모 對韓 투자가 곤란함」이 42.1%로 가장 높았고, 「한일간에 BIT 협정이 체결된다고 해서 한국의 투자 환경이 크게 개선된 것은 아니므로(36.8%)」, 「일본기업의 해외투자 여력이 부족하거나 이미 해외투자가 완료되었기 때문(10.5%)」, 「기타(10.5%)」 순이었음.

2) 回歸分析 結果

- 일본인투자함수를 계측하여 BIT의 일본인투자증대효과를 시산해 본 결과 그 효과는 미미하고 앞으로 2~3년의 시차를 두고 나타날 것으로 전망되었음.
 - 물론 이것은 어디까지나 이론적 추계치일뿐 이에 정책적인 의미를 크게 부여할 필요는 없음.
 - 다만 BIT에 의한 일본인투자촉진효과는 일본기업의 투자여력 증대, 일본의 투자환경 악화 등에 따른 투자창출효과보다는 한국이라는 투자선의 투자환경이 BIT로 인하여 여타 일본의 투자선 보다 개선된 결과 발생한 투자전환 효과라고 볼 수 있음.
- 따라서 BIT 못지 않게 일본의 투자여력이 對韓투자의 중요한 변수임을 고려할 필요가 있음.
- BIT의 일본인투자촉진효과가 적게 계측된 이유로는 설문조사결과에서 지적되었듯이 韓日 기업간의 경합관계로 인해 일본기업의 대규모 對韓투자가 곤란하다는 점, 韓日間에 BIT 협정이 체결된다고 해서 한국의 투자 환경이 크게 개선된 것은 아니라는 점, 일본기업의 해외투자 여력이 부족하거나 이미 해외투자가 완료된 점 등 한국측의 입지적인 투자촉진요인보다는 일본측의 투자억제요인이 크게 작용하기 때문인 것으로 해석됨.
- 나아가 이상의 계측결과는 일본인 투자가 확대되기 위해서는 BIT만으로는 매우 불충분하며 적극적인 차원에서 한국의 지속적인 투자환경 개선 및 투자유치노력과 일본측의 對韓협력이 필요함을 시사해줌.
 - BIT는 어디까지나 한·일간 투자촉진을 위한 필요조건이지 필요충분조건은 아님.

3. 韓日間 投資活性化 方案

(1) 投資活性化의 艱難들 除去

1) 勞使問題 解消

□ 勞使問題가 投資活性化의 最大 걸림돌

- 일본기업이 한국의 투자환경으로 가장 나쁘다고 평가하는 것이 바로 노사문 제임이 이번 설문조사에서도 재확인됨.
- 일본계기업의 노사분규가 歐美업체에 비해 특별히 심하지는 않은 편이나 실 제로 노사분규에 대한 일본기업인의 체감지수나 반응정도는 歐美기업을 훨씬 능가하고 있음.
- 특히 일본기업들은 「화합적 노사관계」를 중시한 나머지 노조의 요구를 일방 적으로 수용하는 경향도 많은데다 현지법인의 결정 권한도 부족한 점 등이 채산성을 악화시키는 요인으로 작용

□ 不法 勞使紛糾에 대한 嚴正한 對應과 紛爭解決機構 強化 緊要

- 이번 투자협정에서는 선언적인 차원에서 협력적 노사관계가 양국간 투자증진 에 기여한다고 규정함에 따라 앞으로 노사관계 개선에 총력을 기울일 것으로 기대됨.
- 이와 관련하여 특히 불법파업 등 불법 노동쟁의에 대해서는 엄격한 공권력을 집행하는 동시에 분쟁해결 기구역할을 강화하는 것이 무엇보다도 긴급함.

2) 投資메리트 提高

□ 投資 코스트면에서 劣位를 克服할 수 있는 技術開發力 등 長點浮刻

- 중국 경제의 부상으로 인해 일본기업의 투자 관심 대상 지역이 중국에 지나 치게 경사되고 있는 가운데 일본 업체의 對韓투자를 유치·확대하기 위해서는 한국의 투자메리트를 부각시키는 노력이 중요.
 - 특히 투자 코스트 면에서의 열위를 극복하고 한국의 장점인 높은 교육 수 준을 바탕으로 한 우수한 인력의 대량 고용을 통한 기술개발력(일본에서의 기술개발보다 한국에서의 기술개발이 코스트가 적고 효율적이라는 점)을 부각

□ 持續的인 投資인프라 擴充과 政策의 一貫性 確保

- 투자 인프라 확충 및 각종 세제 조치 등 최근 정부의 외국인투자 정책에 대 한 우대책의 지속적 홍보 등이 필요함.
- 정책의 일관성을 확보하여 일본기업인들이 한국을 투자처로서 신뢰할 만하다 는 인식을 심어주는 것이 중요.
 - 일본기업들 가운데는 한국정부의 투자유치 정책이 정권 교체 등으로 영향 을 받을 것인지에 대해서 우려하고 있는 기업들이 결코 적지 않음.

(2) 投資誘致努力 強化

- 양국의 산업이나 경제에 관한 데이터 제공 확충 특히, 중소기업에 대한 정보제공 노력 강화, 투자유치대상품목의 특정화 및 투자유치사업의 체계화, 투자유치활동에 대한 총괄기능 강화, 양국에 대한 올바른 인식확산을 위한 인적문화교류 강화 등은 일본의 對韓투자는 물론 한국의 對日투자활성화에도 필요함.

(3) 兩國間 積極的인 投資協力

1) FTA와의 一體化

- 투자협정이 보다 상승적인 효과를 보기 위해서는 결국 FTA와 일체화되는 것이 필요함이 설문조사에서도 드러남.
 - 투자협정으로 일본의 對韓투자가 증가하는 최대이유로서 BIT가 한·일 FTA로 가는 과정이기 때문임을 들고 있음.
 - 따라서 투자장벽의 제거는 물론, 무역장벽의 제거, 나아가 양국간 제도의 통일·조화까지를 포함한 FTA 하에서 보다 기업활동이 완전히 자유로워져야만 투자도 촉진될 수 있음.

2) 積極的인 投資協力

□ FTA體制 構築을 위한 對日逆調의 縮小와 産業協力 強化次元에서 投資協力

- 그러나 한·일 양국이 FTA의 체결이라고 하는 새로운 협력관계로 발전시켜 나가기 위해서는 한·일간 무역불균형 축소가 필요하며 이를 위해서는 산업협력 강화, 일본의 대한투자 확대를 통한 양국간 전략적 분업체제의 구축이 필요함.
- 이를 위해서는 무엇보다 현재의 양국간 기술력 격차와 대일 수입 의존적 구조를 인정하고, 양국이 투자협력에 보다 전향적으로 접근할 필요가 있음.
 - 핵심은 한국의 對日수입의존도가 심한 부품 및 소재, 하이테크 분야에서 일본으로부터 투자 유치를 확대함으로써, 양국간 상호보완적인 협력관계를 형성해야 한다는 것임.
 - 이를 통해 일본의 하이테크 기술과 자본이 한국의 숙련된 노동과 결합되면 對日무역적자도 감소될 수 있을 것으로 전망됨.
 - 이런 점에서 볼 때 <표 -1>과 같은 분야가 일본의 對韓투자유망분야가 될 것임.
- 이를 위해 일본은 보다 전향적인 자세를 가질 필요가 있음.
 - 한국에 비해 기술경쟁력이 앞서는 부문에서 일본이 對韓투자를 꺼려하는

자세를 지속한다면 한·일 BIT의 취지는 퇴색할 수밖에 없음.

- 그리고 이는 한·일간 자유무역협정 체결의 걸림돌로 작용해 동아시아 경제협력체 결성의 주도적 위치에 서고자 하는 일본의 궁극적 목적을 달성하는 데도 도움이 되지 않을 것임.
- 반면 일본이 한국에 중급기술을 이전하고 협력체제를 견지한다면, 일본은 남은 여력을 보다 상위 기술개발에 집중할 수 있을 것임.

<표 -1> 일본의 對韓투자유망분야

유 형	예 시
① 일본의 수출특화 품목중 경쟁력이 점차 약화되고 있는 반면, 한국의 경쟁력이 점차 개선되고 있는 품목	- 펌프, 볼베어링, 기어, 금형 등
② 여전히 일본의 경쟁력이 유지되고, 대일 의존도가 높은 품목중 한국에서 생산할 경우 상호 이익이 향상되는 품목	- 고부가가치가 전자부품·소재(PCB, 저항, 콘덴서 등)
③ 既투자가 이루어진 분야중, 한국의 시장확대 및 기술향상으로 인해 투자확대시 상호 이익이 증진되는 분야	- 자동차부품 - 전자부품(LCD, 전자관 등) - 기계류 및 부품(복사기, 공작기계용 수치제어장치, 광학기 및 렌즈 등)
④ 한국의 경쟁력이 향상된 분야로서 지분참여를 통해 자본이득을 얻을 수 있는 분야	- IT 서비스(전자상거래, S/W, 통신서비스, 온라인정보제공 등) - 엔터테인먼트(유선방송업, 영화, 음반, 애니메이션, 캐릭터, 게임 등)

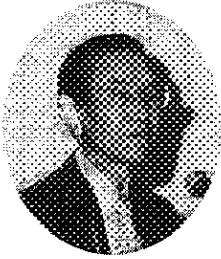
- 결론적으로 한·일 양국은 투자협정의 체결에만 만족치 말고, 더 나아가서 FTA체제 구축을 위한 실질적인 한·일 기술교류 및 투자협력 확대를 위한 토양을 조성해야 할 것으로 보임.

□ 相互補完의 水平的 分業體制 構築을 통한 東北亞 經濟圈의 競爭力 強化

- 한·일 양국 기업간 투자확대, 전략적 제휴, 기술이전 등을 통한 '개방적 협력 네트워크'를 형성함으로써 상호보완적 수평적 분업체제를 구축함은 동북아 경제협력 및 궁극적인 경제통합의 시금석으로 활용하여 동북아 경제권의 경쟁력을 강화하는데 도움이 될 것임.
- 이러한 의미에서도 자본과 기술에서 세계적 우위를 점하고 있는 일본의 리더십이 중요한 바, 일본기업의 對韓 투자확대, 전략적 제휴, 기술이전 등이 강화될 필요가 있음.

2. 日本側 백그라운드 페이지

『ICT(情報通信技術)을 中心으로 한 投資分野에 있어서의 韓日協力』



北岡 隆 (KITAOKA Takashi)

三菱電機(株) 相談役

① 미쯔비시전기의 키타오카입니다.

컴퓨터와 통신기술의 급속한 발전과 함께 전세계적으로 정보기술혁명, 소위 ICT혁명이 진행되고 있습니다. 인터넷이 용 고도화를 위한 통신 네트워크기반이 빠른 속도로 구축되고 있으며 앞으로는 정보전달이 더욱 빠르고, 더욱 편리해 질 것입니다. 이러한 가운데 오늘은 한일 양국간 투자교류 활성화를 위해 ICT분야의 양국간 협력관계 가능성에 대해 말씀드리겠습니다.

② 두말할 나위도 없이 단순히 '비즈니스 기회가 있다'는 이점만으로는 해외투자를 활발하게 유치할 수 없습니다. 적극적으로 투자하고 싶은 나라를 만들기 위해서는 경제, 사회의 기본조건을 갖추어야 합니다.

우선 첫째는 그 나라의 '거시경제의 안정', 즉 극도의 인플레이션 혹은 디플레이션 경제가 아니어야 하며, 또한 정치체제가 안정되어야 합니다.

다음으로 '개방적', 즉 국제적 거래나 국내외 자금 흐름에 관한 장벽이 가급적 없어야 합니다.

다음은 '국내시장의 건전성', 즉 순수하게 경쟁원리에 근거해야 합니다.

다음은 보수경제가 아니라 항상 '혁신(innovation)을 환영하는 경제'여야 합니다.

다음으로 수준 높은 교육과 노동시장의 유동성으로 인해 그 나라에서 충분히 '유능한 인재'를 채용할 수 있어야 합니다.

마지막으로, 효율적인 비즈니스 수행을 위해 필수적인 'ICT환경'이 수준 높게 갖추어져 있어야 합니다. 브로드밴드(초고속인터넷) 등 충실한 인프라 구축에 더하여 그 나라의 법 규제(規制)도 새로운 ICT환경을 최대한 활용할 수 있도록 재고되고 정비되어야 합니다.

③ 세계화(globalization)와 국경 없는(border less)경제화가 진행되는 가운데 대외 경제정책 과제로서는,

- 1) 자유무역추진과 제도 조화
- 2) 세계적 지역통합 동향
- 3) 경제구조개혁 등을 들 수 있습니다.

이러한 상황에서 세계 각국은 WTO의 다자간 무역자유화 협상을 추진하는 한편, 양자간 및 지역간 무역을 포함한 특별한 경제연계를 추진하는 지역통합을 가속화시키는 등, 다층(多層)적 통상정책을 전개하고 있습니다.

④ 구주 및 미주에 이어 동아시아에서도 지역통합의 움직임이 가속화되고 있습니다.

이 슬라이드는 일본을 중심으로 한 동아시아 지역통합 정세를 정리한 것입니다. 일본은 무역분야에 특화된 FTA뿐만 아니라 투자, 지적재산, 금융, ICT 등 폭 넓은 분야를 포함한 포괄적 경제연계 추진을 지향하고 있습니다.

이미 체결·발효된 일본-싱가포르 경제연계협정에 이어 일본-ASEAN 및 한일간 체결협상을 위한 노력을 전개하고 있습니다.

특히 한일FTA를 조속히 체결하여 무역, 투자 등 폭 넓은 분야의 협력관계 구축을 통해 양국간 경제연계가 심화될 것을 기대됩니다.

⑤ 이 슬라이드는 미주의 지역통합 동향을 나타낸 것입니다.

북미 NAFTA와 남미 MERCOSUR에 더해 2005년을 목표로 미주전역을 포괄하는 FTAA(자유무역지역) 형성이 진행중입니다.

이러한 지역통합이 진전되는 한편 한-칠레FTA가 체결되고 일본-멕시코, 일본-칠레, 일본-미국간 무역·경제연계가 검토되는 등 태평양을 횡단하는 지역통합 형성 움직임도 새롭게 시작되고 있습니다.

⑥ 이미 지상 서비스나 고정위성통신에 의한 브로드밴드(=초고속인터넷)화는 진행되고 있습니다만 오늘은 이제껏 그다지 중시되지 않았던 이동체에 대한 고품질 통신, 방송, 측위(測位)기능을 복합시킨 새로운 고부가가치 서비스, 즉 모바일(=휴대용기기) 서비스를 제공하는 시스템 구축에 대한 제안을 드리고자 합니다.

만일 아시아·태평양지역과의 협력(collaboration)이 가능해지면 모바일에 대한 다양한 요구가 실현되고 차세대 모바일 환경의 편의성, 쾌적성, 안전성, 경제성이 향상됩니다. 그래서 저희들은 준천정위성(準天頂衛星)을 이용한 서비스를 제안합니다.

준천정위성시스템을 이용한 사업전개를 위해 [신위성비즈니스 주식회사]가 미쯔비시전기(三菱電機), 히타치제작소(日立製作所), NEC토시바(東芝)스페이스시스템을 중심으로 한 40여개 기업들의 출자로, 작년 일본에서 설립되었습니다.

민간 기반의 [신위성비즈니스 주식회사]는 일본의 4개 정부부처(문부과학성, 총무성, 경제산업성, 국토교통성)와의 민관 협조를 통해 2008년 서비스 개시를 목표로 준천정시스템 구축을 위한 사업에 주력하고 있습니다.

、 이러한 준천정위성시스템을 이용한 사업은 일본과 지정확적으로 가까운 한국에서

도 이용환경이 우수하다는 점에서 한일양국의 민관협력에 의한 프로젝트가 실현된다면 상호 투자교류에도 박차가 가해질 것으로 크게 기대됩니다.

⑦ 그럼, 준천정위성시스템이 기존 위성통신에서 이용되는 정지위성(靜止衛星)과 어떤 점이 다른지 지금부터 설명 드리겠습니다.

통신·방송위성 등 정지위성을 바라보는 한국, 일본으로부터의 양각(仰角)은 약 45도 각도이며 위성에 대한 각도는 대부분 남쪽 방향으로 제한되어 있기 때문에 장소에 따라서는 건물 등에 차단되어 통신이 불가능한 경우가 있습니다.

지상파에서도 마찬가지로 건물에 가려서 통신이 불가능한 경우가 있으며 TV영상 등은 전혀 보이지 않는 불편함도 있습니다.

고양각 통신이 가능한 준천정위성은 이러한 정지위성의 결점을 보완할 수 있습니다.

위성이 항상 거의 바로 위에 보이므로 회선 차단이 줄어들어 고품질, 대용량에 따른 고속 이동체의 통신·방송이 가능합니다.

⑧ 제7항 내용과 관련하여

케도 상에서 준천정위성과 정지위성의 차이를 나타낸 그림입니다.

⑨ 준천정위성시스템의 실제 케도는 좌측 그림처럼 3기 위성을 사용합니다.

우측 그림은 지상에서 머리 위를 봤을 때의 준천정위성 케도입니다.

항상 위성이 머리 위에 위치하고 있는 점을 확인하실 수 있습니다.

⑩ 준천정위성의 이용 이점은,

1. 디지털 디바이드(digital divide) 해소
2. 고정밀측위서비스 실현
3. 이동체 사용자를 위해 간단한 통신수단을 제공

이상 3가지입니다.

상기 이점에 입각하여 준천정위성을 활용해서 차세대 통신, 방송, 측위를 복합시킨 고양각 모바일서비스 환경을 더욱 충실하게 구축할 수 있습니다.

예를 들어, 다음과 같은 응용이 가능합니다.

- 「이동체 멀티미디어 통신·방송」 (엔터테인먼트, 뉴스/재해정보, 개인항법장치 = personal navigation)
- 「고도 안전/치안(security)」 (위기관리, 개인안전, 치안유지)
- 「차세대ITS」 (도로/체중정보, 지능형 자동항법, 운행관리)
- 「다양한 요구」 (긴급의료, 산간지역이나 외딴 섬의 통신·방송, Field교육, 디지털 디바이드 해소)

⑪ 준천정위성시스템을 이용한 응용사례에 대해 말씀드리겠습니다.

먼저, 차량을 위한 카 라이프 서포트(car life support)로서

- 1) 차량의 보수상황 관리
- 2) 사고시 긴급 통보
- 3) 유지보수에 관한 정보연락 등이 가능합니다.

⑫ 차량을 위한 엔터테인먼트 서비스로서 자동차에 영화, 음악, 뉴스, 교통/날씨 정보 등의 콘텐츠를 제공합니다.

또한 휴대단말기나 가정내 단말기에도 같은 콘텐츠를 제공합니다.

준천장위성을 이용하면 건물 밀집지역이나 산간부에서도 수신이 가능합니다.

⑬ 보행자를 위한 서비스로서

- 1) 보행자에게 1 ~ 2Cm의 고정밀측위를 이용한 측위정보를 제공합니다.
- 2) 보행자의 휴대전화·PDA에 다양한 콘텐츠를 송신합니다.

⑭ 기업의 업무용 화물차를 대상으로 실시간 운행관리시스템을 제공합니다.

⑮ 준천정위성·GPS위성·947개소의 전자(電子)기준점을 십분 활용하여 고정밀측위 보정(補正)서비스를 실시합니다.

⑯ 큰 재해에 대응하는 위기관리시스템으로서 대지진, 화산 분화 등의 재해 시 준천정위성의 양질의 통신수단 활용을 통해 유관기관과 연대, 협조가 가능합니다. 신속한 정보수집과 구조·복구작업에 도움이 됩니다.

Japan-Korea Cooperation in the Investment Sector

-- Focusing on the ICT Sector --

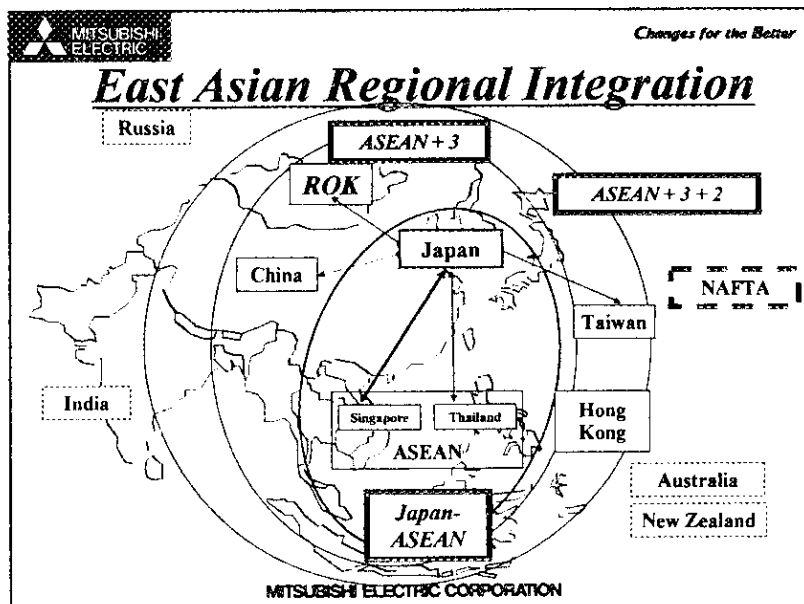
Takashi KITAOKA
Executive Corporate Adviser

MITSUBISHI ELECTRIC CORPORATION

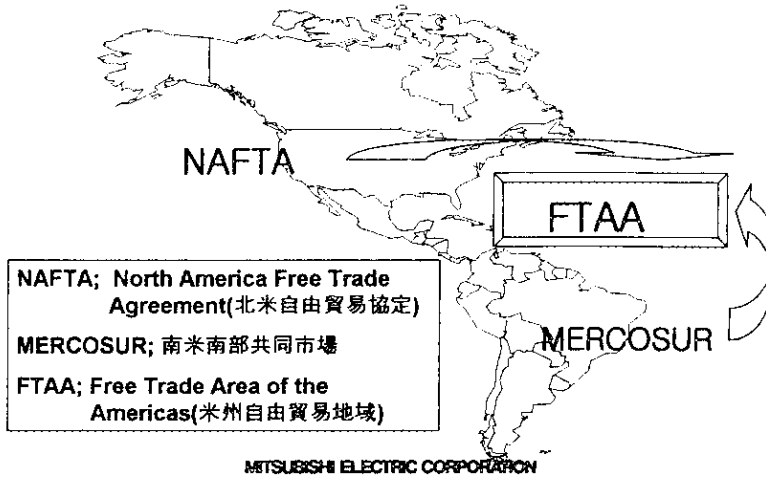
Fundamentals for Investment

- ***Macroeconomic Stability***
- ***Openness***
- ***Well-Functioning Markets***
- ***Innovative Economy***
- ***Higher Education***
- ***Labor Mobility***
- ***High-Level ICT Environments***

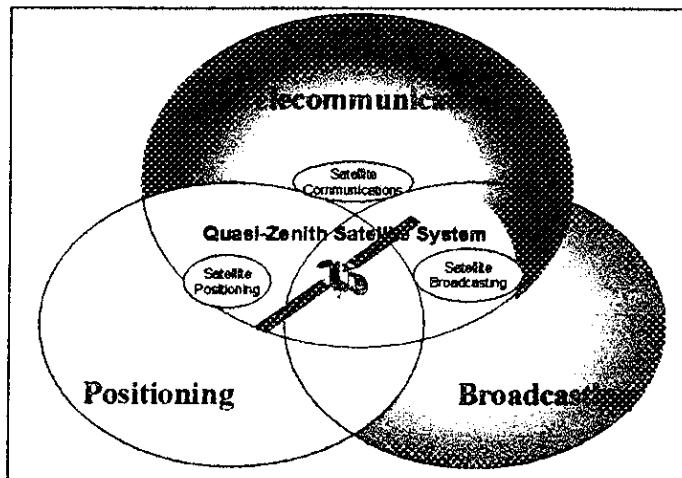
MITSUBISHI ELECTRIC CORPORATION



Regional Integration in the Americas

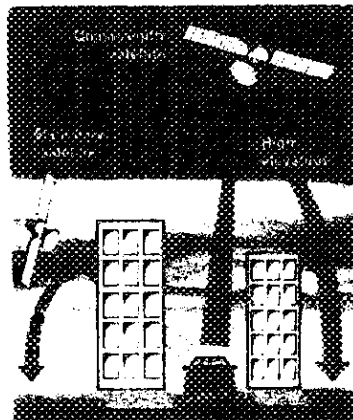


New Satellite Service



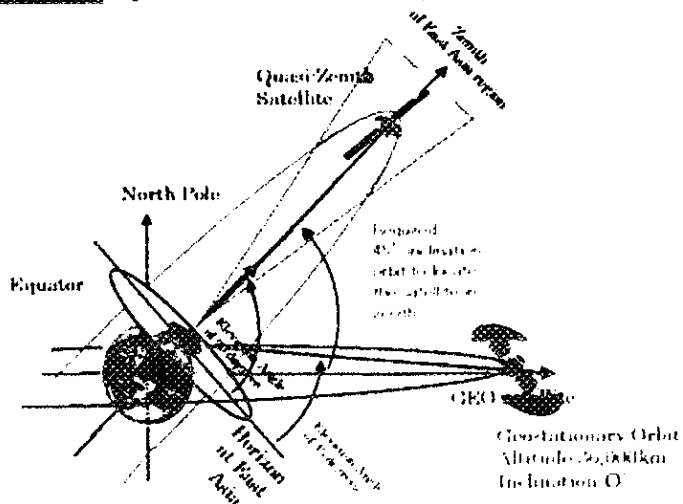
Quasi-Zenith Satellite Systems (1)

High elevation angle communication enables high quality communication, broadcasting and positioning with reduced link interruption.



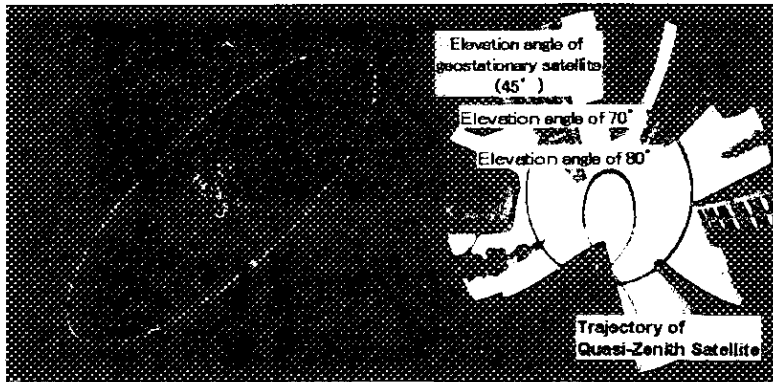
MITSUBISHI ELECTRIC CORPORATION

Quasi-Zenith Satellite Systems (2) *Changes for the Better*



MITSUBISHI ELECTRIC CORPORATION

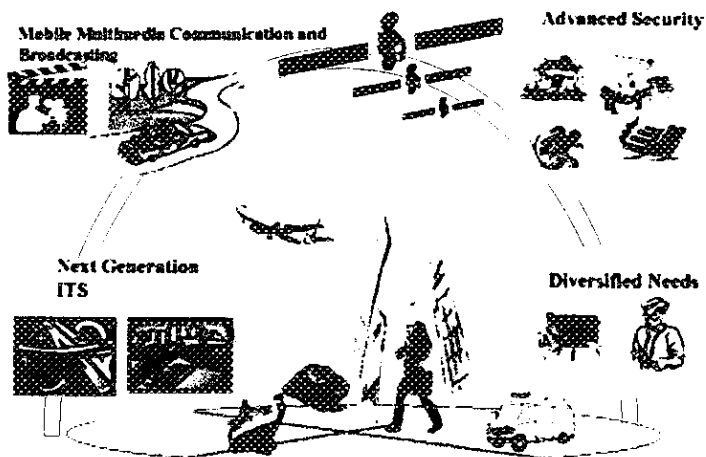
Quasi-Zenith Satellite Systems (3)



- The satellite constellation consists of three or more satellites to provide 24-hour coverage.
- Three orbital planes separated by 120° to provide same trajectory.

MITSUBISHI ELECTRIC CORPORATION

Advanced Mobile Communication



MITSUBISHI ELECTRIC CORPORATION

